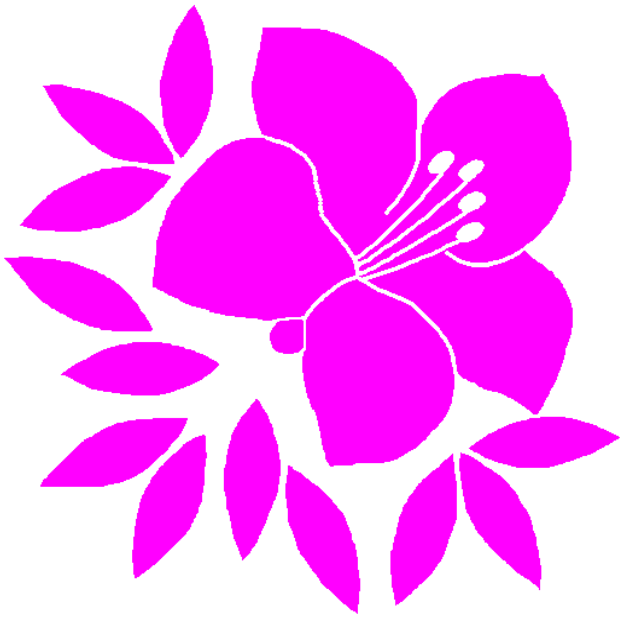
平成27年度

病院年報



泉大津市立病院

は じ め に

泉大津市立病院は、人口約7万人の泉大津市における中核病院として、市民および近隣の市からの患者様を受け入れています。
内科、外科、小児科をはじめとして12の診療科があり、市民のニーズに応えるべく日々努力を重ねていますが、近年における診療報酬の改定や患者様の要望に対する対応、そして医師やその他職員の確保など、地方の公立病院をとりまく環境は年々激しいものになっていくように常日頃感じています。

当院は市民の健康を守る総合病院として、新しい医療技術と設備をもって地域の診療所等との連携をはかりながら、病気の早期発見・治療にあたることを目標として病院理念を掲げ、以下の4点を中心に診療にあたっています。

・内視鏡を用いた消化器診療の充実
平成16年に設立した内視鏡センターを中心に内視鏡検査・治療を行い、外科医による内視鏡手術も積極的に行っています。

・こどもと女性にやさしい病院
以前より小児救急に力をそそいでいましたが、平成21年にはNICUを開設し、泉州地域における周産期および小児医療を担い、こどもと女性にやさしい医療の充実をめざしています。

・生活習慣病対策
生活習慣病（糖尿病、呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患、骨そしょう症など）は複数科の医師、看護師および多くの医療スタッフによるチーム医療を推進しています。

・高齢者にやさしい病院
年々増加する認知症の患者に対する専門外来を開設し、高齢者に対する医療を展開していくとともに、整形外科の充実をめざしていきたいと考えています。

今後、高齢者が多くなっていくことが予想され、行政では様々な方針があげられるようになってきましたが、まず、地域での病診連携・病病連携を大切にしながらの対応が大事ではないかと考えています。

本年報は平成27年度の各部門の活動・業績をまとめたものですが、当院の報告を御高覧いただき、今後の皆様の御指導や御助力をお願い申し上げる次第です。

院長　西　尾　順　子

基　本　理　念

１．良質の医療を提供し信頼され安心感を与える医療を実践します

２．地域の中核病院として地域全体の医療・福祉の向上に寄与します

３．常に向上心を持ち、協調の精神でチーム医療をおこないます

基　本　方　針

１．当院は、患者さんの立場に立ち、患者さんの権利を尊重した医療を実践します。

２．当院は、急性期医療を中心に地域医療を行います。

３．当院は、医療事故を防止し、医療の安全確保に努めます。

４．当院は、地域の医療機関と協力し、医療連携を推進します。

５．当院は、効率的な医療を行い、経営の健全化に努めます。

６．当院は、医療の質の向上のため研鑽に努めます。

職　員　目　標

１．社会性　良識ある社会人となろう

２．信頼性　信頼される医療人となろう

３．協調性　相互理解と協調の気持ちを持とう

４．創造性　向上心を持ち、創造的な考え方を持とう

５．効率性　効率性を考え、経済性の発揮に努めよう

泉 大 津 市 立 病 院

1

病院の沿革

１．病院の沿革

昭和２年４月	和泉伝染病院創設
５年６月	和泉公民病院創設 初代院長　樋渡雋二郎就任
13年２月	第二代院長 岩鶴　龍三就任
14年３月	第三代院長 比留間恵三就任
16年１月	眼科新設
17年４月	泉大津市制施行
７月	第四代院長 須賀　進就任
20年11月	第五代院長 小林正一就任
21年４月	第六代院長 舶松達一就任
23年８月	第七代院長 梅田悦二就任
24年12月	看護婦宿舎（木造瓦葺平家建）完成
25年５月	公立和泉病院に改称し総合病院として発足（内科、外科、婦人科、眼科、小児科、耳鼻科、放射線科）
27年３月	第五病棟木造スレート瓦葺平家建完成
28年５月	別館木造スレート瓦葺二階建完成
30年10月	完全給食実施
32年３月	本館鉄筋コンクリート三階建完成
33年10月	解剖室新設
35年12月	西館鉄筋コンクリート三階建完成
37年６月	第五病棟連絡通路の改築
38年４月	公立和泉病院分院和泉市に開設
40年３月	伝染病院（鉄筋コンクリート二階建）完成
42年３月	結核病棟新築（鉄筋コンクリート二階建）
44年６月	中央棟（鉄筋コンクリート四階建）完成 職員院内食堂新設
46年12月	看護婦宿舎新築（鉄筋三階建）
47年４月	泉大津市立病院に改称
48年４月	結核病棟70床を一般病棟に変更（一般病床計215床） 整形外科新設
50年11月	手術室、薬局、中央材料室、業務課（鉄筋コンクリート三階建）完成
52年４月	第八代院長 西村譲就任
６月	リハビリテーション室開設
53年５月	基準看護（特一類）実施
54年８月	外科診療室改装
10月	産科授乳室新設
55年６月	病院創設50周年、年誌発刊
58年10月	市立病院外来棟完成
平成３年11月	第九代院長 岡村光雄就任 院内に病院整備計画院内検討委員会を設置
６年５月	看護婦宿舎着工
７月	病院整備工事着工
７年２月	看護婦宿舎竣工
８年２月	北棟（鉄骨鉄筋コンクリート地上5階地下1階）竣工
９年４月	第10代院長 栗本博史就任
10年２月	南棟（鉄骨鉄筋コンクリート地上7階地下1階）竣工
10年５月	開院 病床数230床(一般215・伝染15床)
10年10月	グランドオープン
11年４月	第11代院長 岡澤　崇就任 伝染病棟（15床）廃止 病床数215床（一般）
11年10月	内科救急告示
12年４月	小児科救急告示
14年10月	院内全面禁煙実施
15年10月	管理型臨床研修病院に指定
16年６月	病院機能評価受審
16年９月	第12代院長 飯田さよみ就任
16年11月	病院機能評価認定
16年12月	内視鏡センター設立

平成18年９月	脳神経外科新設
19年４月	消化器病センター設立
20年４月	消化器内科新設
21年７月	第13代院長　永井　祐吾就任
９月	NICU棟（鉄骨造地上4階）竣工
10月	新生児内科新設
	地域周産期母子医療センター設立
	病床数230床
	病院機能評価受審
22年４月	病院機能評価認定
23年２月	院内保育所新設
24年11月	NASVA病棟開設
25年６月	第14代院長　西尾　順子就任
25年10月	地方公営企業法全部適用
	事業管理者　宮下　律子就任
平成27年３月	病院機能評価受審
	太陽光発電装置設置

2

病院の現況

概要と現況

職員の状況

病院各階の配置

職員構成

院内組織機構図

災害救助体制及び出勤表

平成27年度各種委員会

2．病院の現況

〔概要と現況〕

(1) 名　　称　泉大津市立病院(おづ病院)
　所 在 地　泉大津市下条町16番1号
　敷地面積　10,470.71 ㎡
　建築面積　3,591.72 ㎡
　延床面積　19,312.39 ㎡

(2) 診療科目　内科・消化器内科・外科・内視鏡外科・脳神経外科・整形外科(ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ)・産婦人科・小児科・新生児内科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・麻酔科・放射線科・健診科

(3) 病 床 数　230床

(4) 病　　棟

病　　棟	病 床 数
3　階　病　棟	55床
4　階　病　棟	55床
5　階　病　棟	54床
6 階 小 児 専 用 病 棟	23床
6　階　一　般　病　棟	28床
N　I　C　U　棟	15床

(5) 附属施設
　名　　称　泉大津市立病院看護師宿舎
　　(コーラルハウス)
　　および院内保育所 (おづキッズ)
　所 在 地　泉大津市下条町17番37号
　構造・規模　鉄筋コンクリート造3階建
　敷地面積　899.02㎡
　建築面積　413.56㎡
　延床面積　1,060.95㎡
　　(うち院内保育所84．00㎡)
　室　　数　28室

〔職員の状況〕

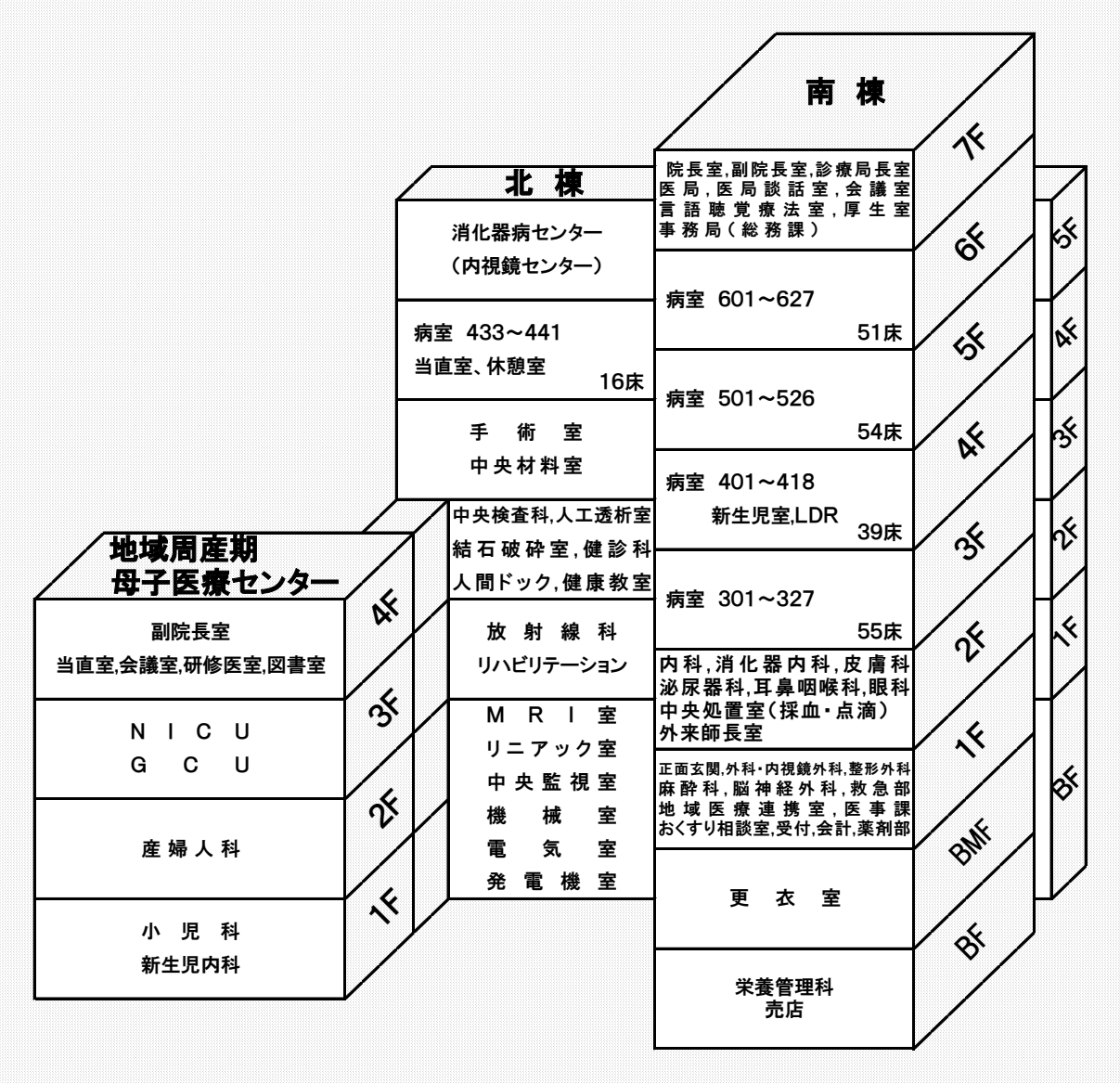
事業管理者	宮下　律子
名誉院長	三木隆己
病院長	西尾　順子
副院長	宇田　光伸
〃	金井　真
〃	梶川　博司
事務局長	森田　雅明
看護部長	鳥羽　敏子
薬剤部長	田辺　和史

(平成28年3月末日現在)

医　　師	45名
正看護師	192名
准看護師	1名
医療技師	50名
事 務 員	16名
M S W	4名

(平成28年3月末日現在)

●病院各階の配置


南 棟
北 棟
地域周産期
母子医療センター
院長室,副院長室,診療局長室
医局,医局談話室,会議室
言語聴覚療法室,厚生室
事務局(総務課)
消化器病センター
(内視鏡センター)
病室 601～627
51床
病室 433～441
当直室、休憩室
16床
病室 501～526
54床
手 術 室
中央材料室
病室 401～418
新生児室,LDR
39床
中央検査科,人工透析室
結石破砕室,健診科
人間ドック,健康教室
病室 301～327
55床
副院長室
当直室,会議室,研修医室,図書室
放 射 線 科
リハビリテーション
内科,消化器内科,皮膚科
泌尿器科,耳鼻咽喉科,眼科
中央処置室(採血・点滴)
外来師長室
N I C U
G C U
M R I 室
リニアック室
中央監視室
機 械 室
電 気 室
発電機室
正面玄関,外科・内視鏡外科,整形外科
麻酔科,脳神経外科,救急部
地域医療連携室,医事課
おくすり相談室,受付,会計,薬剤部
産婦人科
更 衣 室
小 児 科
新生児内科
栄養管理科
売店
7F
6F
5F
4F
3F
2F
1F
BMF
BF
5F
4F
3F
2F
1F
BF

〔職員構成〕

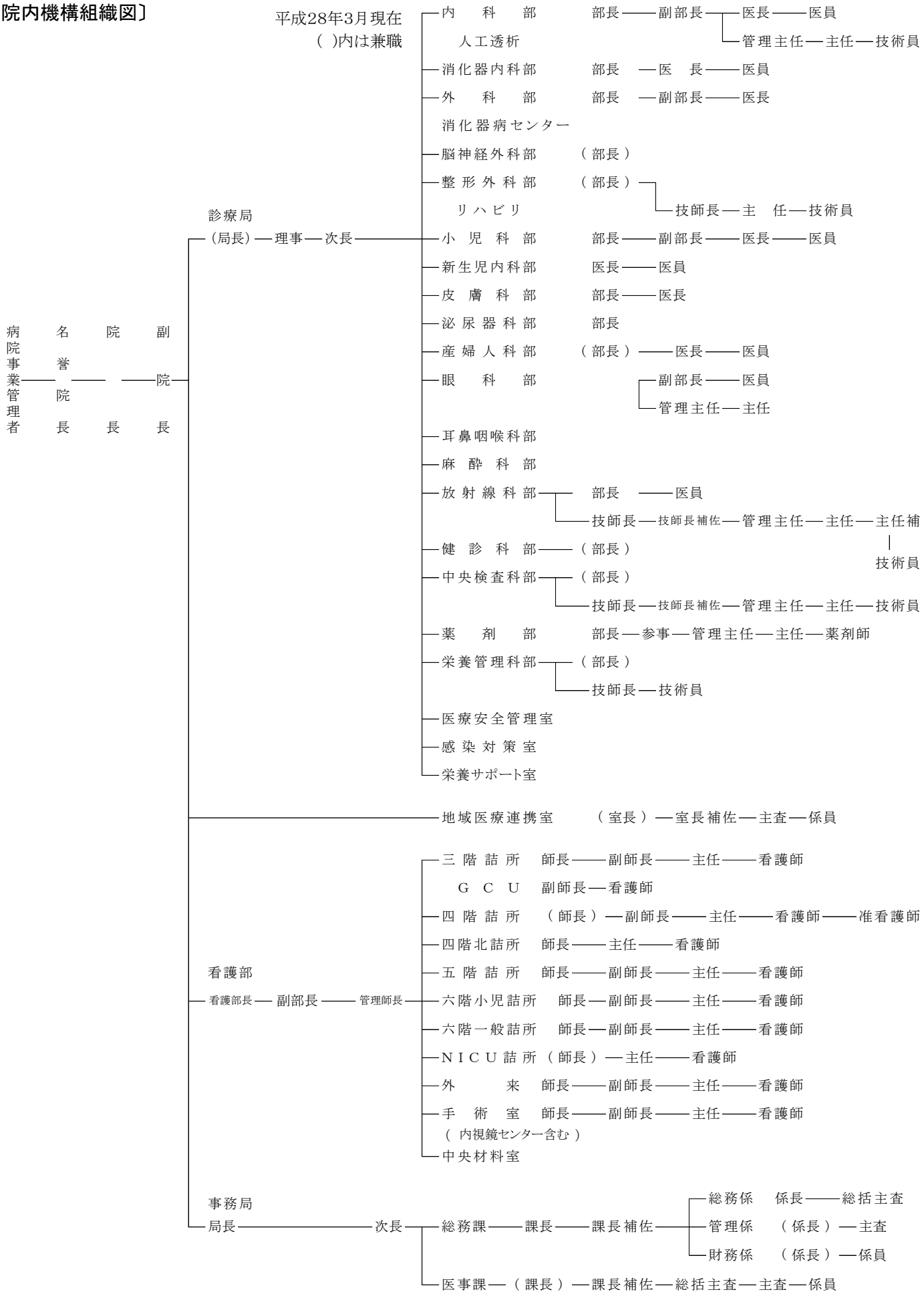
平成28年3月末日現在

区分		職員数							
		医師	正看	准看	看助	医技	事務	労務	計
病院事業管理者		1							1
診療局	内科部	6				5			11
	消化器内科	7							7
	外科部	7							7
	脳神経外科部	2							2
	整形外科部					12			12
	小児科部	4							4
	新生児内科	3							3
	産婦人科部	6							6
	眼科部	2				2			4
	耳鼻いんこう科部								0
	皮膚科部	2							2
	泌尿器科部	2							2
	麻酔科部								0
	放射線科部	3				9			12
	健診科部								0
	中央検査科部					11			11
	薬剤部					9			9
	栄養管理科部					2			2
看護部	看護部長		2						2
	三階詰所		26						26
	四階詰所		30	1					31
	四階北詰所		15						15
	五階詰所		26						26
	六階一般詰所		22						22
	六階小児詰所		18						18
	ＮＩＣＵ詰所		14						14
	三階詰所ＧＣＵ		15						15
	外来		9						9
	手術室		14						14
事務局	局長・次長						2		2
	総務課						8		8
	医事課						5		5
地域医療連携室		1°	1				5		6
計		45	192	1	0	50	20	0	308

( )は常勤嘱託
°は兼職

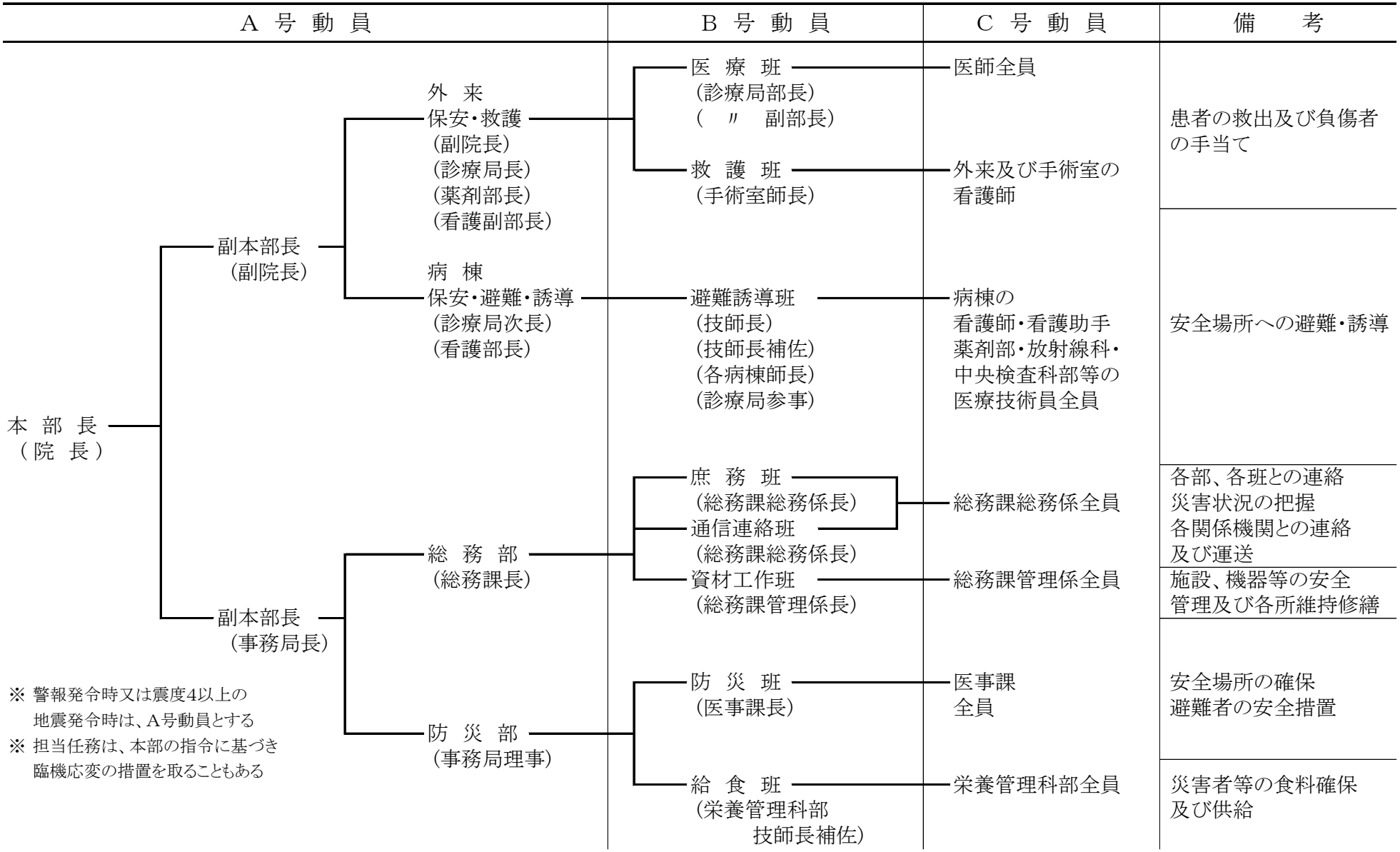
〔院内機構組織図〕

平成28年3月現在
( )内は兼職



災害救助体制及び出勤表

（平成28年3月末日現在）



※ 警報発令時又は震度4以上の
地震発令時は、A号動員とする

※ 担当任務は、本部の指令に基づき
臨機応変の措置を取ることもある

平成27年度　各種委員会

１．　統括会議
２．　運営会議
３．　治験審査委員会
４．　手術室委員会
５．　医療安全管理委員会
６．　医療安全管理部門
７．　クリニカルパス推進委員会
８．　輸血療法委員会
９．　ＤＰＣ・保険請求対策委員会
１０．　診療情報管理委員会
１１．　放射線障害防止委員会
１２．　院内感染対策委員会
１３．　学術委員会
１４．　薬事委員会
１５．　救急委員会
１６．　臨床検査委員会
１７．　臨床研修管理委員会
１８．　職員衛生委員会
１９．　医療ガス安全管理委員会
２０．　職員倫理委員会
２１．　化学療法委員会
２２．　周産期センター運営委員会
２３．　内視鏡センター運営委員会
２４．　接遇プロジェクト
２５．　病院機能評価委員会
２６．　褥瘡対策チーム
２７．　栄養管理委員会（ＮＳＴ）
２８．　緩和ケアチーム
２９．　呼吸ケアチーム
３０．　糖尿病療養指導委員会
３１．　患者支援取組評価委員会
３２．　ＮＡＳＶＡ委託病床運営委員会
３３．　勤務医負担軽減委員会
３４．　透析機器安全管理委員会
３５．　個人情報保護委員会
３６．　人権・虐待対策委員会
３７．　災害対策委員会
３８．　災害マニュアルチーム
３９．　健診委員会
４０．　広報委員会
４１．　人事評価(制度)委員会

3
診療局の現況

内科、消化器内科
外科・内視鏡外科
消化器病センター
脳神経外科
整形外科
小児科
新生児内科
皮膚科
泌尿器科
産婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
麻酔科
放射線科
健診科
中央検査科

３．診療局の現況

内科、消化器内科

【スタッフ】

内　　科　：破戸部長、野村副部長、岡本副部長、設楽副部長（２７年９月職）、
松井医長、沼口医員、三島医員

消化器内科　：山形副院長、格谷部長、青松部長、早川部長、勝野医長、柳井医員、
杉村医員

【概要、実績】

外来延べ患者45,411人（１日平均186.9人　前年度比0.2人減）入院延べ患者21,217人（１日平均58人　前年度比6.5人減）と減少した。（表１）

入院患者疾患別分類を見ると、呼吸器は増加し、消化器、循環器、腎、尿路系が減少した。腎、尿路系の減少は27年9月の腎臓内科医の退職が大きく影響していると思われる。（表２）

表1　過去5年間 延べ患者数

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
外来	40,460	40,845	44,265	44,567	45,411
（一日平均）	165.8	166.7	181.4	187.1	186.9
入院	24,980	24,959	25,288	23,535	21,217
（一日平均）	68.3	68.4	69.3	64.5	58.0

表2　入院患者疾患別分類

	25年度	26年度	27年度
消化器	538	610	537
呼吸器	295	264	303
循環器	138	103	84
新生物	207	203	224
感染症	96	106	84
内分泌・代謝	194	107	102
腎・尿路	147	145	92
神経・精神・筋	53	54	55
血液・免疫	31	37	41
その他	91	66	75
総数	1,790	1,695	1,597

２６年度から透析患者の送迎サービス、午前・午後透析の実施や透析室増床（１１床から１６床）により透析件数は著明に増加していたが、２７年度は腎臓内科医の退職に伴い透析件数も減少を余儀なくされた。（表３）。

表３　　透析件数

	24年度	25年度	26年度	27年度
月間透析件数	215	343	494	470

新しい取り組みとして、２７年２月より睡眠時無呼吸症候群の１泊入院による検査を開始した。検査結果により適切な医療機関へ紹介している。

表4　検査件数

	25年度	26年度	27年度
レントゲン			
上部消化管	9	22	28
注腸	8	5	25
胆のう	0	0	0
骨密度	137	99	218
冠動脈ＣＴ	88	55	54
内視鏡			
上部消化管	3,871	3,673	3,558
下部消化管	2,158	2,089	2,178
カプセル	8	12	23
小腸	34	16	14
気管支鏡	36	35	58
超音波			
腹部	2,828	3,076	3,085
心臓	1,397	1,509	1,193
頸動脈	244	154	194
甲状腺	246	295	287
心電図	2,500	2,573	2,724
ホルター心電図	152	115	108
心臓カテーテル	10	6	14
脈波図	305	247	288
ペースメーカー	4	2	4
睡眠時無呼吸		2	8

消化器疾患入院患者では大腸ポリープが２６３人と目立った。当科では原則外来にて大腸ポリペクトミーを施行しているが、ポリープの大きさや個数、患者の希望により１泊入院としている。また、当院は炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の専門家の在籍する病院として近隣の医療機関からも積極的に患者紹介を受け入れているが、最近の治療の進歩により、外来での治療が可能な症例が増え、入院患者は減少傾向である。（表５）

表5　入院患者　主な消化器疾患

	25年度	26年度	27年度
食道癌	6	0	2
食道炎	9	10	4
食道胃静脈瘤	21	8	7
胃癌	65	45	37
胃十二指腸潰瘍	40	30	22
大腸癌	13	7	11
大腸ポリープ	202	285	263
腸炎	75	88	71
虫垂炎	2	0	1
潰瘍性大腸炎	14	2	7
クローン病	19	10	10
腸閉塞	23	18	13
肝臓癌	49	55	51
慢性肝炎	4	4	0
肝硬変	29	20	33
その他肝疾患	27	31	13
胆石症　胆のう炎　総胆管結石	32	60	62
胆のう癌　胆管癌	8	4	4
膵臓癌	6	6	6
膵炎	12	31	31
その他	194	129	84
総計	850	843	732

糖尿病部門では月１回の糖尿病教室（表６）、年１回の市民セミナー（表７）を行った。１０日間の糖尿病教育パス入院や糖尿病地域連携パスを引き続き稼働させた。

また、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士で構成された糖尿病療養指導チームで糖尿病診療のチーム医療を行った。

表6 平成27年度 糖尿病教室

日時		テーマ	講師
平成27年	4月21日	室内でできる簡単運動療法	宇野理学療法士
	5月19日	糖尿病治療の基本は正しい食事から	大北管理栄養士
	6月16日	日本糖尿病学会最新情報	沼口医師
	7月21日	糖尿病合併症について	三島医師
	8月18日	糖尿病網膜症について	眼科　塩地医師
	9月15日	糖尿病性腎症について	沼口医師
	10月20日	運動の効果と続けるコツ	宇野理学療法士
	11月17日	災害に備えて	松岡薬剤師
	12月15日	年末年始、上手に乗り切る食生活のポイント	大北管理栄養士
平成28年	1月19日	生活習慣病と骨粗鬆症	岡本医師
	2月26日	糖尿病と動脈硬化	三島医師
	3月15日	糖尿病と癌について	沼口医師

表7 糖尿病 市民セミナー

「糖尿病っていわれたら・・・」	司会　川知　雅典先生
平成２８年3月１２日　テクスピア大阪	（川知内科クリニック院長）
「糖尿病の合併症を予防しよう！（健康寿命を延ばすために）」	講師　三島　誉史先生
「健康寿命を保つためのフレイル予防って知ってますか？」	講師　沼口　隆太郎先生
「座ってできるリズム運動」	講師　宇野　和浩理学療法士
「糖尿病井戸端会議」　（クイズ形式で会議に参加！）	

【平成27年度業績】

【論　文】

松井　秀記　「気管支胸腔瘻を併発した肺放線菌症の１例」
気管支学　３８巻１号　Page26－31

【学会、研究会、講演会など】

柳井　理恵子　「カプセル内視鏡で小腸病変を認めた成人ＩｇＡ血管炎の１例」
第９４回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　２７年６月２０日　大阪国際交流センター

柳井　理恵子　「遷延する低血糖をきたしたＩＧＦ－Ⅱ産生肝細胞癌の１例」
第１０３回日本消化器病学会近畿支部例会　２７年９月２６日　大阪国際交流センター

柳井　理恵子　「急激な体重減少をきたした糞線虫症の１例」
第２１０回　日本内科学会近畿地方会　　２７年１１月２８日　神戸国際会議場

山形　知　「人間ドック・検診・生活習慣病」
泉大津市立病院市民公開講座　　２８年1月２３日　テクスピア大阪

沼口　隆太郎　「当科における糖尿病治療の現状」
第５７回　おづカンファレンス　２８年2月９日　ホテルレイクアルスターアルザ泉大津

外　科　・　内視鏡外科

【概　要】

平成２７年度外科・内視鏡外科スタッフは野口浩平副院長、庄野嘉治主任部長、中禎二部長、石田興一郎部長、田村耕一副部長、合田太郎医長（小児外科）、小松弘明医長（呼吸器外科）の７名の常勤医と上西幹弘特任部長（乳腺外科）、諸富嘉樹医師（小児外科）の２名の非常勤医の９名で診療・手術を行ってきた。外来受診患者、入院患者は横ばい傾向であるが、新規紹介患者が増加してきている。年間の手術件数は前年度と比較し若干減少したが、これは呼吸器外科常勤医の退職に伴うものであり、消化器癌の手術件数は減少していない。

当院は大阪府指定地域がん拠点病院に指定されており、外科手術のみでなく地域のがん治療支援病院としての責務を担っており、がんに対する外科手術のみでなく外来化学療法室でのがん化学療法、地域医療連携室と密に連携し外科医を中心としてがん相談支援に取り組み、地域がんパスの導入も積極的に行っている。また、庄野嘉治主任部長を中心にがん緩和医療チームを立ち上げ、緩和ケア研修会を定期的に開催し緩和ケアチームによるがん緩和医療を各科横断的に行っている。前年度に引き続き小児外科外来、大腸・肛門疾患外来、肝胆膵外来などの特殊外来を開設し市民の健康を第一とした医療を目指している
部長を中心に積極的に渉外活動を展開し病診連携、病病連携をさらに推進することで地域医療に対する貢献度を更に高めていく所存である。

【平成27年度業績】

Yoshikawa K, Ishida K et al : Effect of Daikenchuto, a Traditional Japanese Herbal Medicine, after Total Gastrectomy for Gastric Cancer: A Multicenter, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Phase II Trial. J Am Coll Surg. Aug;221(2):571-8. 2015

Kubota A, Goda T, et al: Effect and safety of strong acid electrolyzed water for peritoneal lavage to prevent surgical site infection in patients with perforated appendicitis. Surg Today 45:876-979, 2015

三谷泰之, 合田太郎他: 遷延性黄疸を呈した新生児および乳児に対する細径針を用いた穿刺胆道造影の検討. 日本小児外科学会雑誌 51(5):884-888, 2015

野口浩平他: 結腸直腸癌肝転移に対する肝切除術の予後因子の検討. 第115回日本外科学会総会, 2015.4, 名古屋

中 禎二他: 胃穿孔合併胃石を腹腔鏡補助下にて内視鏡的胃石除去を行った1例. 第59回和歌山消化器外科談話会, 2015.4, 和歌山

中 禎二他: 当院の癌緩和ケアの現状と突出痛の薬物療法.第55回おづカンファレンス, 2015.5, 泉大津

合田太郎他：尿膜管遺残症に対する内視鏡下手術の適応について．第52回日本小児外科学会総会．2015.5，神戸

三谷泰之，合田太郎他：特徴的なX線画像を呈した結腸閉鎖症の１例．第51回日本小児放射線学会学術集会，2015.6，東京

庄野嘉治他：乳腺原発悪性リンパ腫の2例．第23回日本乳癌学会学術総会，2015.7，東京

石田興一郎他：当院での右側結腸再建の取り組み．第69回日本食道学会学術集会，2015.7,横浜

田村耕一他：当院における腹腔鏡下直腸癌手術の縫合不全防止への取り組み．第28回近畿内視鏡外科研究会，2015.9，和歌山

田村耕一他：当院における進行・再発大腸癌の治療方針と副作用対策について．第7回南大阪キャンサーチームカンファレンス，2015.9，堺市

田村耕一他：当院における腹腔鏡下左側結腸癌手術の定型化への試み．第60回和歌山消化器外科談話会，2015.10，和歌山

中 禎二他：ベバシズマブ併用化学療法が著効した脳転移を伴う直腸癌．第53回日本癌治療学会，2015.10，京都

中 禎二他：胃穿孔合併胃石に対する腹腔鏡併用内視鏡的胃石除去術．第90回日本消化器内視鏡学会，2015.10，東京

庄野嘉治他：腹腔鏡下大腸切除のアプローチ．泉大津外科の会，2015.11，泉大津市

庄野嘉治他：原発性十二指腸癌8例の検討．JDDW2015，2015.11，東京

野口浩平他：右側結腸癌に対するRPS（Reduced port surgery)における工夫．第77回日本臨床外科学会総会，2015.11，福岡

庄野嘉治他：閉鎖孔ヘルニア9例の検討．第77回日本臨床外科学会総会，2015.11，福岡

石田興一郎他：腹腔鏡下胃全摘術における胃脾間膜処理の工夫．第77回日本臨床外科学会総会，2015.11，福岡

田村耕一他：腹腔鏡下に整復し得た虫垂粘液嚢腫による腸重積症の１例．第77回日本臨床外科学会総会，2015.11，福岡

合田太郎他：一般市中病院における小児外科診療の現状（小児外科専門医1人体制の場合）．第77回日本臨床外科学会総会，2015.11，福岡

庄野嘉治他：腹腔鏡下右側結腸癌手術におけるアプローチの工夫．第28回日本内視鏡外科学会総会，2015.12，大阪

田村耕一他：当院における腹腔鏡下直腸癌手術の縫合不全防止への取り組み．第28回日本内視鏡外科学会，2015.12，大阪

合田太郎他：小児腹腔鏡下虫垂切除術における体内処理と創外処理の比較検討．第28回日本内視鏡外科学会，2015.12，大阪

阿多 亜矢子，中 禎二他：胸腹腔鏡下食道手術前体位デモンストレーションの取り組みについて．第28回日本内視鏡外科学会，2015.12，大阪

庄野嘉治：門脈ガス血症症例の診断・治療について．Surgical DIC Seminar，2016.3，堺市

石田興一郎他：膀胱浸潤を伴う播種再発に対してPTX + Ramucirumabが著効した再発胃癌の1例．第88回日本胃癌学会総会，2016.3，大分

庄野嘉治：第2回泉大津市立病院緩和ケア研修会企画責任者，2016.3，泉大津

消化器病センター

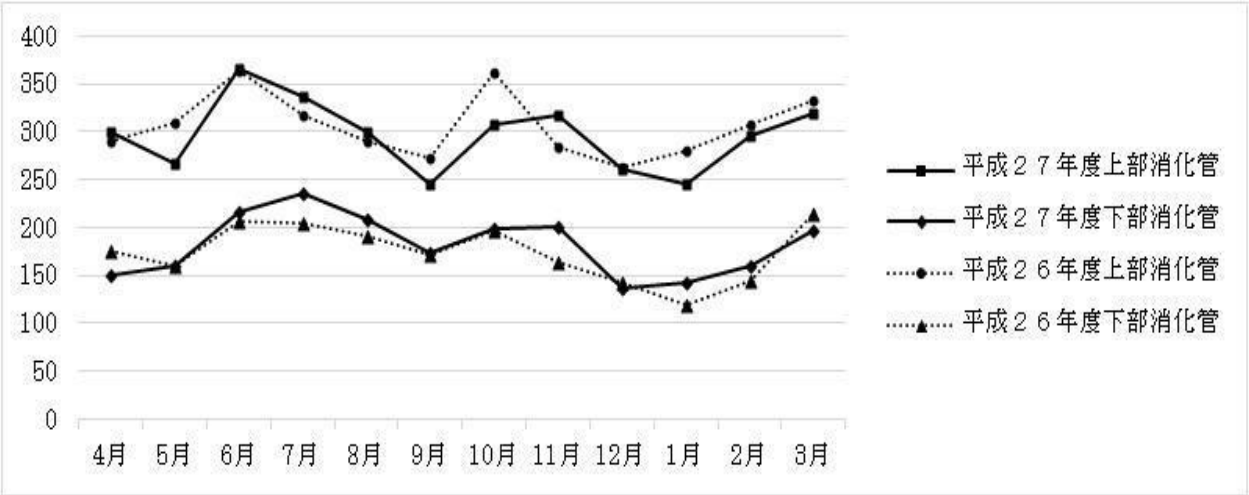
【スタッフ】

消化器内科医７名、外科・内視鏡外科医６名の合計１３名のスタッフで、日々協力しながら、消化器病診療を行った。

【検査件数】

上部消化管内視鏡検査は２６年度３，６６６件、２７年度３，５５８件の１０８件減、下部消化管内視鏡検査は２６年度２，０６１件、２７年度２，１７８件の１１７件増であった。

月別内視鏡検査件数



【内視鏡検査と治療件数】

	平成２５年度		平成２６年度		平成２７年度	
	上部消化管	下部消化管	上部消化管	下部消化管	上部消化管	下部消化管
総数	3,871 件	2,158 件	3,666 件	2,061 件	3,558 件	2,178 件
ポリペクトミー	0 件	298 件	0 件	346 件	2 件	376 件
EMR	13 件	461 件	5 件	418 件	4 件	410 件
ESD	54 件	1 件	43 件	3 件	35 件	3 件
拡張術	7 件	2 件	10 件	1 件	10 件	1 件
止血術	45 件	28 件	49 件	28 件	39 件	24 件
PEG	78 件		78 件		63 件	
EVL　EIS	37 件		29 件		13 件	
異物除去術	9 件		11 件	3 件	8 件	
ERCP	10 件		12 件		4 件	
EST　ENBD	67 件		53 件		62 件	
小腸内視鏡	34 件		16 件		10 件	
カプセル内視鏡	8 件		12 件		23 件	

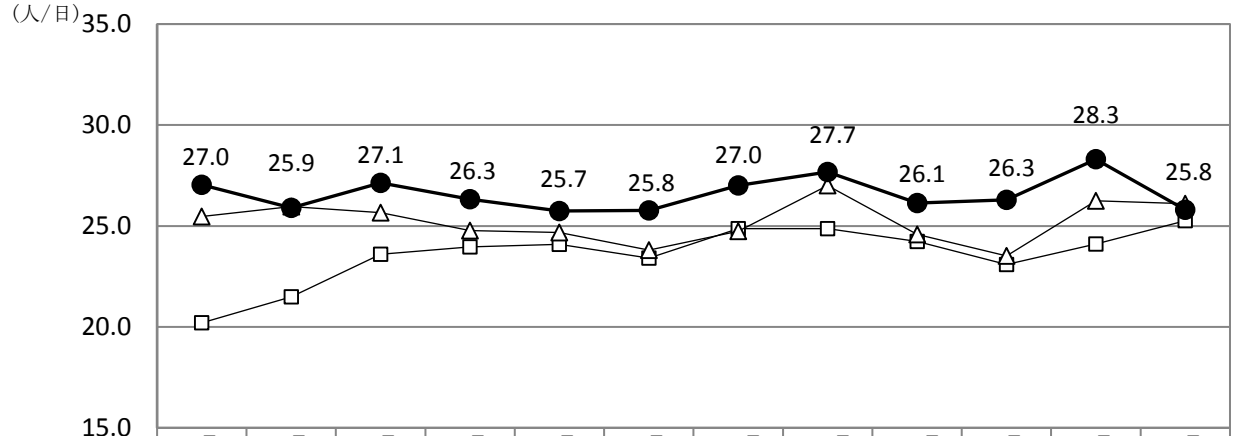
脳 神 経 外 科

【概　要】

平成２７年度医業収益については入院は増収、外来は減収であるが、入院が３億９１１万円、外来が４，０６１万円計３億４，９７２万円で、平成２６年度より増加しております。

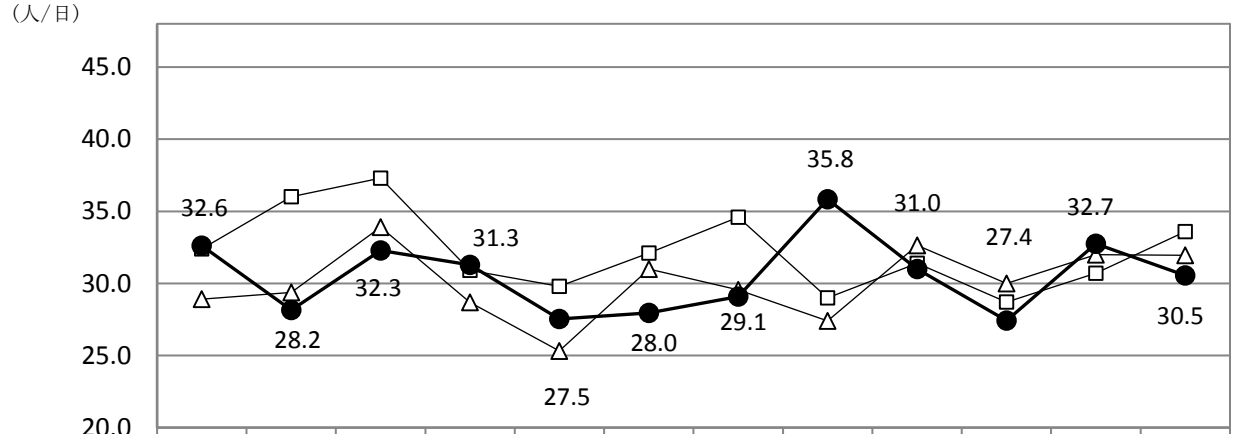
大学より医師１名が新たに赴任し、医師２名体制となったため、少し余裕をもって医療が行えるようになりました。

入院患者数



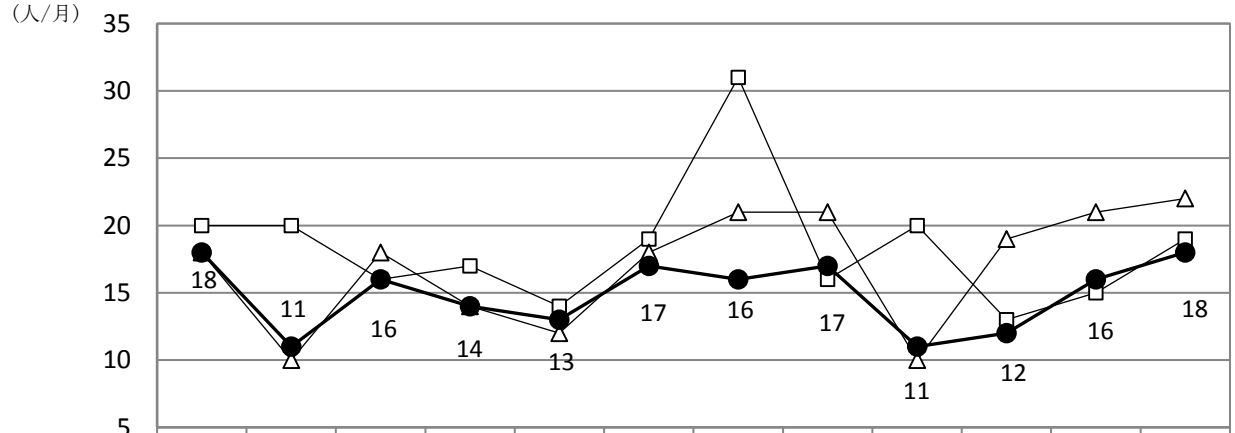
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H.25	20.2	21.5	23.6	24.0	24.1	23.4	24.9	24.9	24.2	23.1	24.1	25.3
H.26	25.5	26.0	25.7	24.8	24.7	23.8	24.7	27.0	24.6	23.5	26.3	26.1
H.27	27.0	25.9	27.1	26.3	25.7	25.8	27.0	27.7	26.1	26.3	28.3	25.8

外来患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H.25	32.4	36.0	37.3	30.9	29.8	32.1	34.6	29.0	31.4	28.7	30.7	33.6
H.26	28.9	29.4	33.9	28.7	25.3	31.0	29.5	27.4	32.6	30.0	32.0	32.0
H.27	32.6	28.2	32.3	31.3	27.5	28.0	29.1	35.8	31.0	27.4	32.7	30.5

新入院患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H.25	20	20	16	17	14	19	31	16	20	13	15	19
H.26	18	10	18	14	12	18	21	21	10	19	21	22
H.27	18	11	16	14	13	17	16	17	11	12	16	18

整　形　外　科

【概　要】

平成２６年３月常勤医師退職により、常勤医師不在となっている。外来においては非常勤医師の支援を得ているが、整形外科の診療体制としては、不十分な状況であるが、現状で行える医療の質は維持したいとは考えている。

【入院患者数】

	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
入院患者数	８６３人	０人	０人

【外来患者数】

	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
外来患者数	５，０７５人	４，７７５人	５，６７６人

平成２７年度　リハビリテーション室の実績

【概　要】

平成27年度リハビリテーション科は、脳神経外科医師の増員により脳神経疾患等リハビリテーション料Ⅰの施設基準を取得した。

リハ従事者は理学療法士7名、作業療法士3名、言語聴覚士3名で業務にあたった。

まずNASVA（自動車事故対策機構）委託病床では、遷延性意識障害の患者に対して、PT　OT　STが協力してリハビリテーションを実施した。

開設当初から入院された方は退院の時期を迎え、在宅復帰、あるいは他の施設や医療機関へ転院される方もおられた。

在宅復帰の場合、リハ科スタッフが事前に自宅を訪問して、家屋状況を評価、適切な介護用品を選定するなどしてスムーズな退院ができるよう援助した。

またNASVA病床では、開設3年目を迎え園芸療法の導入など、新しい試みを行っている。

外科周術期の患者に対しては、術後早期からリハスタッフが介入し、肺炎等術後合併症の予防に努めている。

当院は、大阪府指定がん拠点病院であるが、がんのリハビリテーションにも積極的に関わり、がんによって引き起こされる障害に対してリハビリテーションを実施している。

また、最近では誤嚥性肺炎などで入院される高齢者の方が多いため、STが摂食嚥下リハにも積極的に関わっている。

小児リハビリテーションの分野では、泉大津市役所子ども未来課と協力し幼児親子教室へのOT・STの派遣なども実施した。

近隣の病院で小児リハビリを実施している施設は少なく、泉大津市の掲げる「子育てのしやすい街づくり」に貢献しているものと考えている。

生活習慣病の分野では、糖尿病教室や糖尿病セミナーへの参加を通じて市民への啓蒙活動を行った。

またリハビリテーション科では、出前講座へ職員を積極的に派遣している。

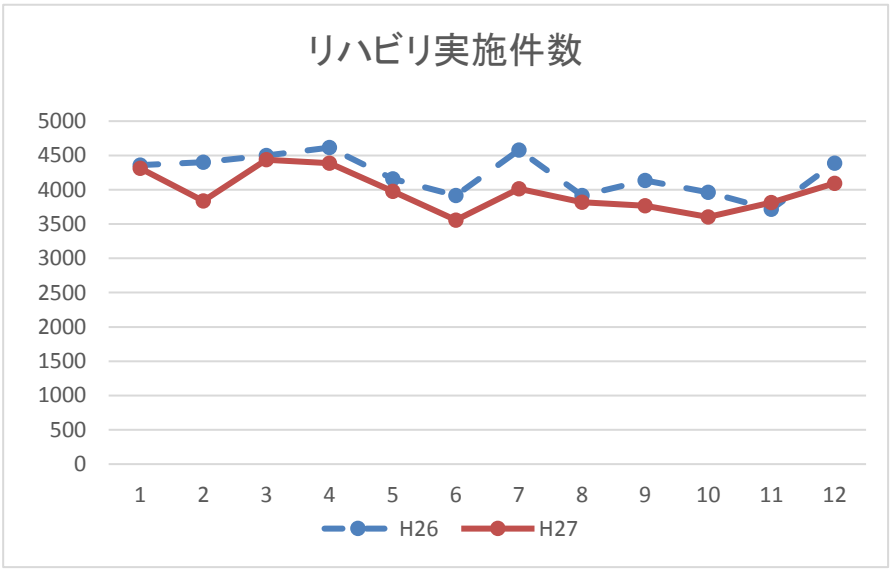
平成27年度はベルセンターでの運動教室等や転倒予防、認知症予防をテーマに合計19回実施した。

【各種認定取得者数】

3学会合同呼吸療法認定士	3名
糖尿病療養指導士	1名

月次報告（リハビリテーション部門・平成27年度）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
リハビリテーション部門	外来	運動器（Ⅰ）	49	73	77	87	85	96	80	75	53	44	44	78	841
		脳血管疾患（Ⅰ）	896	755	867	828	716	673	696	786	757	764	799	870	9,407
		呼吸器（Ⅰ）	0	0	0	2	1	0	0	0	1	1	2	0	7
		早期加算	11	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	13
		初期加算	11	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	13
		消炎鎮痛処置（マッサージ）	183	153	176	173	157	150	138	151	163	127	150	164	1,885
		リハ総合計画評価料	14	11	10	11	13	17	15	19	16	17	14	16	173
		小計	1,164	992	1,130	1,101	972	940	929	1,031	990	953	1,009	1,128	12,339
	入院	運動器（Ⅰ）	199	127	92	73	70	86	158	181	89	184	242	313	1,814
		脳血管疾患（Ⅰ）	2,468	2,348	2,888	2,773	2,461	2,250	2,549	2,222	2,343	2,168	2,282	2,270	29,022
		呼吸器（Ⅰ）	413	288	265	294	356	241	292	358	349	367	258	284	3,765
		摂食嚥下療法	164	105	92	109	137	80	140	127	81	44	25	80	1,184
		早期加算	798	627	826	803	700	618	886	727	711	815	660	959	9,130
		初期加算	408	354	408	483	365	404	507	429	380	502	409	463	5,112
		がん患者リハビリテーション	281	143	156	222	151	138	99	69	93	31	163	198	1,744
		退院時リハビリテーション指導	11	13	17	15	11	13	11	12	14	9	10	11	147
		リハ総合計画評価料	106	97	107	136	107	98	115	103	100	94	89	94	1,246
		小計	4,848	4,102	4,851	4,908	4,358	3,928	4,757	4,228	4,160	4,214	4,138	4,672	53,164
合計			6,012	5,094	5,981	6,009	5,330	4,868	5,686	5,259	5,150	5,167	5,147	5,800	65,503



平成27年度介護予防出前講座参加者数

No.	日程	参加者数	備考
1	H27.6.8	7名	ベルセンター
2	H27.6.9	9名	ベルセンター
3	H27.6.11	9名	ベルセンター
4	H27.6.12	6名	ベルセンター
5	H27.8.17	5名	ベルセンター
6	H27.8.18	6名	ベルセンター
7	H27.8.20	10名	ベルセンター
8	H27.8.21	9名	ベルセンター
9	H27.10.18	20名	春日町会館
10	H27.10.26	11名	ベルセンター
11	H27.10.27	6名	ベルセンター
12	H27.10.29	9名	ベルセンター
13	H27.10.30	11名	ベルセンター
14	H27.11.29	50名	南公民館
15	H28.2.22	13名	ベルセンター
16	H28.2.23	5名	ベルセンター
17	H28.2.25	7名	ベルセンター
18	H28.2.26	11名	ベルセンター
19	H28.3.20	30名	池園町自治会館
合計		134名	

小　　児　　科

【スタッフ】

常勤医

　　宮下律子　中西直之　木岡直美　原田智　栗並樹里

非常勤医

　　柳川敏彦　島友子　上硲仁美　熊谷健

臨床心理士

　　前川登代美　福井星仰

【概　要】

　平成２７年度は、和歌山県立医科大学より小児科腎臓外来医師中西浩一先生にかわって島友子先生が勤務となりました。和歌山県立医大より毎月1人から2人の研修医の先生が来られていました。

　当院産婦人科での出生で人工呼吸器装着の女児の地域受けれ入れ体制を整え、当科にてレスパイト入院を実施している。

【外　来】

外来患者数（１日平均）	１６１．８名
夜間救急外来（水、土）受診者数	３，０４５名／年
紹介患者数	３８５名／年
乳児健診数	９２７名／年
予防接種者数	５，６１１名／年
入院患者数	１，０００名（新生児は除く）

平成27年度　小児科病名別件数

呼吸器系	肺炎・気管支炎	163
	喘息・喘息性気管支炎	106
	咽頭炎	64
	上気道炎・扁桃炎	25
	急性喉頭炎・クループ	6
	気管欠損	1
	無気肺	1
消化器系	細菌性腸炎	37
	ウイルス性腸炎	34
	新生児黄疸	23
	腸重積症	7
	肝機能障害	6
	クローン病	6
	逆流性食道炎	3
	潰瘍性大腸炎	3
	急性胃潰瘍	2
	麻痺性イレウス	2
	膵炎	2
	便秘症	2
	腸管出血性大腸菌感染症	1
	虫垂炎	1
	急性肝炎	1
	肛門周囲膿瘍	1
	血便	1
	胃拡張	1
感染症	ＲＳウイルス	114
	マイコプラズマ	32
	インフルエンザ	30
	ノロウイルス性胃腸炎	19
	ロタウイルス	19
	アデノウイルス	13
	ヒトメタニューモウイルス感染症	11
	中耳炎	8
	手足口病	6
	リンパ節炎	5
	多形紅斑	4
	蜂窩織炎	3
	突発性発疹症	3
	カポジ水痘様発疹症	2
	ヘルパンギーナ	2
	ヘルペス・帯状疱疹	2
	ＥＢウイルス	1
	エンテロウイルス	1
	ウイルス性髄膜炎	1
	サイトメガロウイルス性肝炎	1
	ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群	1
	ウイルス性発疹	1
	代謝性アシドーシス	1
	脛骨骨髄炎	1
	感染性皮膚炎	1
	皮膚膿瘍	1
	ヘリコバクター・ピロリ胃炎	1
尿路系	ネフローゼ	12
	腎炎	7
	尿路感染	6
	尿膜管のう胞	1
	水腎症	1
	溶連菌感染後糸球体腎炎	1
血液・腫瘍	シェーンライン・ヘノッホ紫斑病	6
	特発性血小板減少性紫斑病	1
	血友病Ａ	1
	好中球減少症	1
	先天性赤血球形成異常性貧血	1
	血球貪食症候群	1
	血球貪食性リンパ組織球症	1
免疫系、アレルギー	川崎病	24
	アトピー	1
	薬疹	1
神経系	てんかん	32
	熱性痙攣	8
	めまい症候群	1
	顔面神経麻痺	1
	先天性痙性麻痺	1
代謝、内分泌	成長モルモン分泌不全	45
	ケトン性低血糖症	4
	思春期早発症	1
	下垂体機能低下症	1
	低血糖発作	1
	低ナトリウム血症	1
	不全型ベーチェット病	1
その他	低酸素性脳症	14
	染色体異常	13
	脳性麻痺	9
	広汎性発達障害	2
	小児心身症	2
	病的肥満症	2
	熱中症	2
	脊髄性筋萎縮症	2
	脊髄性小児麻痺	2
	るいそう	1
	頚部圧迫による窒息	1
	睡眠相後退症候群	1
	肺高血圧症	1
	急性痒疹	1
	腰痛症	1

新 生 児 内 科

【医療機関の指定･学会認定施設】

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設認定

【スタッフ】

周産期母子医療センター・ＮＩＣＵ　常勤医師

関谷　真一郎 （せきや　しんいちろう）	日本小児科学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法インストラクター
山口　正 （やまぐち　ただし）	小児疾患全般 新生児蘇生法「専門」コース認定
（平成27年3月31日退職） 赤川　友布子 （あかがわ　ゆうこ）	小児疾患全般 新生児蘇生法「専門」コース認定
（平成27年4月1日入職） 赤川　翔平 （あかがわ　しょうへい）	小児疾患全般 新生児蘇生法「専門」コース認定

周産期母子医療センター　非常勤医師・スタッフ

外来、病棟回診・指導

関西医科大学小児科講師

大橋　　敦	日本小児科学会専門医、日本周産期･新生児医学会新生児専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法インストラクター

大阪市立大学外科学教室講師

諸富　嘉樹	日本外科学会指導医、日本小児外科学会専門医 日本小児泌尿器学会認定医

和歌山県立医科大学眼科学教室

南出　文子	

臨床心理士

大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部准教授

石垣　莉沙	臨床心理士

宿直応援

大阪市立大学外科学教室（現　田附興風会医学研究所北野病院勤務）

林　　宏昭	日本外科学会専門医（泉大津市立病院外科非常勤）

関西医科大学小児科学教室

辻　　章志	日本小児科学会専門医、日本周産期･新生児医学会新生児専門医 新生児蘇生法｢専門｣コース認定
峰　　研治	日本小児科学会専門医、日本周産期･新生児医学会新生児専門医 新生児蘇生法インストラクター
中島　純一	日本小児科学会専門医、新生児蘇生法インストラクター ＰＡＬＳプロバイダー
平林　雅人	関西医科大学大学院、日本小児科学会専門医、新生児蘇生法「専門」コース認定
山内　壮作	関西医科大学大学院、日本小児科学会専門医、 新生児蘇生法「専門」コース認定
神田　枝理子	新生児蘇生法「専門」コース認定
鷲尾　隆太	新生児蘇生法「専門」コース認定

【診療体系】（主な診療内容と取り組み）

入院病棟・病床：　ＮＩＣＵ６床、ＧＣＵ９床

1）　診療疾患：

原則として出生直後または産科施設を退院していない新生児で、以下の入院基準を満たすものを診療対象とする。

（入院基準に一部変更あり。別表参照）

2）　他診療科との連携

産婦人科・小児科・小児外科医師、周産期病棟・ＮＩＣＵ・ＧＣＵ看護部、臨床心理士と合同でＮＩＣＵ病床利用委員会（周産期カンファレンス）を毎週金曜日に開催し、入院患者とハイリスク症例の情報交換ならびに治療方針検討を行っている。

3）　地域医療機関との連携

大阪新生児診療相互援助システム（ＮＭＣＳ）産科施設

平成２７年ＮＭＣＳ紹介新生児受け入れ実績　２３症例

平成２７年救急隊搬送新生児受け入れ実績　１症例

4）　専門外来

ＮＩＣＵ・ＧＣＵ退院後フォローアップ外来（兼シナジス外来、予約制）

乳幼児健診（１か月健診、後期健診）

【診療実績】

平成２７年入院内訳

入院数　　138

男女比 男75：女63

ＯＧＣＳ	19
ＮＭＣＳ	23
院内	95
救急隊	1

居住市町村	症例数
泉大津市	57
岸和田市	19
高石市	25
堺市	10
和泉市	12
貝塚市	3
泉北郡忠岡町	6
泉佐野市	1
泉南市	1
大阪府他	3
京都府他	1
合計	138

人工呼吸器使用	
babylog8000plus	2
SLE5000	1
NDPAP	29
器内酸素	10
なし	96

在胎週数症例数			
26	1	35	11
27	0	36	10
28	0	37	17
29	0	38	18
30	2	39	25
31	1	40	27
32	5	41	12
33	3	42	1
34	5		

（転入の症例を含む）

出生体重	症例数	%
＜1000	1	0.7
1000-1499	6	4.3
1500-1999	16	11.6
2000-2499	31	22.5
2500-2999	35	25.4
3000-3499	35	25.4
3500-3999	13	9.4
4000＜	1	0.7

入院時間帯	症例数	%
深夜帯０～７時	19	13.7
日勤帯８～１６時	84	60.4
準夜帯１７～２３時	36	25.9

転機

死亡　　０例

転院　　７例　　（大阪府立母子保健総合医療センター、近畿大学医学部付属病院）

他の１３１例はすべて軽快退院（うち1名は在宅医療へ移行）

疾患別入院症例分類　（重複あり）

病名		
早産・低出生体重児	低出生体重児	48
	不当軽量児	25
	極低出生体重児	5
	超低出生体重児	1
	早産児	37
呼吸不全	無呼吸発作	12
	胎便吸引症候群	9
	大量羊水吸引症候群	3
	新生児一過性多呼吸	23
	新生児特発性呼吸窮迫症候群	1
	気胸・縦隔気腫	10
	新生児肺出血	1
	その他の呼吸不全	1
循環器疾患	症候性動脈管開存症	3
	心室中隔欠損症	1
	単一臍帯動脈	3
	上室性期外収縮	2
	胎児頻脈	1
	非対称性心筋肥厚	1
	大動脈縮窄	1
代謝性疾患	早発黄疸	6
	遷延性黄疸	5
	新生児低血糖	19
	糖尿病母体児	16
新生児仮死 （超・極低出生体重児を除く）	重症新生児仮死	5
	軽症新生児仮死	7
	低酸素性虚血性脳症	1
新生児感染症	新生児敗血症	1
	尿路感染症	1
	新生児感染症（focus不明）	13
双胎	双胎第一子	4
	双胎第二子	5

病名		
消化器疾患	新生児嘔吐・哺乳不良	9
	ミルクアレルギー	1
	先天性十二指腸狭窄	1
	限局性腸管拡張症	1
	肥厚性幽門狭窄症	1
血液疾患	播種性血管内凝固症候群	1
	血小板減少症	1
	同種免疫性血小板減少症	2
その他の新生児合併症	墜落産	1
	帽状腱膜下出血	1
	羊膜索症候群	1
	未受診妊婦	1
その他の先天異常	口唇口蓋裂	3
	腎盂拡大	2
	停留精巣	1
	尿道下裂	1
	脳梁欠損	1
	両側声帯麻痺	1
	手指低形成	1
	Alagille症候群	1

【考 察】

泉大津市を中心とした泉州地区北部の周産期医療中核病院をめざしています。

大阪府や泉大津市の援助により平成21年10月に開設され、現在新生児集中治療室（NICU）6床、回復期病床（GCU）9床の合計15床で運営しています。平成22年には164名、平成23年には163名、平成24年には144名、平成25年には158名、平成26年には141名、そして平成27年には138名の新生児が入院しました。関西医科大学小児科学教室、大阪市立大学外科学教室の協力により、大阪新生児診療相互援助システム（NMCS）に参加して、365日24時間体制で救急入院に対応しています。

平成25年3月に前周産期センター長である北村直行先生が退職となり、常勤医3名体制は維持しているものの、経験年数がこれまでに比すると若くなっております。そのため、NICUの入院基準を平成25年4月1日より一部変更し、早産児に関しては受け入れ週数を在胎28週から32週へ引き上げました。また各種合併症が懸念される糖尿病母体児や一絨毛膜二羊膜双胎に関しては、出生時の合併症検索のため、全員一旦はNICUに入室するようになりました。不必要な母児分離を避けるため、そのような症例に関しては合併症等認めない場合には可及的速やかに母児同室へ移行させています。

NICUの入院基準を一部変更した後には、早産児・極出生体重児等の入院数は減少したものの、染色体異常症や重症新生児仮死児の在宅医療へ移行する症例を毎年経験しています。最初の症例を経験したときには、病棟としての在宅移行のためのマニュアル制作から、各種社会資源の調整等を行うといった当NICUでは開設以来初となる経験を致しましたが、2症例目以降は、そのときの経験を活かして退院準備や退院支援等が当院小児科病棟とも協力しつつ、比較的円滑に進めることが出来たと考えています。当院の取り組みとして、在宅医療を受けている児のレスパイト入院の受け入れを積極的に行っておりますが、当院から退院され在宅医療へ移行するお子さん達に関しても、長期的に外来でフォローする体制も整っています。そのような当院の特徴を活かして、今後とも在宅医療へ移行する児なども積極的に受入れていければと考えております。

また当NICUの特徴として『ファミリーセンタードケア』を今後病棟全体として実践していくべく、平成26年8月より両親の面会時間を順次延長し（平成27年1月からの24時間面会を目標として）、またGCUを患者毎にカーテンで仕切って半個室化出来るように、カーテンレールを新たに敷設する等、ソフト・ハード両面からの改革を進めています。

平成27年も救急隊搬送で自宅出産児（墜落産児）の入院が1名あり、また未受診妊婦からの出産も1名ありました。当院産婦人科は月2回、第一・第三土曜日に産婦人科一次救急を請け負っており、今後もこのような症例受け入れがあるものと考えられます。泉州北部に限らず堺市、大阪市、泉州南部からの入院もあり、今後とも広域に連携して周産期医療に貢献することが使命となっており、それに恥じない医療を提供できるようにスタッフ一丸となって精進していく所存です。

【業 績】

平成27年　発表、講演会、学会・研究会活動実績

平成27年5月9日　　：第12回泉大津市立病院地域周産期母子センター新生児蘇生講習会開催

皮　　膚　　科

【担当医師】

部長　　永尾　淳
医長　　星　郁里
（平成２８年３月現在）

【平成27年度紹介患者数】

計６０名

【平成27年度外来患者数】

計８，２０７名

【平成27年度入院患者数】

計２９名

【学会活動など】

1. Keratosis punctata palmoplantarisの一家系(会議録)
清水奈美，深井和吉，鶴田大輔，永尾淳，河野通浩
皮膚の科学(1347-1813)13巻5号Page396(2014.10)

泌　尿　器　科

【スタッフ】 梶川博司（副院長）、橋本潔（診療局次長兼部長）

【概　要】

平成２７年度の診療実績については一日平均外来患者数は４２．７人と前年度に比べ大幅に減少した。これは人事異動や長期投薬によるものと思われる。一日平均入院患者数は８．５人と前年度より微増した。ＥＳＷＬを除く手術件数は前年度に比べ約５０件減少した。手術内容については経尿道的膀胱腫瘍切除術や経尿道的尿管砕石術の減少が目立った。ESWL件数は前年度に比べ２３件減少した。

【平成27年度患者数】

入院患者数	８．５名／日
外来患者数	４２．７名／日

【平成27年度手術統計】

（腎・尿管・後腹膜）	
腎摘除術（開腹）	５ 例
腎摘除術（腹腔鏡）	３ 例
腎尿管全摘術	４ 例
腎部分切除術	３ 例
腎盂形成術（腹腔鏡）	１ 例
経皮的腎瘻造設術（ＰＮＳ）	２ 例
腎生検術	３ 例
その他	２７ 例
（膀胱）	
膀胱全摘＋回腸導管造設術	１ 例
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)	４９ 例
経尿道的膀胱生検術	５ 例
膀胱砕石術	８ 例
（前立腺・尿道）	
根治的前立腺全摘術	４ 例
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	９ 例
前立腺被膜下摘除術	１ 例
直視下内尿道切開術	５ 例
前立腺生検術	４７ 例
その他	１ 例
（陰茎・陰嚢）	
精巣摘出術	２ 例
精巣固定術	７ 例
陰嚢水腫根治術	４ 例
包茎手術	４ 例
（その他）	
内シャント造設術	５ 例

【平成27年度体外衝撃波結石破砕術件数】

腎結石	３０ 例
尿管結石	７３ 例
合計	１０３ 例

産　婦　人　科

【概　要】

産婦人科は平成16年7月以降、大阪市立大学産婦人科医局より医師が派遣され、平成27年度の常勤医師は以下のとおりである。

平成27年3月末で三枚医師・田中医師・今井医師が退職し、4月に北田医師と和田医師が入職した。長嶋医師は産休・育休のため休職となった。

全員が病棟入院患者の状態を把握し、対処できるようなチーム医療を目標としている。

平成23年4月～平成24年3月

職　名	氏　名	専門分野	備　考
院長 (平成26年6月就任) 産婦人科部長	西尾順子	産婦人科専門医 超音波専門医 母体保護法指定医 母体・胎児専門医暫定指導医 新生児蘇生インストラクター	平成16年7月入職
地域連携室長 産婦人科部長	竹林忠洋	産婦人科専門医 母体保護法指定医	平成19年4月入職
産婦人科医員	中川佳代子	産婦人科専門医 母体保護法指定医	平成24年4月入職
産婦人科医員	長嶋愛子	産婦人科専門医	平成26年4月入職
産婦人科医員	北田紘平	産婦人科専門医	平成27年4月入職
産婦人科医員	和田卓磨		平成27年4月入職

【外来診療体系】

午前：産科・婦人科の２診制で診療をしています。
子宮がん検診（市民検診）は月曜・金曜の8時30分より9時の間に予約をとって診察を行っています。
産科胎児超音波検査は、産婦人科医師が担当し、妊娠20週と30週前後にスクリーニングを行っています。
午後：特殊外来・予約診・検査や処置・産後検診・助産師外来を主とした診療を行っています。

助産師外来は、母乳に関する相談が多いが、妊娠・育児の相談や指導も行い、母乳トラブルの処置は時間外や休日に関しても受入れられるよう配慮しています。
ペアレントクラス、マタニティヨガ、インファントマッサージ等の教室も開催し、資格をもった助産師が指導を行っています。

産科診療
分娩に関してはできるだけ医療介入をおこなわず、自然な状態での分娩をと考えています。
骨盤位分娩や双胎妊娠の分娩様式に関しても、分娩様式は症例毎に考えています。
希望による無痛分娩に対しても、全員が対処できるよう入職した医師は数カ月麻酔科所属とし、研修をうけています。
分娩時の体位も妊婦の希望にこたえるよう配慮しています。
常勤医＋当直応援医により毎日の当直帯を担当し、夜間や休日の診療や、他院からの診療依頼・母体搬送に応じています。

婦人科診療
手術日は火曜・金曜とし、主に婦人科良性疾患(子宮筋腫・卵巣腫瘍・骨盤臓器脱・外陰部病変など)に対応しています。腹腔鏡下手術は卵巣のう腫や異所性妊娠に対しておこなっています。
悪性腫瘍に関しては、その状態と患者の希望により近隣の専門病院や大学病院へ紹介をしています。
不妊患者の相談に対しては、タイミング指導、排卵誘発、AIHなどの人工授精は可能ですが、体外受精の希望者に対しては他院への紹介を行っています。

他診療科との連携
総合病院である利点として、合併症のある患者について他科へのコンサルトが容易です。
緊急手術に関しては、麻酔科医師と手術場スタッフの協力で1時間以内には手術に臨める体制となっています。
合併症妊娠では、内科医師への依頼により治療が可能です。
平成21年10月にNICU病棟が本格的に稼働となり、妊娠30週以上で推定体重1500ｇ以上の児に対して対応可能となっていますが、状況に応じて新生児科医師と連絡をとりあっています。
当院外科では小児外科疾患にも対応は可能です。
週1回、小児科や新生児科医師との合同カンファレンスがあり、2か月に1回は泉大津市との連携で、虐待防止をふまえた社会的ハイリスク妊婦の連絡会を行っています。

地域医療機関との連携
・産科診療　セミオープン方式による分娩予約をおこなっています。
・和泉市立病院産婦人科や市立岸和田市民病院との協力体制
・大阪府産婦人科相互援助システム（OGCS）の加盟病院であり、母体搬送は年間40件前後をうけています。
・大阪府産婦人科一次救急受入れを月2回であるが協力しています。

【診療実績】

分娩統計　（平成２７年１月～１２月）

分娩様式	症例（単胎）数	症例（双胎）数
正常分娩(自然)	445	
(陣痛促進)	86	
(陣痛誘発)	76	
骨盤位経膣分娩	5	
吸引分娩	20	
鉗子分娩	1	
帝王切開	103	
選択的帝王切開	65	2
緊急帝王切開	38	1
中期中絶	4	
子宮内胎児死亡	8	
計	748	3

搬送受入れ（婦人科手術症例を含む）：56

当院から他院への搬送依頼症例は3例であった。

手術統計（手術場使用）

帝王切開術	選択的:67　緊急:39
異所性妊娠	5 (2)
単純子宮全摘術	8
筋腫核出術	5 (2)
卵巣良性腫瘍摘出術	23 (9)
卵巣悪性腫瘍手術	0
骨盤性器脱	3
その他小手術	21 (2)
計	171

（　　）内：腹腔鏡下手術・内視鏡手術

その他病棟処置室での小手術は流産手術や子宮頚管ポリープ、筋腫分娩、今次ローマ焼灼等で年間100例前後を数えています。

眼　　科

【概　要】

稲垣直人部長が平成27年3月で退職し、4月より芳田裕作副部長が新たに赴任し、塩地麻裕華医師との2名体制で27年度を迎えた。また、手術機器として硝子体手術装置であるコンステレーション（Alcon社）およびその周辺機器を導入した。

【手術件数】

（手術室）

超音波白内障手術	２１６ 件
眼内レンズ縫着術	１ 件
硝子体手術	８ 件
ルセンティス硝子体注射	５４ 件
アイリーア硝子体注射	２３ 件
ケナコルトテノン嚢下注入	２１ 件
翼状片	１ 件
結膜嚢胞	２ 件
その他	２ 件
計	３２８ 件

（レーザー手術）

網膜光凝固術	３５ 件
ＹＡＧ後発切開術	３９ 件
レーザー虹彩切開術	６ 件
計	８０ 件

耳 鼻 咽 喉 科

【医局の現況】

平成２２年９月より常勤医師が不在となり、以降は非常勤医師により外来診療を行っている。

非常勤医師　　坂口喜清医師　木村忠司医師　藤原良平医師　速水康介医師　白石功医師

【入院患者数】

	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
入 院 患 者 数	０人	０人	０人	３７３人

【外来患者数】

	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
外 来 患 者 数	５，０１０人	５，１４５人	５，５４４人	６，００５人

麻　　酔　　科

【概　要】

平成２７年度は非常勤の体制で６２７件（全て手術室内）を実施し、その内訳は下表のとおりであった。

【麻酔法】

A.全身麻酔(吸入)	390	F.硬膜外麻酔	1
B.全身麻酔(TIVA)	1	G.脊髄くも膜下麻酔	32
C.全身麻酔(吸入)＋硬・脊、伝麻	177	H.伝達麻酔	0
D.全身麻酔(TIVA)＋硬・脊、伝麻	1	X.その他	0
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA	25		
		合　計	627

【年齢構成】

	男性	女性	合計
A.～1ヶ月	0	0	0
B.～12か月	8	3	11
C.～5歳	26	19	45
D.～18歳	27	25	52
E.～65歳	115	151	266
F.～85歳	147	88	235
G.86歳～	6	12	18
合計	329	298	627

【体位】

1.仰臥位	494	4.切石位	66
2.腹臥位	9	5.坐位	0
3.側臥位	57	6.その他	1
		合　計	627

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	0	h.頭頚部・咽頭部	92
b.胸腔・縦隔	37	k.胸壁・腹壁・会陰	87
c.心臓・血管	0	m.脊椎	0
d.胸腔＋腹部	1	n.股関節・四肢(含:末梢神経)	0
e.上腹部内臓	124	p.検査	12
f.下腹部内臓	249	x.その他	0
g.帝王切開	25		
		合　計	627

【ASA PS】(危険度)

予定	1	2	3	4	5	6(臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
	222	301	16	0	0	0	539
緊急	1	2	3	4	5	6(臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
	54	28	6	0	0	0	88
						合　計	627

【遇発症例】

A.危機的遇発症	0	C.その他の神経系遇発症	0
B.神経系遇発症(脳・脊髄)	0	D.その他	0
		合　計	0

放　射　線　科

【スタッフ】

宇田　光伸（副院長兼放射線科部長）、清水　洋（部長）の2名の常勤医師、9名の診療放射線技師で平成27年度を迎えた。

10月1日付採用　上野　裕（常勤医師）

【機　器】

一般撮影

（株）日立メディコ　DHF－S2－158×2台

東芝メディカルシステムズ（株）　MRAD-A32S/01×1台

Ｘ線ＴＶ装置

東芝メディカルシステムズ（株）　ZEXIRA DREX-ZX-80×2台

Ｘ線ＣＴ装置

GEヘルスケア・ジャパン（株）　LightSpeed Plus×1台

（株）フィリップスエレクトロニクスジャパン　Brilliance iCT×1台

MRI装置

シーメンス・ジャパン（株）　MAGNETOM Avanto×1台

乳房撮影装置

シーメンス・ジャパン（株）　MAMMOMAT　3000Nova×1台

血管撮影装置

（株）島津製作所　DIGITEX2400×1台

回診型撮影装置

（株）日立メディコ　シリウス125Ｂ×1台

（株）日立メディコ　シリウス125ＭＸ×1台

（株）日立メディコ　シリウス130HP×1台

放射線治療装置

（株）三菱電機　EXL－12ＳＰ×1台

シュミレーター

（株）島津製作所 SAT－20×1台

放射線治療計画装置

（株）バリアンメディカルシステムズ　ECLIPSE×1台

骨塩定量検査装置

GEヘルスケア・ジャパン（株）　Lunar Prodigy×1台

【業　績】

論文

糖尿病の動眼神経麻痺類似の眼瞼下垂を呈した中脳水道近傍の脳梗塞例

金井　真、清水　洋、設楽　香織、岡本　圭司、津田　昌宏

内科116：157-160　2015

平成２７年度放射線科検査件数

一般撮影	頭頚部		躯幹部					四肢		全合計
	頭部	頚部	胸部	ドック	腹部	骨部	小児	上肢	下肢	
4月	54	13	531	11	213	312	287	63	105	1,589
5月	33	9	622	21	251	300	188	55	126	1,605
6月	42	8	683	26	272	261	226	45	132	1,695
7月	30	15	664	30	278	289	234	60	90	1,690
8月	21	9	640	21	237	272	214	56	109	1,579
9月	49	3	667	28	253	249	246	48	97	1,640
10月	40	13	707	27	292	260	271	70	91	1,771
11月	27	11	578	24	241	260	284	38	69	1,532
12月	22	6	640	19	287	247	299	47	80	1,647
1月	29	3	662	13	231	256	247	49	81	1,571
2月	40	15	621	12	196	286	261	38	88	1,557
3月	38	13	731	30	248	296	189	70	101	1,716
計	425	118	7,746	262	2,999	3,288	2,946	639	1,169	19,592

CT検査	頭頚部単純		頭頚部造影		四肢単純・造影		その他 単純・造影	RTPS
	頭部	頚部	頭部	頚部	上肢	下肢		
4月	125	3	16	1	0	3	0	2
5月	131	3	6	3	0	2	0	0
6月	157	5	3	1	2	3	0	2
7月	150	3	9	1	0	3	0	3
8月	148	5	5	1	3	2	1	2
9月	141	4	2	3	0	1	0	6
10月	175	2	8	2	1	2	0	3
11月	138	6	8	3	0	0	0	3
12月	111	2	3	2	1	2	0	1
1月	131	2	5	2	1	1	0	7
2月	125	4	11	3	1	1	0	2
3月	155	5	7	4	0	0	0	0
計	1,687	44	83	26	9	20	1	31

CT検査	躯幹部単純					躯幹部造影					全合計
	胸部	上腹部	骨盤部	全腹部	脊椎部	胸部	上腹部	骨盤部	全腹部	心臓	
4月	147	55	2	76	1	10	32	0	26	6	505
5月	185	55	7	100	0	10	26	1	32	3	564
6月	194	67	4	95	2	13	33	2	36	4	623
7月	202	54	3	91	1	11	29	1	38	1	600
8月	202	40	3	91	1	13	32	0	32	3	584
9月	186	45	2	63	1	16	23	0	25	3	521
10月	178	51	6	79	0	18	41	0	31	5	602
11月	182	33	2	78	1	14	33	0	26	5	532
12月	189	52	2	89	3	14	27	0	32	5	535
1月	191	51	6	75	3	13	38	0	26	3	555
2月	191	57	5	97	1	9	22	0	30	3	562
3月	234	62	4	80	1	14	26	0	41	6	639
計	2,281	622	46	1,014	15	155	362	4	375	47	6,822

MRI検査	頭頚部単純			頭頚部造影		四肢単純・造影		躯幹部単純				
	頭部	頚部	ドック	頭部	頚部	上肢	下肢	胸部	腹部	骨盤部	肩・股関節	脊椎部
4月	96	5	3	5	0	1	3	2	11	39	5	41
5月	101	1	3	7	0	2	7	0	13	36	3	42
6月	109	4	5	5	0	1	10	0	16	35	1	58
7月	104	4	4	7	0	4	10	0	11	32	5	42
8月	108	2	6	5	0	7	3	0	22	21	3	42
9月	76	1	1	5	0	1	9	2	17	23	3	33
10月	102	6	4	9	0	6	11	1	16	34	1	45
11月	87	8	1	4	0	4	11	1	12	23	3	41
12月	88	6	2	3	0	0	6	0	20	37	5	42
1月	91	3	2	8	0	1	11	0	11	31	4	49
2月	97	3	2	3	1	1	14	0	12	32	2	47
3月	90	3	1	5	0	1	11	0	22	34	6	46
計	1,149	46	34	66	1	29	106	6	183	377	41	528

MRI検査	躯幹部造影					その他 単純・造影	全合計
	胸部	腹部	骨盤部	肩・股関節	脊椎部		
4月	2	5	0	0	0	1	219
5月	1	3	3	0	0	0	222
6月	6	6	3	0	0	3	262
7月	7	3	3	0	0	1	237
8月	2	6	1	0	1	1	230
9月	3	5	2	0	0	0	181
10月	7	9	0	0	2	0	253
11月	5	4	1	0	1	2	208
12月	3	8	0	0	0	1	221
1月	4	3	1	0	0	1	220
2月	4	8	0	0	0	0	226
3月	7	1	0	0	2	2	231
計	51	61	14	0	6	12	2,710

血管造影	腹部	心カテ	合計
4月	5	3	8
5月	2	1	3
6月	4	1	5
7月	3	3	6
8月	4	1	5
9月	5	2	7
10月	1	1	2
11月	4	0	4
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
計	28	12	40

ポータブル撮影	病棟撮影	OP室撮影	合計
4月	150	21	171
5月	165	22	187
6月	142	30	172
7月	140	26	166
8月	110	30	140
9月	141	20	161
10月	117	20	137
11月	110	25	135
12月	105	29	134
1月	100	21	121
2月	116	31	147
3月	157	26	183
計	1,553	301	1,854

骨密度測定	予約	予約外	ドック	合計
4月	18	4	11	33
5月	15	5	21	41
6月	13	3	26	42
7月	17	6	29	52
8月	9	1	21	31
9月	14	4	28	46
10月	11	2	27	40
11月	9	5	25	39
12月	16	2	19	37
1月	15	1	13	29
2月	16	4	12	32
3月	29	6	30	65
計	182	43	262	487

X線TV検査	UGI	食道造影	小腸造影	イレウス管	その他消化器	HSG	腸重積	トロッカー	IVH	RFA
4月	2	1	0	2	6	0	0	2	3	0
5月	1	1	1	0	2	0	0	0	0	2
6月	3	2	0	6	2	2	2	1	2	2
7月	5	1	2	2	3	2	0	4	1	1
8月	6	0	1	9	2	2	1	5	1	0
9月	0	1	0	1	0	0	0	0	3	1
10月	3	1	3	8	3	0	2	1	4	3
11月	7	3	2	1	1	2	0	3	3	3
12月	2	2	3	3	1	0	2	1	5	3
1月	1	3	0	3	2	0	0	2	0	1
2月	0	4	1	3	5	1	0	1	3	3
3月	4	3	0	3	0	2	0	3	0	0
計	34	22	13	41	27	11	7	23	25	19

X線TV検査	PTC(GB)D	PEIT	BE	IVP・DIP	S-J交換	UCG VCG・CG	RP・AP	その他	全合計
4月	1	2	3	7	8	3	1	1	42
5月	2	1	3	12	10	1	0	2	38
6月	2	0	3	8	9	0	0	1	45
7月	5	0	2	15	9	2	0	1	55
8月	2	0	3	11	8	2	0	3	56
9月	1	0	2	10	10	2	0	0	31
10月	0	3	3	11	9	2	1	3	60
11月	0	0	3	13	8	1	1	3	54
12月	1	0	2	7	9	0	1	2	44
1月	3	0	3	12	8	0	1	1	40
2月	2	2	0	9	6	0	1	1	42
3月	1	0	0	13	9	7	0	1	46
計	20	8	27	128	103	20	6	19	553

乳房撮影	乳腺外来	検診	合計
4月	13	6	19
5月	14	21	35
6月	11	24	35
7月	19	19	38
8月	10	16	26
9月	12	17	29
10月	30	25	55
11月	14	22	36
12月	6	24	30
1月	19	21	40
2月	8	17	25
3月	15	23	38
計	171	235	406

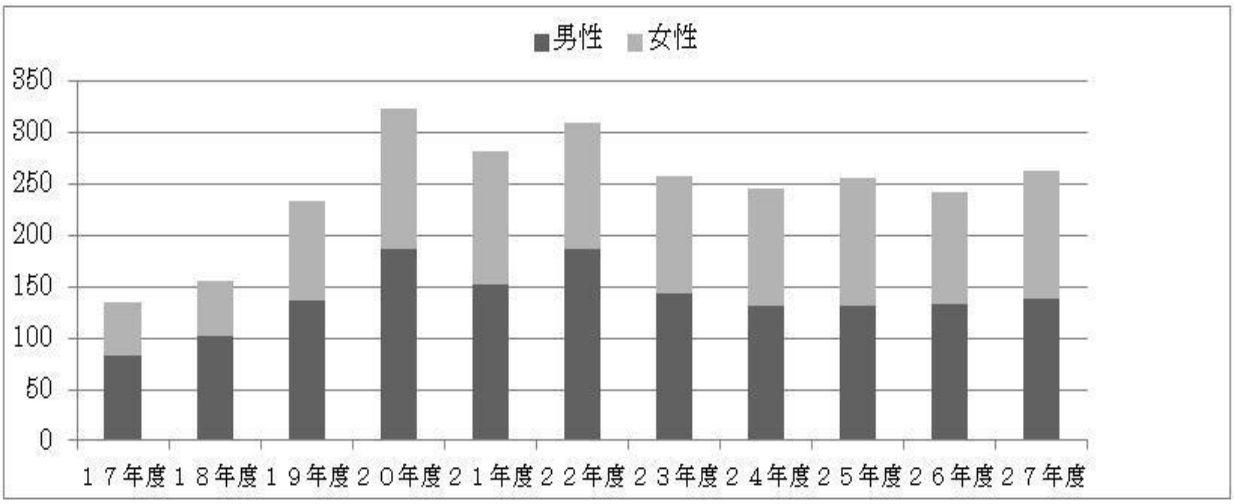
放射線治療	診察	シミュレーション	治療照射	合計
4月	2	4	101	107
5月	2	0	60	62
6月	3	4	31	38
7月	3	4	106	113
8月	3	2	70	75
9月	7	6	89	102
10月	4	3	134	141
11月	3	3	81	87
12月	2	2	53	57
1月	7	8	98	113
2月	4	2	148	154
3月	0	0	35	35
計	40	38	1,006	1,084

健　　診　　科

【概　要】

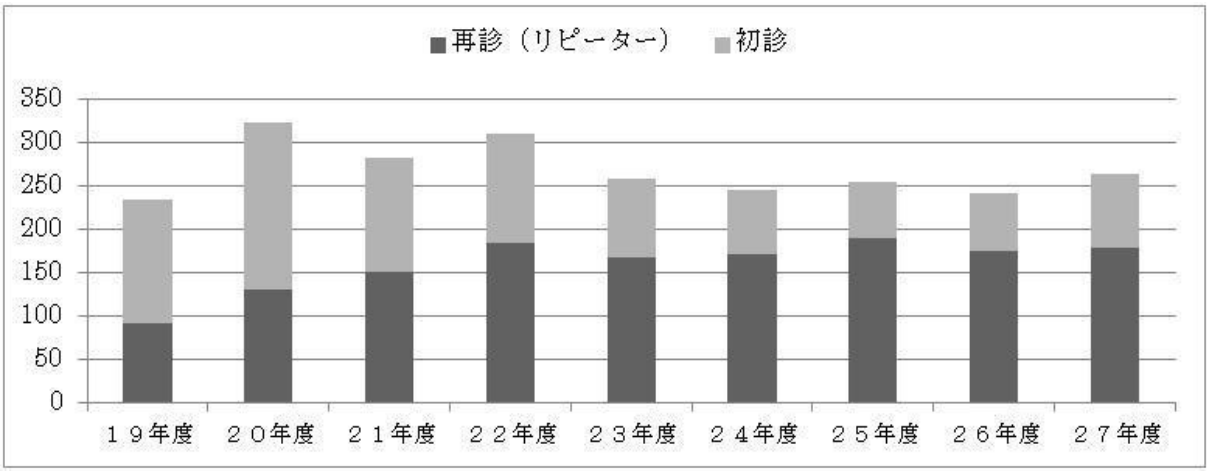
平成２６年度は２４２件の件数であったが、２７年度は２６３件と２１件増となった。男女別では、男性は５件増の１３８件、女性は１６件増の１２５件であった。（図１）

図1　年度別人間ドック件数（男女別）



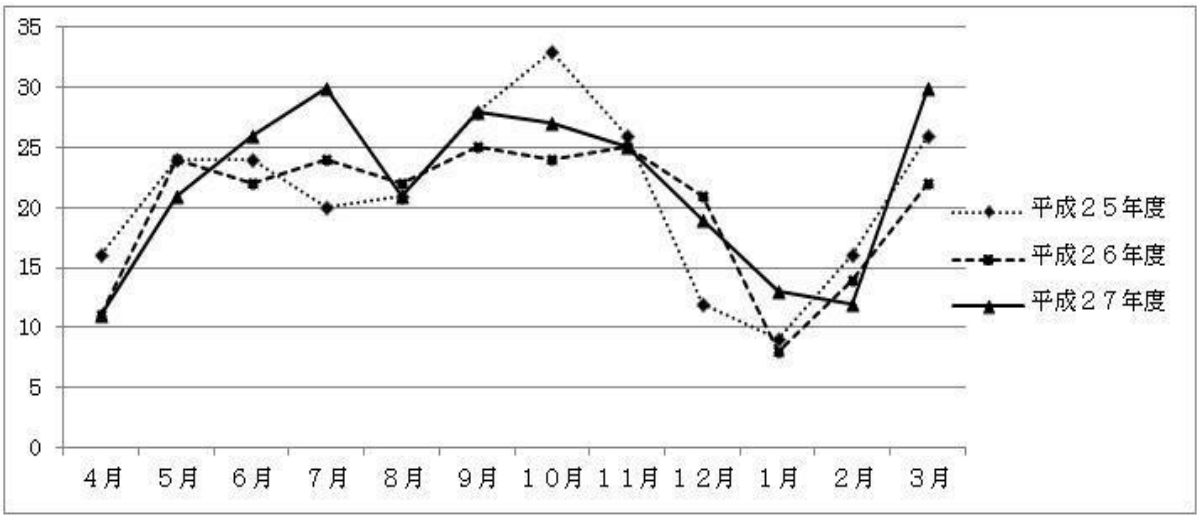
初診、再診別でみると初診は１７件増の８４件。再診（いわゆるリピーター）は４件増の１７９件であった。（図２）

図2　初診再診別人間ドック件数



月別件数でみると、７，９，３月に多く、４、１，２月に少ない傾向は、ほぼ例年どおりであった。（図３）

図3　月別人間ドック件数



	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度
脳ドック	20	11	29	36
特定健診	255	220	235	256
大腸がん検診	52	119	168	304
ＡＢＣ検診			16	10
ＡＩＣＳ検診			103	176

平成１９年より実施している脳ドックであるが、２５年度は１１件、２６年度は２７件、２７年度は３６件と順調に増加した。

また、２６年度より新しい取り組みとしてABC検診、AICS検診を導入した。AICSは料金値引きと休日実施が奏を功し２７年度は１７６件の実績であった。大腸がん検診も、啓発ポスターの掲示、検査キットを自由に持ち帰ってもらい、土日も受付け可能にするなどの「大腸がん検診キャンペーン」を行い、２７年度は３０４件の実績であった。

がんを含めた生活習慣病などの早期発見、早期治療を目指し、今後も積極的に健診科の事業をすすめていきたい。

中 央 検 査 科 部

【スタッフ】

部長（内科医）１名

臨床検査技師１４名（正職員１０名、嘱託職員３名、産休代替要員１名）

事務職員１名

認定技師　・超音波検査士４名（腹部、体表３名・循環器１名）

・細胞検査士１名（国際細胞検査士含む）

・大阪糖尿病療法指導士２名

（平成２７年４月１日現在）

【概　要】

（検体検査）

患者数の減少に伴い、昨年度に比べて約4,800件のオーダ減少になった。１テスト当りのランニングコストから不採算項目について、医局の協力を得て院内実施を廃止し、外注検査とした。（HCG定量・尿中微量アルブミン・プレアルブミン等）

また、昨年度に引き続き市職員の大腸がん検診やＡＩＣＳキャンペーンを実施し、健診業務に貢献した。

（生理検査）

患者数が減少する中、超音波検査予約枠の空き状況の提供を通じ医局への積極的な働きかけや神経伝達速度・ABRの増加で昨年度より約470件のオーダ増になった。また、昨年度導入した終夜睡眠検査については市民公開講座の影響もあり、下半期に件数が増加した。来年度はさらに関連企業にPRし、件数の増加を目指す。

（病理検査）

細胞診は産婦人科検体減少の影響が大きく、昨年度に比べて約260件のオーダ減少になった。また、組織診は手術件数の減少により昨年度に比べて約200件のオーダ減少になった。

（輸血検査）

昨年、病院機能評価受審の結果、血液製剤廃棄率の高さを指摘された。その為、当科ではこの問題に次の様に取り組んでいる。

① 院内の血液製剤の在庫周知（オーダリング端末に掲載）

② 不要分になった製剤の早急な回収

③ 輸血療法委員会へ毎月の輸血製剤の使用状況、廃棄状況の報告などを行い、職員に対し情報共有を行っている。

また、安全な輸血を遂行するため、厳格な輸血製剤の管理も行っている。

【学術業績】

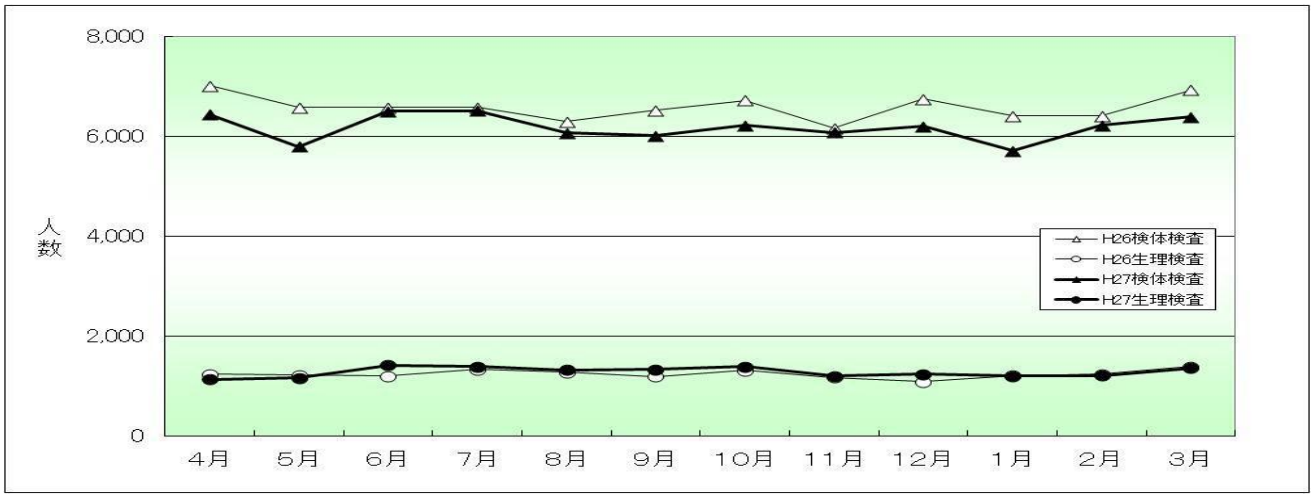
「DCISとの鑑別を要したintraductal papilloma with ductal hyperplasiaの１例」

Abcカンファレンス・Echo研合同研究会　2015.8.1

北野智子、上西幹洋、中島七子、三五通子、渡海絢、伊藤彰彦

【実 績】

平成２７年度		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
検体検査	尿一般	2,744	2,490	2,793	2,931	2,638	2,596	2,575	2,484	2,595	2,425	2,450	2,721	31,442
	血液・生化学検査	3,652	3,265	3,653	3,559	3,400	3,378	3,616	3,567	3,569	3,272	3,750	3,643	42,324
	細菌・ウィルス検査	16	14	17	8	13	21	8	10	17	3	5	4	136
	輸血検査	27	30	38	16	25	24	30	21	20	19	24	21	295
	小計	6,439	5,799	6,501	6,514	6,076	6,019	6,229	6,082	6,201	5,719	6,229	6,389	74,197
	時間外検査	757	722	608	654	617	672	635	765	913	744	671	685	8,443
	外注検査（細胞診検査含）	1,676	1,590	1,822	1,801	1,900	1,644	1,862	1,713	1,752	1,623	1,649	1,677	20,709
生理検査	脳波	47	37	43	48	65	43	44	43	45	43	41	51	550
	心電図	381	406	495	457	412	452	459	391	431	402	394	487	5,167
	心エコー	101	95	139	132	124	115	110	112	109	126	120	116	1,399
	神経伝導速度	1	0	2	1	1	2	2	2	3	2	0	3	19
	腹部エコー	386	412	487	499	459	486	479	401	433	401	408	451	5,302
	ドプラーエコー	22	9	21	23	33	30	26	11	30	23	49	34	311
	甲状腺エコー	33	26	39	38	38	26	36	42	26	17	32	26	379
	頸動脈エコー	44	43	45	34	40	43	51	46	31	22	33	44	476
	乳腺エコー	25	22	30	29	26	26	46	33	15	32	16	35	335
	マスター負荷心電図	5	2	1	4	9	1	3	3	1	1	0	2	32
	トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ホルター心電図	11	3	19	11	8	7	16	14	9	14	18	8	138
	肺機能	48	74	45	71	72	54	78	63	59	72	63	63	762
	下肢エコー	9	6	11	11	4	4	4	6	5	5	6	7	78
	ＡＢＲ	5	1	3	2	3	5	8	1	5	4	4	1	42
	ＡＢＩ	19	25	37	28	29	34	30	31	40	34	25	32	364
	小計	1,137	1,161	1,417	1,388	1,323	1,328	1,392	1,199	1,242	1,198	1,209	1,360	15,354
病理	細胞診検査	198	192	287	258	201	203	291	244	244	184	197	245	2,744
	病理検査	243	205	285	305	267	254	273	281	238	232	246	260	3,089
	免疫抗体法	29	6	8	7	8	7	8	7	7	5	7	7	106
	迅速術中組織検査・細胞診	5	5	11	11	7	4	13	10	5	8	8	7	94
	剖検数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



4

薬剤部の現況

４．薬剤部の現況

【スタッフ】

薬剤師９名

【概　要】

平成２７年度は、医薬品等へのバーコード表示の変更、WindowsXP問題および、使用中の病棟薬剤業務支援システム・薬剤情報提供支援システムのメンテナンス期間終了により、調剤機器、水薬・散薬監査システム、薬剤管理指導業務支援システム、医薬品管理システムの更新を行った。これに伴い、分包紙に薬品名を印字することが可能となり、医療安全面においても貢献することができている。

事務嘱託職員の退職や薬剤師１名が育児休暇取得中のため、薬剤師８名だけの非常に厳しい体制の中、薬剤管理指導業務は４３０件/月の目標を達成することができた。また、薬品費削減の取り組みとして、新たに４３品目を後発医薬品に変更した。

また、事務嘱託職員退職に伴い、ＤＩ業務の充実を図る目的で薬剤師正職員１名を採用する予定であったが、近年の病院薬剤師不足の影響を受け、年度内に採用することができず、平成２８年４月採用となった。

【採用医薬品数】

内服薬	４３８品目（内、後発薬品１７５品目）
外用薬	２７３品目（内、後発薬品４２品目）
注射薬	４３９品目（内、後発薬品１０２品目）
合　計	１，１５０品目（内、後発薬品３１９品目）

（平成２８年３月末時点）

【薬学部学生実務実習受け入れ】

１期（平成２７年４月１３日～７月５日）	大阪薬科大学　１名、神戸学院大学　１名
２期（平成２７年７月６日～９月２７日）	大阪大谷大学　１名
３期（平成２７年９月２８日～１２月１３日）	大阪大谷大学　１名、大阪薬科大学　１名
４期（平成２８年１月７日～３月２３日）	大阪薬科大学　１名、武庫川女子大学１名

【講演･研修会等】

平成２７年６月１６日　院内緩和ケア研修会
『がん疼痛の評価と治療』　中田　ひとみ

平成２７年１０月１５日　院内医療安全研修会
『病院における麻薬の取扱いについて』　宇梶　明起

平成２７年１０月２２日　院内感染対策研修
『消毒剤について』　南野　充宏

平成２７年１０月２２日　出前講座
『くすりの管理について～災害など、いざという時のために～』　宇梶　明起

平成２７年１１月１７日　糖尿病教室
『災害に備えて～いざというときに慌てないためにも～』　松岡　慶子

【専門･認定薬剤師等取得状況】

認定実務実習指導薬剤師　　２名

日本薬剤師研修センター認定薬剤師　　４名

生涯研修履修認定薬剤師　４名

糖尿病療養指導士　　１名

日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ専門療法士　　１名

スポーツファーマシスト　　１名

日本病院管理機構認定医療安全管理者リスクマネージャー　　１名

大阪糖尿病療養指導士　　１名

平成27年度薬剤部統計

		外来							入院							持参薬鑑別件数（件）
		院外処方箋枚数（枚）	院内処方箋枚数（枚）	左記の内小児救急処方箋枚数(枚)	院外処方箋発行率（%）	化学療法ミキシング件数			入院処方箋枚数（枚）	注射薬		薬剤管理指導算定件数				
						580点	430点	入院		処方箋枚数（枚）	処方件数（件）	ハイリスク（380点）	その他（325点）	麻薬管理加算（50点）	退院時指導料（90点）	
平成27年	4月	6,483	263	193	96.1	38	11	29	1,706	1,704	4,351	73	430	10	133	155
	5月	5,586	257	174	95.6	24	16	21	1,600	1,665	4,971	40	394	13	104	173
	6月	6,424	233	172	96.5	25	6	12	1,711	1,864	5,677	51	481	9	130	166
	7月	6,551	271	210	96.0	39	17	15	1,607	1,626	4,785	59	451	10	132	155
	8月	6,224	308	239	95.3	29	7	11	1,491	1,672	4,845	39	386	13	109	171
	9月	6,073	258	197	95.9	41	15	20	1,570	1,792	5,080	29	358	5	120	163
	10月	6,517	239	172	96.5	36	8	33	1,618	1,856	5,720	48	403	7	116	169
	11月	6,020	245	184	96.1	38	16	17	1,549	1,638	4,916	45	341	1	117	147
	12月	6,353	269	180	95.9	32	11	17	1,686	1,631	4,907	40	356	3	118	154
平成28年	1月	5,771	253	181	95.8	41	13	27	1,479	1,584	4,551	48	353	13	100	156
	2月	6,207	344	271	94.7	40	12	20	1,439	1,426	3,929	60	352	10	113	166
	3月	6,612	341	267	95.1	35	12	27	1,610	1,706	5,612	48	346	10	112	150
合計		74,821	3,281	2,440	95.8	418	144	249	19,066	20,164	59,344	580	4,651	104	1,404	1,925
月平均		6,235.1	273.4	203.3	95.8	34.8	12.0	20.8	1,588.8	1,680.3	4,945.3	48.3	387.6	8.7	117.0	160.4

5
看護部の現況

５．看護部の現況

看護部の理念

私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任をもって最善を尽くします。

平成２７年度　看護部目標

親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる
１．患者に優しい看護が提供できる
２．病院の方針に沿った体制作り
３．他職種と連携し専門職として看護が提供できる環境が整う
４．専門職としての自覚を持ち、後輩を育成できる

【平成２７年度の主な取り組み】

１．看護部職員の接遇向上をめざし、年間６回開催される「看護部接遇研修」を、看護部の患者サービス向上委員会の委員が担当し、計画的に実施した。それぞれが講師になることで新たな学びを得、これを発信し共有することで接遇向上への実践力が向上した。

２．看護職員確保のために修学資金制度の拡大を実施。従来の１校に加え、近隣の学校の学生からの申込みがあり新たに２名が貸与をうけることになった。さらに、従来からの学校の定員も２名から３名に増員となった。

３．独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）の委託病床が開棟し、３年目となった。機構からの援助で、入院患者への看護をより良くするために「意識障害・寝たきり（廃用症候群）患者の生活行動回復看護」の学会認定看護師教育課程を１名が受講した。今後は、より患者と家族への支えになる役割を発揮できると考える。

４．がん化学療法看護認定看護師の採用により５分野の認定看護師が活躍するようになった。外来治療室の安定した運営と看護の質向上に貢献できている。

５．今年度から新採用者に対する倫理研修を、院外研修とした。半日の臨床倫理入門コースの受講を新採用者教育プログラムに組み入れた。

６．人事評価制度の試行が１０月から開始された。看護部が従来から行ってきた目標管理と重複する点もあったが、試行に全職員が取り組むことができた。次年度からの本格実施に向けて、従来の看護部の目標管理と人事評価制度との調整が必要である。

７．病床稼働の低迷があり、事業管理者の指示で1月から３月の間、4階詰所を産婦人科の患者のみの入院病棟とした。数名の看護師が他病棟で勤務することとなったが、方針に沿った行動ができたと評価する。

［看護部］

				看護部長　　鳥羽　敏子	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
区分	目標	主な成果	27年目標値	27年実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に優しい看護が提供できる	患者一人ひとりの看護を考えることができる 接遇向上・維持	ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ数 患者参画型看護計画立案数　100% 固定ﾁｰﾑﾅｰｼﾝｸﾞﾏﾆｭｱﾙ見直し　　1回 ｱﾝｹｰﾄでの良いｺﾒﾝﾄ 研修実施回数　6回/年 お礼の件数 苦情件数　0件	468件 100% １回 多数 6回/年 142件 27件	看護部で接遇向上に取り組み、3年が経過した。定期的な接遇研修の開催・院内ﾗｳﾝﾄﾞの実施・身だしなみﾁｪｯｸを行い、ｱﾝｹｰﾄでは良い評価が多くなってきた。しかし、苦情件数が示すように全てが良いわけではない。「いい人もいるがそうでない人もいる」「看護師の当たり外れがあるように感じる」「１人が良くないと全てが悪くなってしまうので…」という意見をいただいた。次年度は一人一人が接遇について考え、看護職員全員が良い接遇を実施出来る事をめざしていく。
財務の視点	病院の方針に沿った体制作り	軽費削減 NASVA委託病床の安定した運営	病床稼働率　　85% 超過勤務時間 5時間未満/人/月 定数見直し　　2回/年 NASVA病床稼働率　100%	73% 5時間/人/月 2回/年 98.3%	病床稼働率の低迷は病院全体の課題として、次年度も向上をめざし取り組んでいく。低い病床稼働率でも超過勤務時間はこの6年間変化がなく、平均5時間/人/月である。会議時間1時間に向けて師長会で検討したが、各部署で実行に活かせていない。師長会での会議の持ち方などの学びを部署で伝え、効率的な会議を1時間以内で終了させることが課題である。NASVAは開設から3年が経過し、当初の入院患者が退院時期を迎えていることから、患者の入退院があり、病床稼働率は98.3%となった。今後は退院と次の入院の時間差を少なくしていく必要がある。医師への積極的な働きかけも必要である。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	他職種と連携し専門職として看護が提供できる環境が整う	人事評価制度に向けた取り組み 応援機能の定着と充実 看護補助者業務の効率化と連携 効率的な業務改善・業務検討 他職種との協働 安全な看護技術の提供 看護広報活動	 応援実績　100件以上/年 看護補助者研修回数 6回/年 業務改善数 ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄからの業務 退院調整加算数	試行データ全て提出 125件/年 9回/年 342件 72件 102件	人事評価試行には看護部全体で真摯に取り組み、その結果から本格導入に向けての課題も明確にすることができた。看護部全体の応援機能も充実してきた。今後の病床稼働率の上昇にも対応できるように、日々応援要員の確保ができる勤務予定表の作成が求められる。看護補助者業務もようやく各部署で明確にすることができた。また看護補助者研修も充実してきたので、次年度も継続していく。部署での業務改善、ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄからの業務改善も行えており、今後もその認識を継続していく事が課題。
学習と成長の視点	専門職としての自覚を持ち、後輩を育成できる	卒後教育への取り組み ﾗﾀﾞｰの充実 後輩育成・ﾘｰﾀﾞｰ育成 看護実践能力向上 看護の専門性の向上	 ﾗﾀﾞｰ認定者数 ﾘｰﾀﾞｰ研修会開催数 研修企画数 延べ参加者数 2,763人以上/年 認定看護師育成支援　2人	師長会での検討　11回/年 新規32名 2回/年 93回 院内　3,595人/年 院外　　309人/年 1人	新たにﾘｰﾀﾞｰ研修の実施、2年目以降の教育内容の検討、教育基準の見直しを行った。それぞれの師長が納得しながら新たな教育基準の作成が行えた。ﾗﾀﾞｰ認定者も新規32名と多く、さらなるﾗﾀﾞｰ内容の充実とﾗﾀﾞｰⅣのあり方を見直していく時期である。次年度早々の課題として取り組みを始めている。院内研修・院外研修・部署内研修と活発に行えた。参加者の隔たりは課題であるが、自己責任での成長を課題としていきたい。新たに感染管理認定看護師教育課程修了者が１名。1月にはがん化学療法看護認定看護師１名の採用ができ、認定看護師は5分野5名となった。

[3階詰所]

				看護師長　　藤原　美幸	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	1.患者に温もりのある看護を提供し、質の向上を図る　　2.ｽﾀｯﾌ全員が、生き生きと働ける職場を作る				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に温もりのある看護が提供できる	患者一人一人の看護を考えることができる 記録の充実 接遇の向上	ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ数（倫理・ﾃﾞｽ含む）　72件以上/年 記録監査件数 150件以上/年 患者参画型看護計画数 対象患者100% 看護計画評価修正数 対象患者の100%に実施 苦情件数　0件	48件 83件 100% 98% 2件	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの件数は50件にしたがﾁｰﾑにより偏りがあり達成できていない。しかし、退院支援の調整についての周知を行いながらｶﾝﾌｧﾚﾝｽに意識的に取り組むことができた。問題があればその都度主治医やｺﾒﾃﾞｨｶﾙと話をし解決した。退院支援においては内容を周知しながら、充実するよう進めていく。他ﾁｰﾑとの情報共有、意見交換なども考え、ﾁｰﾑの担当日には題材を提供するよう関わっていく。記録監査においては監査日を設けているが、実施できない日があった。その理由として、緊急入院や検査などと重なり時間をもつことができなかったとしている。監査を行う意識付けはできているので、できていない日はそのことをﾁｰﾑ間で共有し、定例日以外に実施するようにしていく。患者参画型看護計画は対象患者すべてに実施されている。しかし、看護計画の評価はﾍﾞｯﾄﾞ移動に伴う担当者の変更、担当者の突然の休みなどの理由で評価が遅れてしまい98%となっている。ﾍﾞｯﾄﾞ移動があっても受け持ち患者を気にかける意識付をもってもらうようにする。また、ﾒﾝﾊﾞｰ同士で声かけをし期日までに評価できるようにしていく。苦情の件数は2件である。患者ｻｰﾋﾞｽ向上委員会のｱﾝｹｰﾄではほとんど4で、ｺﾒﾝﾄも有難いことを記入していただいているが、3以下や厳しいｺﾒﾝﾄもあった。ｱﾝｹｰﾄをｶﾝﾌｧﾚﾝｽで振り返ることを検討継続していく。
財務の視点	経営に参画できる	7対1入院基本料と急性期看護補助体制加算維持 超過勤務時間を減らす 軽費削減 診療報酬の加算がとれる	看護必要度　15%以上継続 超過勤務時間　6時間以内 定数を見直す　3回/年 がん患者指導管理料 周術期における口腔機能の管理（歯科医療連携管理加算）　10件以上/年 NST加算　200件以上/年	5.8時間/人/月 14件 3件 138件	必要度の入力は引き続き日勤、準夜で見直し、15%以上を維持できる様努めていることは意識づけられている。しかし監査で記録の漏れがあるので、漏れがなくなるよう確認しｽﾀｯﾌに声かけを行うことを継続していく。申し送りの短縮（15分以内）を心がけ、ﾁｰﾑ内、ﾁｰﾑ外で協力し合い超過勤務を減らすよう意識しているが、個人差により長くなっていることもある現状である。ｽﾑｰｽﾞに入院の受け入れをするため、各ﾁｰﾑの重症度、看護度のﾊﾞﾗﾝｽを考慮しながらﾍﾞｯﾄﾞを考えていく。がん看護指導管理料については、対象となる患者がいればできるだけ認定看護師がICに参加できるよう、医師も時間調整など協力はしてくれている。しかし、認定看護師が1人のためできる範囲で進めていく。口腔機能管理料については対象患者がいれば積極的に医師に声かけをするようにしていく。NST加算については、NST担当または師長・副師長が各ﾁｰﾑに対象者選択の声かけを行っている。ﾗｳﾝﾄﾞ時には該当患者の状況説明と、患者の訪問も可能な限り担当ﾁｰﾑが行い、患者のｹｱに繋げていくようにしている。そのことで次回のﾗｳﾝﾄﾞにも継続でき、NSTﾒﾝﾊﾞｰとﾁｰﾑﾒﾝﾊﾞｰとの情報交換もできている。今後はNSTｼｰﾄの活用をし、情報交換に活用していく。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	働きやすい環境作り	業務改善 多職種との協働	業務改善数　30件以上/年 退院調整件数　20件以上/年	10件 83件	ﾁｰﾑ間の重症度の偏りを考慮し、昨年度の325号室（男性部屋）の4ﾍﾞｯﾄﾞをﾁｰﾑ別に分けた。部屋の活用はできている。そして各ﾁｰﾑ申し送り短縮を考慮し、申し送りﾉｰﾄの活用方法を改善したり、ｱｸｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄを元にｶﾝﾌｧﾚﾝｽし、PDAを使用しやすくするため設置場所の変更をした。しかし、業務改善件数は少ないので、問題あればすばやい検討と改善を努めていく。転倒転落での骨折などの発症もあり、離床ｾﾝｻｰ付きﾍﾞｯﾄﾞも活用していく。退院調整については退院調整の必要な患者には、3段階までｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞを地域連携に提出し、MSWと連携し進められている。後半は主治医に退院時期を確認し、MSWと素早く調整ができるように進めた。

［４階詰所］

				看護師長　　堀内　正子	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供できる				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に優しい看護が提供できる	ﾆｰｽﾞに沿った看護を考えることができる 接遇向上	お礼の件数　30件/年 ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ、ｱｸｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄ検討件数　1件/月 ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ件数　1件/月	35件 1件/月 24件	お礼件数は35件。退院時にお礼の手紙を頂いたり、退院後にお礼を伝えに来院してくれたりした。また、直接お礼の言葉を言われることや、個別に手紙を頂くことが多くなった。患者に寄り添う看護を提供できた結果と考える。しかし、苦情が6件あった。接遇に関する事で患者さんを不快にさせることがあった。一人一人の対応が全ての方に受け入れられているとはいえないことを伝え、個々が日々気をつける必要がある事を共有した。今後も接遇改善に努めていく。ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄの検討は毎月のﾁｰﾑ会で行うことができた。また、ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄが発生した時には内容を共有し対策を考える為にｶﾝﾌｧﾚﾝｽにかけることが定着できた。今後も事故防止対策を考える事やﾚﾎﾟｰﾄからの業務改善にも積極的に取り組んでいく。ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽは今年度より意識して行うことを目指した。朝の管理申し送りで確認することが定着したことにより産科のﾊｲﾘｽｸｹｰｽのｶﾝﾌｧﾚﾝｽが増加した。一般の入院に関しては短期入院が多く目標達成はできなかった。今後もｶﾝﾌｧﾚﾝｽの充実に努め。個別的な看護の提供につなげたい。
			新生児ｻﾏﾘｰ件数	48件	
			苦情件数　0件/年	6件	
財務の視点	経営改善に積極的に参画する	分娩件数の増加 助産師外来数の増加 OGCS受け入れの充実 軽費削減	分娩件数中ﾘﾋﾟｰﾀｰの割合70% 助産師外来受診数　60件/月 OGCS受け入れ件数　100% 超過勤務時間　3時間/月 定数見直し　2回/年	63.0% 49.3件 100% 4.3時間 2回/年	財務の視点では分娩件数は、昨年より初産婦の分娩件数が0.9%増加した。ﾘﾋﾟｰﾀｰ数は70%の目標達成には至らなかったが60%はｷｰﾌﾟできた。初産婦の増加がみられたので今後ﾘﾋﾟｰﾀｰとなる可能性がある。今後もﾘﾋﾟｰﾀｰ確保のためにｻｰﾋﾞｽの向上と広報活動に力を入れた取り組みを続けていきたい。OGCSの受け入れは目標達成できている。ｽﾑｰｽﾞな対応をするために「緊急帝王切開時の対応」についてのﾏﾆｭｱﾙの見直しを行った。また手術室への緊急入室の仕方などについて手術室看護師の協力を得て直接手術室内でｽﾀｯﾌが説明を聞く見学会が行えた。手術室とさらに協力体制を強化していく。超過勤務時間については産休や病休があり人員不足となったため残務が発生し目標達成に至らなかった。また、3ヶ月間単科病棟での運用が試行されたことにより一般病床を担っていた看護師が他病棟で勤務する応援体制がとられた事も要因と考える。内部ﾌﾟﾛｾｽの視点では母乳推進係ができ、母乳に関する知識、ｹｱの情報共有が行えるよう業務の改善に取り組んだ。初回授乳時の統一された指導に向けたﾘｰﾌﾚｯﾄが作成された。産後ｹｱ入院は産後に支援が受けられない方や育児不安などで入院継続を希望する母児の入院について企画案を出し運用待ちとなった。ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞでの広報など来年度の運用開始に向けて準備中である。またｻｰﾋﾞｽの一つとして始めたﾏﾀﾆﾃｨﾖｶﾞやｲﾝﾌｧﾝﾄﾏｯｻｰｼﾞは目標達成できた。参加人数も安定してきており定着できている。学習と成長の視点では院内研修において、研修に対する意識の温度差がある。中でも必須研修の参加者が増加しなかった。今後も啓発活動を行い受講を促していく事が課題である。院外研修については、助産師ﾗﾀﾞｰⅢの取得希望者が多くあり必要な院外研修への参加が増加した。勉強会は予定どおりできた。専門職としての知識向上に今後も努めていく。院内のﾗﾀﾞｰ認定者数は目標数より多くの合格者がでた。今年度できた助産師ﾗﾀﾞｰﾚﾍﾞﾙⅢ認定を9名が取得できた。認証制度の目的は、妊産褥婦新生児に対し、安全で安心な助産ｹｱを提供できる事である。「ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ助産師」が誕生したことで今後さらに良いｹｱの提供が期待できる。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	専門職として看護ｻｰﾋﾞｽの提供ができる	効率的な業務改善 ｻｰﾋﾞｽ、広報活動 産後ｹｱ入院が始動する	業務改善数　30件/年 ﾏﾀﾆﾃｨﾖｶﾞ件数　4回/月 ｲﾝﾌｧﾝﾄﾏｯｻｰｼﾞ件数　4回/2月 地域活動件数　2回/年 産後ｹｱ入院数　1回/年	23件/年 5回/月 4回/2ヶ月毎 2回/年 0件	
学習と成長の視点	専門職として共に成長できる	ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ支援	院内研修受講件数 5回/人/年 院外研修受講件数 1回/人/年 勉強会開催数　3回/年 新生児蘇生講習会の受講数 1回/人/年 ﾗﾀﾞｰ認定者数　　5人	211回/15人 73件　90% 3回/年 15人　75% 院内　7人合格 助産師ﾗﾀﾞｰⅢ　9人合格	

［４階北詰所］

				看護師長　　須川　景子	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	NASVA委託病床が100％稼働する				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	個々の患者に合せた看護提供をする	個別ｹｱの充実	ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ　48回/年 気づきｶﾝﾌｧﾚﾝｽ　19回/年	65件	各ﾁｰﾑ、及びﾌﾟﾗｲﾏﾘｰが進んで問題点や看護ｹｱのｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行う事ができていることもあるが、できていないこともあるので、気になることを声をかけ、気付きを作っていく。 看護を振り返ることが出来た。違う考えや、看護の異なった方法を聞く機会にもなった。
		接遇の向上・維持	苦情件数　0件/年	1件	前期に看護師と家族のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝでずれがあり、苦情となったが、その後は家族の考えをきちんと聞くことにより、苦情までにはつながらなかった。
財務の視点	NASVA委託病床が問題なく運営できる	満床で稼働する	16床/月	16床/月	1月時点で満床稼働となった。MSWとの調整で、次の患者の確保も行えた
		適切な定数管理	定数ﾁｪｯｸ回数　12回/年	6回	在庫確認し、定数の調整をした。人工鼻・酒精綿・50CCｼﾘﾝｼﾞの調整をした。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	多職種と連携し働きやすい環境づくり	業務改善	業務改善数　10件/年	15件	ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄからの業務改善が3件、業務整理から12件業務改善を行うことができた。
		応援体制つくり	毎日ﾌﾘｰをつくる		ほぼ毎月応援体制をつくっていたが、4月・11月は、協力できなかった日が多かった。今後も応援体制に協力できるように勤務調整する。
		職員の定着	退職者数　0人	4人	定年退職1名、3名は自分の行いたい看護の為の退職となった。
学習と成長の視点	NASVA委託病床に必要な看護が提供できる	看護技術の向上	勉強会開催数　6件 ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ開催数　6件	15件 6件	勉強会ﾒﾝﾊﾞｰで計画を立てて進めることができた。
		新看護ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの技術習得	勉強会開催　12回	13回	前半できなかった。後半は予定を組む事で行うことができた。NICDの座学や、NICDの実技の研修を開催できた。今後は、新看護ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを個別ｹｱに活かしていく予定である

［5階詰所］

					看護師長　　　西川　朝子
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	患者に寄り添う看護を行います。一人ひとりの看護を考えたやさしい看護を目指します。患者に寄り添い、安心安全な看護の提供を実践する。				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添った看護の提供	個別性に応じた看護を考えることができる 受け持ち看護師の役割を発揮することができる	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ　合同1回/3月　症例3回/週　倫理1回以上/3月　患者参画型看護計画数　10件/月 IC立合　IC後の反応の記録（活用）　100% お礼　10件/年 苦情　3件以下/年 接遇ｱﾝｹｰﾄ　ｺﾒﾝﾄ数	合同11回 症例24回 28件/月 95.2% 20件 9件 57件	合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽは後期4件で目標達成できた。患者・家族の意向を確認しながら多職種との関わりを持ちｹｱを提供できた。症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽは後期6件で目標達成できず。理由はｶﾝﾌｧﾚﾝｽ時間に緊急入院が多かった事や、患者の状態が落ち着いている時は症例から業務ｶﾝﾌｧﾚﾝｽに変更したからである。倫理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽは後期7件で目標達成できた。ﾁｰﾑが一人の患者・家族を通じて行ったｹｱを振り返り発表し意見交換する事で行った看護に自信がついたり、他の方法に気づく場となった。患者参画型看護計画は目標達成できた。看護要約は出来ているが、計画の修正時は患者・家族の同意が得にくい状況であった。後期は家族来院時の連絡方法を検討したことで計画の説明もでき記録にも残せるようになり、受け持ち看護師としての認識が高まった。記録監査は目標達成できた。毎朝の申し送り時の声掛けで監査への認識が高まった。今後は自ら実施できることが課題。IC立ち合い後の記録はほぼ出来、ﾁｰﾑで共有し継続看護に繋げられた。お礼件数は目標達成出来、今後も笑顔での対応と患者に寄り添う看護を継続していく。苦情は多かった。説明不足や看護師の対応への苦情であった。今後は多忙な中でも笑顔で、患者の求めに親切・迅速に対応できるように努めたい。
財務の視点	ｺｽﾄ意識の向上 ﾁｰﾑ医療の促進	病院経営に貢献できる	稼働率　85%以上 看護必要度監査　10件以上/月 定数見直し　3回/年 ｹｱﾏﾈ加算　60件以上/年　退院支援計画書　15件/年　摂食機能療法　100件以上/年　栄養ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ加算50件以上/年　新規3人以上/月　退院前在宅療養指導管理料　HOT導入患者の50%	77.4% 10件 2回 ｹｱﾏﾈ22件 退院支援計画24件 25%	ｽﾑｰｽﾞな入院受け入れはできているが稼働率は低かった。ｹｱﾏﾈ加算はｹｱﾏﾈの来院が少ないことが原因。家族への連絡等でｹｱﾏﾈに来院してもらえるような働きかけを今後は行っていく。退院調整加算は勉強会を行った事と地域連携室からの情報提供で大幅に増加した。また退院調整ﾌﾛｰﾁｬｰﾄを作成したことで、退院支援ｶﾝﾌｧﾚﾝｽも行えるようになった。摂食機能療法は対象者が少なく目標達成できず。栄養ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ加算も対象者が少なく、新規患者数の目標達成はできず。NST回診時の関わりを継続していく。HOT導入6件中加算がとれたのは1件。主治医への働きかけを継続していく。

区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績値	分析・評価・今後の課題
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	業務改善の推進 ﾁｰﾑﾜｰｸの発揮	相談、協力し合える人間関係ができる	業務改善数　10件/6月 超過勤務　6時間以内/人/月 ST/PTとのｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 10回/年	17件 8.7時間/人/月 80件	小さな気付きを大切にし、意見があれば速やかに業務改善を行っていくことが課題。申し送り時間の短縮に取り組み成果がでるが持続しないということが課題。ﾘｰﾀﾞｰの業務調整能力を向上させていく。STとのｶﾝﾌｧﾚﾝｽは密に行えているがPTとはなかなか行えていない。今後は患者のADLの把握やADL向上に向けPTとのｶﾝﾌｧﾚﾝｽが行えるようにすることが課題。
学習と成長の視点	自発的な学習意欲が高まる	看護実践能力の向上	知識・技術の習得　ﾁｰﾑ内での勉強会の開催 係による勉強会の開催 10件以上/年 ﾗﾀﾞｰ取得ｱｯﾌﾟ　到達ﾚﾍﾞﾙ Ⅰ・Ⅱは80％ 院内研修会への参加 5回以上/人/年	40回 5.7回	ﾁｰﾑでの勉強会開催は目標達成できた。新人が主体となって勉強会を開催したﾁｰﾑもあり、共に学ぶことで成長し続けることの重要さに気づくことができた。今後も意図的に関わりを継続して行く。教育係による勉強会開催も目標達成できた。専門性の高い知識・技術の習得を中心に開催した。今後はｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄから課題を見出しｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ研修等を行っていきたい。ﾗﾀﾞｰ取得は目標達成できず。必須研修への時間的な理由での不参加もあるが、管理者が看護を語り、明確な自身の将来像をもてるように関わることが大事だと考える。院内研修への参加回数は、平均回数では目標達成できたが、個人により参加回数のﾊﾞﾗﾂｷがある。研修参加への意識付けと、どうしても時間的制約で参加出来ないｽﾀｯﾌには、毎回の研修を伝達できるようなｼｽﾃﾑの構築も必要だと考える。

[6階一般詰所]

				看護師長　　尾崎　弘己	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	患者の立場になり、看護が提供できる　　親切・丁寧な対応ができる　　自己研鑽し、専門職としての役割が発揮できる				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	受け持ち看護師の役割が発揮できる 接遇の向上・維持	個別性のある看護が提供できる 苦情の減少 患者ｱﾝｹｰﾄで良いｺﾒﾝﾄが得られる 接遇に関する知識が得られる	患者参画型看護計画立案数　100% 患者参画型看護計画修正数　　4件/月 記録監査数　8件/月 ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ　4件/月 苦情件数　0件/年 お礼の件数　10件/年 接遇研修参加回数　2回/人/年	100% 8.75件/6月 2.9件/年 2.8件/年 2件/年 4件/年 2回/年/人	・患者参画型看護計画修正数は、後半から目標通り達成できた。ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽについては、看護研究の取り組みから合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを開催したり、ﾃﾞｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽなども行ったが、目標値を達成することができなかった。また、記録監査数は、後半件数が伸びたが、目標値は達成できず、個別性のある看護計画であるか、質的な部分の評価はできなかった。次年度は、今年度以上にｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽを推進し、記録監査を活かし、個別性のある看護提供につなげる事ができるように努めていきたい。 ・苦情・お礼件数とも目標値を達成することができなかった。苦情についてはｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行い、接遇向上に努めた。接遇研修に関しては、目標値を達成することができた。次年度も、患者ｱﾝｹｰﾄなどから評価し、親切・丁寧な対応ができるように取り組んでいきたい。
財務の視点	ﾘｰﾀﾞｰが役割を発揮し、業務の効率化を図る 看護必要度の評価が正しくできる	ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟが発揮できる時間管理ができる 看護必要度監査表で評価し必要時修正できる 看護必要度に関する知識が得られる	ﾘｰﾀﾞｰﾁｪｯｸﾘｽﾄ「○」の割合　　8割以上 超過勤務時間　5時間/人/月 看護必要度の監査評価2.3の割合　2割以下 看護必要度研修参加回数 2回/人/年	病棟8割以上　救急9.5割 4.08時間/年/人 1.8割/年 2回/年/人	･ﾘｰﾀﾞｰﾁｪｯｸﾘｽﾄを活用したことで、ﾘｰﾀﾞｰの役割を考えるきっかけとなった。目標値を達成することはできたが、現在のﾁｪｯｸﾘｽﾄでは、質的な評価が不十分である。次年度は、ﾁｪｯｸﾘｽﾄの内容を検討し、ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの質が向上できるようにしていきたい。 ・超過勤務に関しては、9月のみ目標値を達成することができなかったが、年目標は達成できた。今後も業務調整を行い、時間管理ができるように業務改善を行っていく。 ・看護必要度に関しては、目標値を達成することができた。記録の不備や評価間違いは、継続して発生しているため、部署の研修内容を検討し、繰り返し指導を行った。今後も看護必要度の精度をあげて目標値に近づけることをｽﾀｯﾌ全員で意識していく。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	業務改善を行い、職場環境を整える	業務改善・業務整理	業務ﾏﾆｭｱﾙの作成・評価 随時	4件/年	・必要時、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行い、業務改善を行うことができたが、ﾏﾆｭｱﾙ化までできた件数は少なかった。業務改善後、評価を行うには、指標が必要なため、今後もﾏﾆｭｱﾙ化できるように促していきたい。
学習と成長の視点	自己研鑽し、専門職として成長できる	救急看護の知識向上 泌尿器科看護の知識向上 脳外科看護の知識向上 看護実践能力の向上	院内外研修参加回数 5回/人/年 伝達講習開催数　　1回/人/年	11回/年/人 1回/年/人	・研修参加と、部署内の伝達講習開催は、全員が目標値を達成することができた。しかし、研修に参加し、伝達講習を行っても実践に活かすことがあまりできていなかった。次年度は、部署の看護実践に活かすことができるように、研修内容を検討し、取り組んでいく。

[6階小児詰所]

				看護師長　　小林　祥子	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	子どもと家族に寄り添い、質の高い看護を提供する				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	地域と連携し小児の療養環境を整える	受け持ち看護師の役割発揮 医療依存度の高いﾚｽﾊﾟｲﾄ入院の受け入れ GCUの児を地域に帰す 小児病棟としての環境整備 接遇の向上	患者参画型看護計画の評価数　3件/人/年 ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ数　5件/年 ﾚｽﾊﾟｲﾄ受け入れ数　30件/年　母児同室受け入れ100% ｴﾝﾄﾗﾝｽの模様替え　6回/年 お礼の件数　5件/年	4.8件/人/年 49件 68件 100% 12回 5件	入院期間が短期間のため評価修正に至らないｹｰｽが多かった。1週間以上の長期入院に関しては評価修正できている。医療ｹｱが必要な身体障害を持つ児がｽﾑｰｽﾞに在宅へ移行するために受け持ち看護師を中心に多職種を含めたｶﾝﾌｧﾚﾝｽを重ね、退院・定期ﾚｽﾊﾟｲﾄまで移行することができた。定期ﾚｽﾊﾟｲﾄの受け入れは対象患児をｸﾞﾙｰﾌﾟ分けし、組合せたことで複数の受け入れ準備ができた。新規ﾚｽﾊﾟｲﾄの受け入れは日帰りの情報収集入院を1月から1～3名/月予約を取り、それぞれの受け入れ方法を検討し予約を開始することができた。要請には100%対応できている。今後もNICU連絡会で情報共有を図り継続していく。付き添いのない患児や、急な入院準備のため保護者の一時不在や付き添い者の休息に対応するため、保育士が対応したことで安心して入院出来る環境を提供できた。お礼状は少ないが患者ｻｰﾋﾞｽ向上委員会の患者ｱﾝｹｰﾄでｽﾀｯﾌの対応に良い評価をいただくことが多い。厳しい意見があればｶﾝﾌｧﾚﾝｽでﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸし、原因究明し全体の接遇向上を目指していく。
財務の視点	業務改善の推進	効率的な時間管理 効率的な業務の推進 適切な定数管理 業務改善	超過勤務　5時間/人/月 定数見直し数　10品目 業務改善数　15件	4.7時間/人/月 5品目 18件	ﾁｰﾑ会の時間内開催や会議の方法・伝達方法を工夫する事で超過勤務時間の短縮に繋がった。入院患者数の増減はあるが、夕方の入院も少なくないことから遅出勤務は有効と考え今後も活用していく。品目数は少ないが使用状況に応じて随時修正出来ている。ｽﾀｯﾌから「あったらいいな」の業務改善の意見を募り、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽで検討し実現に取り組んだ。ｽﾀｯﾌの普段の業務の中での気づきを大切にし自分たちの職場を見つめ直す機会にもなった。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	専門職として看護の提供 安全・安心な業務の遂行 人材育成	応援機能の充実 ﾘｽｸの改善 人材育成 （救急業務・外来応援・学生指導）	応援実績件数　50件 ﾚﾎﾟｰﾄﾚﾍﾞﾙ3以上　5件/年 ﾚﾎﾟｰﾄからの業務改善　5件/年 ｽﾀｯﾌの育成　2人/年	31件 26件 10件	6階一般との相互応援、NICUとの連携など応援の手順を作成し、限られた人員でより安全な看護が提供できるよう体制を検討することができた。点滴漏れは21件あったが、点滴差し替えの必要な事例であり、発見後速やかに対応できている。人工呼吸器ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ3件は確認ﾐｽや思い込みに関連しており、手順の作成・改正や、確認方法の基本遵守を全ｽﾀｯﾌに浸透させることが重要と考える。後半、ｱｸｼﾃﾞﾝﾄが多く発生し、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを繰り返し対策を検討したことから業務改善も多くなった。今後はｲﾝｼﾃﾞﾝﾄﾚﾍﾞﾙからの業務改善が出来るよう、継続して取り組んでいくことが必要。応援ﾏﾆｭｱﾙを作成し小児看護経験1年目のｽﾀｯﾌを除くｽﾀｯﾌ全員が小児科外来での応援業務に入ることができている。小児救急・学生指導は育成できなかったので、来年度の課題とする。
学習と成長の視点	専門知識の向上	自己啓発	勉強会の開催　6件/年 勉強会の参加者数 院内研修会の参加数 3回/人/年	17件 20回/人	病棟内勉強会は教育係が中心になり計画的に実施できた。小児救急看護認定看護師の研修は参加率も高く、開催予定数より大幅に多く実施できた。研修会の参加数は平均値は目標に達したが、個人差が大きく、病院全体での必須研修の参加も少ない。参加が少ないｽﾀｯﾌには自発的な参加を促すような働きかけ・きっかけ作りが必要。

[NICU・GCU]

				看護師長　　田中　美紀	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	1．子どもの最善の利益を尊重し、看護の提供が出来る　　2.産科・小児病棟、小児科外来及び地域との連携及び継続看護の充実				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	子どもにとって適切で優しい環境を整える	ﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾀﾙｹｱの充実 他部門との連携強化	産科病棟との連絡会議 6回/年 小児病棟との連絡会議 10回/年 NICUでの保健師との面談 15回/年 症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ数　48回/年 小児科外来への応援人数 計22人	6回/年 10回/年 8回/年 48回/年 19人	ﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾀﾙｹｱの充実では、囲みの方法を変更し試行とｽﾀｯﾌへの周知を行った。次年度は評価していく。 哺乳介助の支援では、ﾆﾌﾟﾙ選択に対してｽﾀｯﾌへｱﾝｹｰﾄを実施。その後ﾆﾌﾟﾙ選択の基準を作成した。今年度は評価まで至らず、次年度評価し完成させていく。 看護研究では、騒音に対して研究した。今回は実態調査であるが、その結果をｽﾀｯﾌへ伝達し意識化しそれぞれが注意することが大切。今後の対策は次年度実施予定。保健師との連携もﾁｰﾑで検討し必要な症例に対して連携できている。各ﾁｰﾑが素早く情報を収集・整理し、地域への情報提供につなげている。 金曜日の症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽに不定期ではあるがMSWの参加があり、多くの情報共有出来ている。小児科外来へは、19名のｽﾀｯﾌが応援可能となっている。目標に至らず。症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの数は1週間に1件程度であるが、それ以外にﾁｰﾑのｳｵｰｷﾝｸﾞｶﾝﾌｧﾚﾝｽで十分に話し合うことが出来ている。看護計画へも反映できている。
財務の視点	個人が主体的に経営に参画する意識を持つ	物品管理 経費削減 応援機能の充実	超過勤務時間 3時間/人/月 定数見直し　2回/年	1.6時間/年/人 1回/年	ﾁｰﾑ会もそれぞれのﾁｰﾑで努力しているが全てが1時間以内に出来たわけではない。ﾘｰﾀﾞｰ会は、日勤の時間内に設定し短時間で終了するようにしている。　定数見直しは全体的に1回実施それ以外は適宜必要な物品を実施している。NICUは他の部署に比べて特殊な材料が多いが継続的に見直していく。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	個人が主体的に専門職として業務に取り組むことが出来る	ﾁｰﾑ活動の充実 係活動の充実	ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄのｶﾝﾌｧﾚﾝｽ数 20回/年 業務改善　24件/年 防災ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ　1回	 9回/年 25件/年 1回	ﾚﾎﾟｰﾄの内容を係で検討し、必要なものは全体のｶﾝﾌｧﾚﾝｽで検討している。ﾚﾎﾟｰﾄの内容に関しては朝のﾐｰﾃｨﾝｸﾞで周知されている。指示受けのﾚﾎﾟｰﾄ2年分に関して分析しその対策を検討した。 業務改善は25件、年間目標24件のほぼ予定通り。 防災ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ（火災編）もｶﾝﾌｧﾚﾝｽを活用し全員対象に実施した。新採用者にも係が必ずｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝしている。問題点に関してはﾁｰﾑ会・ﾘｰﾀﾞｰ会で検討し対策を導き出している。今後は、ﾁｰﾑ間の情報共有をより密にする方法を検討。
学習と成長の視点	専門職として必要な知識・技術を習得し、共に成長できる	自己啓発 後輩育成 教育体制の定着	ｽﾀｯﾌによる勉強会 1回/年/人 研修参加数　　15回/人/年	56回/年 20.3回/年	ｽﾀｯﾌが講師になって実施する勉強会は全員が実施することが出来た。複数回実施した看護師もいる。このｼｽﾃﾑは今後も継続し自己研鑽と部署の知識の向上につなげていく。ｽﾀｯﾌの中には興味のある研修に積極的に参加し、その内容を部署へ伝達・周知し部署の知識向上に貢献している。 挿管児の体重測定のｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ、蘇生のｼﾐｭﾚｰｼｮﾝを実施することが出来た。今後も継続し、技術の維持・向上に努めていく。 今年度の新人職員は定着。更にｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟしていく予定。3月異動者1名退職。10月採用者2月に退職。1月、2月採用者それぞれ1名は計画的にｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ中。

［手術室・内視鏡センター］

				看護師長　　永田　美華	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	患者の安全・安心を第一にﾁｰﾑﾜｰｸを高め、責任を持った誠実な看護を提供する				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	思いやりを持ち、信頼される誠実な看護を提供する	検査・周術期患者のｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(倫理的問題含む) 看護の感性を高めるｶﾝﾌｧﾚﾝｽの実施 ｱｸｼﾃﾞﾝﾄが起きない 接遇向上	ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ件数 各12件以上 ﾃｰﾏ別ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ件数 各6回以上/年 ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ数　0件 患者ｱﾝｹｰﾄの結果で手術室・内視鏡の悪い評価が出ない 悪い評価　0件	OP室16件　ｾﾝﾀｰ60件 OP室1件/年　ｾﾝﾀｰ22件 OP室0件　ｾﾝﾀｰ1件 ｾﾝﾀｰ1件	担当者が日程調整・時間調整を行い、年間目標値を上回ることが出来た。手術室の術前術後訪問の評価が滞り、ﾀｲﾑﾘｰに話し合えなかったため、今後は訪問用紙の活用方法を検討する必要がある。ﾃｰﾏ別ｶﾝﾌｧﾚﾝｽは担当者を決めﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰが関わった事で、意見交換が活発に行えた。ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを通して日々の看護を振り返り、患者の苦痛を考えた看護を提供するなど行動変化があった。ｾﾝﾀｰはｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ33件、転倒2件、そのうちｱｸｼﾃﾞﾝﾄ1件あった。すべて対策を検討し必要に応じ業務改善を行っている。 ｾﾝﾀｰはｲﾝｼﾃﾞﾝﾄの情報共有は出来ているが、ﾚﾎﾟｰﾄへとつなげることが出来ていないｹｰｽがある。手術室は事故ﾚﾍﾞﾙ0のﾚﾎﾟｰﾄ提出も増えてきたが、情報共有の活用が課題。 ｱﾝｹｰﾄ回収数は385件中、3（ふつう）は36件、2（悪い）1件、1（とても悪い）1件あった。後半は2以下はなかった。意見・要望があった時は、検討・改善することが出来、接遇向上につながった。
財務の視点	ｺｽﾄ意識を持ち、病院経営に参画できる	物品破損が出ない 請求漏れが出ない 不良在庫の整理 検査件数が増える ｺｽﾄ管理に関連した業務改善	物品破損　各5件以下 請求漏れ・間違い　各0件 ＯＰｷｯﾄ・物品定数の整理15件以上 検査件数　5,800件以上 ｺｽﾄに関する業務改善 各5件以上	OP室1件　ｾﾝﾀｰ6件 OP室2件　ｾﾝﾀｰ5件 OP室27件　ｾﾝﾀｰ16件 5,736件 ｾﾝﾀｰ3件	ｺｽﾄ箋の修正、迷った時は医事課に確認するようにした。ｺｽﾄ一覧表の改正後は間違いなく請求することができている。 物品の定数整理は回転率を考慮し、医師と調整したことで不良在庫を使用・整理することができた。 OPｷｯﾄ・ﾋﾟｯｷﾝｸﾞﾘｽﾄの見直し・修正し整理することができた。 目標値には及ばなかったが、緊急や予定外検査もｳｴﾙｶﾑの姿勢で受け入れることができた。 低ｺｽﾄのｻﾝﾌﾟﾙを使用・評価し、局注針や検査着を変更してｺｽﾄ低減につながった。
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	ﾁｰﾑﾜｰｸを高め、働きやすい環境を整えることで責任ある看護を提供できる	ＯＰ・内視鏡間の応援機能の継続 効率的な業務改善 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝで良好な人間関係が築ける 責任を持ち自立した看護の実践	応援実績 業務改善数　各25件以上 退職者数　0人 目標管理達成度　向上	121件（77/44） OP室64件　ｾﾝﾀｰ85件 1人 向上	応援実績は手術室から内視鏡は77件、内視鏡から手術室は44件。手術室は応援ﾉｰﾄを活用し業務内容を共有、実践することが出来た。内視鏡では、具体的な業務依頼をしたことでお互いｽﾑｰｽﾞに応援業務を行えるようになった。また突然の応援要請にも対応し継続されている。 業務改善数は手術室64件、内視鏡85件。手術室は個々が自発的に取り組むようになり、内視鏡は業務改善ｼｰﾄの活用を継続しｶﾝﾌｧﾚﾝｽで評価し、働きやすい環境を作ることが出来た。年間目標も大きく上回り効果的な業務改善が出来ている。 退職者は1名。 週1回の合同ﾐｰﾃｨﾝｸﾞで委員会の連絡事項を周知し、情報の共有・話しやすい環境づくりを行っている。今後もｽﾀｯﾌ間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの場を持ち、言葉遣いに注意し挨拶を継続していく。また困ったことや気付いたことは報告・連絡・相談を行い、少しずつ実践出来ている。今後も責任感を持って自立した行動を続けていく。 個人目標ｼｰﾄについては中間評価より向上が見られた

区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績	分析・評価・今後の課題
学習と成長の視点	お互いの知識を共有し専門職として成長できる 部署の看護の質を向上できる	積極的に研修に参加できる ﾗﾀﾞｰ評価の向上 専門分野知識の共有・向上 後輩育成 ＯＰ室ﾗﾀﾞｰの活用	研修参加数　12回以上/人/年 ﾗﾀﾞｰ評価　ﾗﾀﾞｰ申請者数増加 ｽﾀｯﾌ勉強会　1回/人/年 指導者の活躍支援(中堅・教育担当) ﾘｰﾀﾞｰ業務の自立　　3名 ﾗﾀﾞｰ評価　　全員の評価	平均28回/人/年 5人 11回/年 4名ﾘｰﾀﾞｰ導入 3以上	参加希望の研修がある場合は、朝のﾐｰﾃｨﾝｸﾞで報告し業務調整することで、16回～45回と個人差はあるが目標値を大きく上回り達成できた。（長期研修参加していたｽﾀｯﾌ8回参加）ﾗﾀﾞｰ研修においても申請が滞っているｽﾀｯﾌもいたが、今年度は5人が申請することができた。ｽﾀｯﾌ主催の勉強会は、緊急OPや検査のため予定を変更することもあり、開催が遅れることもあったが、1人1回の開催はでき、目標は達成できた。勉強会の内容も現場で活かせるもの、必要なものであり、知識の向上を図れた。後輩育成では、4名がﾘｰﾀﾞｰ業務に入ることができ、自立への支援ができた。手術室ﾗﾀﾞｰにおいては、各自が具体的な目標を持ち、評価値をあげることができた。しかし、配布が遅れたことで、前期に活用できなかった。次年度は目標設定時に活かせるように手術室ﾗﾀﾞｰの活用方法について検討が必要。

［外来］

				看護師長　　森　浩子	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
27年度 看護部目標	親切・丁寧に患者に寄り添う看護を提供し、専門職として成長できる				
部署の使命	心ある接遇で、患者に寄り添う看護を提供する				
区分	目標	主な成果	27年度目標値	27年度実績	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	温もりのある看護を提供する	記録の充実 接遇の維持・向上 患者誤認防止 糖尿病療養指導士の活躍による看護の質の向上	受持患者数　全ｽﾀｯﾌ1件/年 記録監査数　各ﾁｰﾑ9～10件 指導記録用紙の見直し・作成数　適宜 ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ　各ﾁｰﾑ4～5件 お礼・苦情数　お礼10件 苦情0件/年 患者に名乗ってもらう事の実施率　100% 爪外来でのﾌｯﾄｹｱ　20件/年	全ｽﾀｯﾌ1件/年 4件 29件 お礼31件　　苦情3件	年間を通し、全ｽﾀｯﾌが受け持ちを持つ事ができた。看護計画の立案、修正もできている。しかし、外来記録係が監査について勉強会を開催し、知識の統一を図ったが全員が監査できるまでにはいかなかった。次年度は全員が監査できるよう継続して進めていく。 ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽはﾁｰﾑによってばらつきがあるが29件実施できた。 お礼の件数31件/年、苦情件数3件/年であり、接遇係の勉強会を継続し行ったこと、ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽによる患者の情報共有を行えた事が苦情減少に繋がったと考える。しかし、苦情の中の2件はｽﾀｯﾌの接遇に関するものだったので、次年度接遇を強化し0件になるようにしていく。 患者の誤認防止に関しては、患者に名乗ってもらい確認する事を徹底して行った。全て実施できてはいないが、患者誤認のｲﾝｼﾃﾞﾝﾄは起きておらず、患者確認に対する意識は高まったと考える。今後も継続して実施し、100%できるようにする。 診療材料の定数変更は定期的に実施し、低ｺｽﾄへの変更にも協力できている。 ｺｽﾄ漏れに関しては、医事課と協働し、新しい加算の情報やｺｽﾄ漏れ対策を検討し実施できた。次年度診療報酬改定に伴い、速やかに対応できるようにし、ｺｽﾄ漏れが起きないようにしていく。 超過勤務時間は、午後からの応援ができるｽﾀｯﾌを育成、空き時間を利用し、短時間でも応援できる体制ができた。自主的に行動できているｽﾀｯﾌも見られる。このことで超過勤務時間減少までには至らなかったが、今後応援を活発に行い超過勤務時間減少に繋げていく。 業務改善は必要に応じ行ってきた。各科ばらつきはあるが全体的には目標達成できている。 応援要員の育成は新たに15名増員となったが、1科/人には至らず、機能的応援も含まれている。しかし、短時間でも応援に行く意識づけはできてきているので、まだ応援科のないｽﾀｯﾌの減少に繋げていく。 ﾁｰﾑ会は3回/年実施できている。業務調整のつかない時は、紙上にて意見交換を行い情報共有に繋げている。ﾘｰﾀﾞｰ会にも嘱託職員のﾘｰﾀﾞｰ、ｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰが参加し活発な意見交換も行えた。 研修は17時以降の参加が難しいｽﾀｯﾌが多く、参加数は少ないが、接遇研修等は代表が参加し伝達研修を行い、参加数が増加した。しかし、すべての研修で実施できていないため、偏りが見られる。ﾗﾀﾞｰ研修は殆ど参加できていない。外来では時間内に数回実施することで参加者が増加した。時間内であれば、参加希望者も多く、今後も業務調整を行いながら継続して行っていく。 看護研究は今年度透析ｽﾀｯﾌにて実施。次年度は準備期間とし29年度できるよう調整を行っていく。
財務の視点	経営改善に努める	診療材料等の無駄を排除 コスト漏れを防ぐ 勤務時間管理	物品管理　1回/日 在庫管理　2回/年（必要時適宜） 医事との連携　必要時適宜 超過勤務時間　10時間/人/月	1回/年 2回/年 6.8時間/人/月	
内部ﾌﾟﾛｾｽの視点	応援機能の充実	効果的な業務改善 協力体制の強化 ﾁｰﾑ会で意見交換し、統一した看護を提供する	業務改善数　各科4件以上 応援科の出来るｽﾀｯﾌを増やす1科/人 ﾁｰﾑ会開催数　各ﾁｰﾑ3回/年	4.7件/科 15人 3回/年	
学習と成長の視点	看護の専門性の向上	看護実践能力の向上 専門的技術、知識の習得	ﾗﾀﾞｰ申請　2人/年 研修会への参加　10回/人/年　指導内容・件数　適宜、必要時 看護研究の実施　1件/年	1人/年 19回/人 1件/年	

☆看護部委員会活動実績☆

委員会名	目標	活動結果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護副師長会議（看護補助者会）	看護副師長としての役割を認識し、組織の活性化と看護の質の向上を図る 1.看護補助者教育を行い、質の向上を図る 2.機能評価受審後の課題に対する業務改善を行い、組織の質の向上を図る	1.認定看護師や理学療法士の協力を得て、毎月補助者研修を計画的に実施し、ﾚﾎﾟｰﾄを評価することで、看護補助者のﾚﾃﾞｨﾈｽ、習得度の評価、関係性を密にする機会となった。また、実施した研修内容を看護補助者業務ﾏﾆｭｱﾙに随時追加し、充実が図れた。 2.機能評価のB項目に対して看護部で取り組む問題について検討、改善を行った。一時洗浄時のPPEの設置及び装着については、各部署の現状把握を行い、PPE装着と一時洗浄前の用手洗浄の禁止を徹底した。また、IC同席及び記録確認についてはICｶｳﾝﾄ用紙を作成し、試用している。	◎岩切いつ子 ○江藤潔子 清水美幸 植村恵美 望月ゆみ子 溝内千晶 川上好美 飯阪幸子 熊本訓子
主任会議	1.看護手順・検査手順の活用と評価 2.ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰの育成と支援 3.ﾘｰﾀﾞｰﾅｰｽの育成	1.看護手順・検査手順の見直しと改正を行った。看護手順の活用方法についてｱﾝｹｰﾄ調査を行い、看護手順の見やすさ・分かりやすさについて検討し改正を行った。 2.固定ﾁｰﾑﾅｰｼﾝｸﾞ基準の評価・改正を行った。固定ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ研修を年２回実施し、ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ評価表を使用して各ﾘｰﾀﾞｰの状況を把握しながら支援した。 3.ﾘｰﾀﾞｰﾅｰｽ研修会①、②を実施した。	◎隅野美佐与 ○大宅加代 武内香織 西田京子 山本直美 山本明美 祷淳子 坂井雅子 尹明恵 葉山美紀 西山知子 金子貴久代 遠藤千恵 船本加奈子 井上千穂 辻井美保 浅田陽子 寺中直美 北野浩輝 阿多亜矢子 小島直美 山中かおり 横田優 濱田幸子
看護リスクマネージメント委員会	目的：看護部内で発生したｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄを分析し、対策の立案・実施・評価を行い、再発防止に努める 目標①思い込み、確認不足によるｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄの事例検討を行い、原因を分析し、院内で統一した行動計画を立案する ②転倒・転落の分析を行い、事故の起こる要因を明らかにする	平成27年度は、思い込み・確認不足によるｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄを中心に分析を行った。ﾚﾎﾟｰﾄ件数は528件でうち265件が思い込み・確認不足によるものだった。前年度に比べ、ﾚﾎﾟｰﾄ件数は53件増加したが事故ﾚﾍﾞﾙの内訳としては、ﾚﾍﾞﾙ0が43件、1が50件増加し、2は48件減少、3は8件増加していた。ﾚﾎﾟｰﾄ提出件数は増えているが、事故ﾚﾍﾞﾙの0・1が増えていることから、ﾋﾔﾘ・ﾊｯﾄを報告することで情報共有ができ、ｱｸｼﾃﾞﾝﾄに繋がらないように取り組むことができたと評価する。確認不足の要因としては、ﾀﾞﾌﾞﾙﾁｪｯｸができていないこと、ﾀﾞﾌﾞﾙﾁｪｯｸをしていてもその方法が統一されていないこと、PDAの未使用があり、まずPDAの使用とﾀﾞﾌﾞﾙﾁｪｯｸを行うことに対しての意識付けを行った。各部署にあわせた内容に工夫し、読みあわせを行うことで意識付はできたため今後も継続していく。 転倒・転落の件数は103件で、前年度より31件減少していた。転倒・転落に対しては、ｾﾝｻｰﾏｯﾄの設置や4点柵の使用などの対策をたて、対応することができた。しかし、転倒・転落に対する分析も確認不足に関してのみ行ったため全件の分析はできなかった。	◎阿多亜矢子 ○辻井美保 中村美穂 竹田容子 阪口みどり 石井純代 平井美由紀 坂本美由起 北野浩輝 筒井裕子

委員会名	目標	活動結果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護記録委員会	1.看護記録の充実を図る 1）行った看護が記録できる 2)看護記録から看護必要度が正しく評価できる 3）看護が評価できる 2.質的監査の実施・評価 3.ﾗﾀﾞｰ研修の評価	1.看護記録基準の見直しを行う 看護記録（ﾃﾞｰﾀ・ﾍﾞｰｽ）の改正 看護記録（ﾃﾞｰﾀ・ﾍﾞｰｽ）の見本の改正 重症観察記録の改正 監査基準の改正 監査の改正 内視鏡検査記録監査の改正 救急外来記録基準の改正 救急外来記録の改正 新生児ｻﾏﾘ様式Ⅰの改正 新生児転院ｻﾏﾘの作成 1）行ったｹｱを記録に残す 2）各部署での問題点の抽出と検討を行う 3）各部署の参画型看護計画数・看護記録監査数・看護必要度監査数の把握と分析 2.看護記録監査表(質的監査）の作成 記録監査については、各部署のｶﾙﾃを監査し、他部署の特徴を共有できた(外部調査) 記録監査についての問題の抽出 3.ﾗﾀﾞｰ研修はﾗﾀﾞｰⅠ・Ⅱ・Ⅲの研修開催及び内容検討を3つのｸﾞﾙｰﾌﾟでｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸし、研修内容を改正した。研修受講者ｱﾝｹｰﾄに基づき、来年度のﾗﾀﾞｰ研修内容の検討を行う	◎植村恵美 ○金子貴久代 外山亜矢子 山田育子 加納楓 池上浩子 木村千亜紀 新川由華 二階ゆかり 川崎華子 藪内裕子
看護広報委員会	1.当院の看護活動を地域にｱﾋﾟｰﾙし、市民とふれあう 2.看護師確保のための活動をする	看護協会主催ふれあい看護体験：平成27年6月11日（木）高校生2名受け入れ 中学生職場体験学習：平成27年11月18日（水）19日（木）：忠岡中学校2年生女子2名、平成27年11月19日（木）20日（金）小津中学校2年生女子2名受け入れ 看護部ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：平成28年3月に更新し、今年度新たに、認定看護師紹介欄を追加した 平成27年5月15日（金）13時～15時　ｱﾙｻﾞｱﾄﾘｳﾑにて看護の日ﾌｪｱ開催、参加者106名 平成28年5月13日（金）13時～15時　ｱﾙｻﾞｱﾄﾘｳﾑにて看護の日開催予定	◎川上好美 ○岩切いつ子 石川希 奥野美恵 鈩真由美 稲葉知佳 二宮有沙 藤野陵子 肥後麗華 鷺森美智子 畦ヶ谷愛理
感染リスクナース部会	1.正しい方法とﾀｲﾐﾝｸﾞで手指衛生を実施できるよう働きかける 2.各部門における感染対策の標準化をはかる	1.新たに手指衛生ﾁｪｯｸｼｰﾄを作成し、期間を定め各部署の職員の手洗いの状況を観察した。手洗いが不充分な職員に対し正しい方法とﾀｲﾐﾝｸﾞで手洗いすることを指導。またﾌﾞﾗｯｸﾗｲﾄを使用し視覚的に手指衛生のﾁｪｯｸを行った。 2.部会の全員で感染対策ﾏﾆｭｱﾙの標準予防策と経路別予防策の見直しと改正をおこなった。 ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ～Ⅲの担当を決めた。各自が講師として、研修資料作成から準備し、研修を実施した。 陰部洗浄ﾎﾞﾄﾙの使用方法について他施設や文献を調べ、院内での使用手順の統一を図るための準備を行った。	◎濱田幸子 ○寺中直美 北悠奈 金沢久美子 福本共美 坂本恵三 新甚尚美 溝内千晶 荒木結香 森弘樹

委員会名	目標	活動結果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
キャリア開発委員会・クリニカルラダー	1.他委員会との情報交換や連携をとり、ﾗﾀﾞｰ研修内容を充実する 2.職員が院内研修ｽｹｼﾞｭｰﾙを把握し、自立した教育ｼｽﾃﾑへの参加が出来る 3.ﾗﾀﾞｰとﾅﾗﾃｨﾌﾞの研修を行う	1.ﾗﾀﾞｰ担当委員を決め、研修内容を見直し検討した。 2.教育ｼｽﾃﾑへの参加がしやすいように年間ｶﾚﾝﾀﾞｰを作成 必須研修出席表の締め切りを1週間前とした。ｷｬﾘｱ全体会議でも翌月の受付部署を伝達し、ﾗﾀﾞｰ委員会の議事録にも受付部署を記載した 3.ﾗﾀﾞｰとﾅﾗﾃｨﾌﾞについての研修を年2回行った。	◎坂井雅子 ○西村映里香 西垣祐美 鍛冶幸司
キャリア開発委員会・新人担当	1.新人看護職員研修の内容の充実を図る 2.ﾁｪｯｸﾘｽﾄの内容の評価を行う 3.ﾛｰﾃｰｼｮﾝ研修の運営・評価と今後の課題を明確にする 4.新人・既卒新人・中途採用者の進行状況の把握を行う 5.必要研修への参加を促す	1.平成27年度は、5月に事例検討、1月に多重課題研修を実施した。事例検討では症例を基に、連絡・報告・相談についてｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを行った。報告・連絡・相談の必要性を理解し実践につなげた。多重課題研修では、患者への声かけと説明、患者確認と誤認防止、優先順位を考えた対応と応援依頼を学んだ。自己の看護の振り返りと今後の課題が明確になり、よい研修会となった。ｼﾅﾘｵの見直しなど行い、来年度も実施したい。 2.ﾁｪｯｸﾘｽﾄは、業務ﾁｪｯｸﾘｽﾄに到達月を記入することで到達時期が明確になった。来年度は到達月の見直しを行いたい。 3.ﾛｰﾃｰｼｮﾝ研修は、各部署の指導が行き届いており、幅広い看護技術の習得に繋がった。 4.交流会は適切な回数で実施することが出来た。 しかし、既卒新人が1名であったため、6ヶ月交流会以降は行わず、配属部署でのﾌｫﾛｰをお願いした。 1月、2月の中途採用者は職場環境の適応に不安があり、来年度も交流会を実施することにした。 5.新人研修以外の院内研修会には、交流会時にｱﾅｳﾝｽするなど参加を促した。	◎武内香利 ○西山知子 寺田利恵 井上和美 中野裕美 二家本潤 浅田陽子 江藤潔子 橋本舞子
キャリア開発委員会・プレセプター	1.ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ制度を看護職員全員が理解し、活用できる	1.ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ研修時、「私の成長日記」と「自己評価表」をﾁｪｯｸし、評価基準でCが続けば相談を持ちかけた。 2.教育担当者会議、ｷｬﾘｱ全体会議で「私の成長日記」・「自己評価表」の使用と支援について声かけを行った。 3.ﾗﾀﾞｰⅡﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ研修を計画に基づき実施。 4.看護部新人研修と次年度のﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰへ当院のﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ制度について説明を行った。 5.各時期にﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰの状況に応じて、研修の企画・運営を行った。 6.ｷｬﾘｱ全体会議でﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰの状況についての情報交換を行った。	◎横田優 ○寺田真弓 福島妙 松窪彩
キャリア開発委員会・臨地実習指導	1.基礎教育課程の把握を行う 1）教員と情報交換を行い、連携を深める 2.臨地実習受け入れ施設として指導体制の充実を図る	1.各学校の説明会・振り返りに参加し、教員と意見交換・情報共有を行った。また、各部署での実習状況についても情報共有を行い問題があれば病院全体で解決できるよう取り組む事が出来た。 2.病院ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝﾏﾆｭｱﾙ、泉大津市医師会附属看護高等専修学校の評価表を作成し、活用する事で統一した指導、評価を行う事が出来た。	◎大宅加代 ○松山鈴代 辻本恵由子 桑野陽子 依岡和美

委員会名	目標	活動結果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
キャリア開発委員会・教育担当者会議	目的1.看護師教育の企画・運営への支援　2.ｷｬﾘｱ開発全体を把握し、各部署における教育全般の支援を行う 3.教育の中心的役割を担う 目標1.看護の質向上のために、研修参加を働きかける 2.臨地実習受け入れ、ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ及びﾌﾟﾘｾﾌﾟﾃｨへの支援 3.2年目以降の看護職員への支援・教育ｼｽﾃﾑを構築する	1.研修参加については、各部署で継続して呼びかけることができた。 2.臨地実習の受け入れ、学生指導は各部署で積極的に関わり、協力して行った。新人職員、ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰの支援・教育は個人の状況に応じ、全体で情報共有しながら実践した。 3.2年目看護師教育ｼｽﾃﾑを考案し、今年度はﾒﾝﾊﾞｰｼｯﾌﾟ研修を開催した。研修課題を課す事で、研修内容をﾘﾌﾚｸｼｮﾝし、学びを深めるのに有効であった。	◎井上千穂 ○隅野美佐与 西田京子 坂井雅子 西山知子 大宅加代 川上好美 野口愛 小島直美
認定看護師会	1.認定看護師の役割や活動内容について伝達講習を実施する 2.教育課程研修生に対して研修中のﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟを必要時する 3.おづﾚﾝﾝｼﾞｬｰ新聞を3ヶ月に1回発行し、認定看護師の活動内容を報告する 4.認定看護師研修を年1回実施、後輩育成に寄与し自己啓発を行う	1.伝達講習の実施により、認定看護師を目指したいと答えた看護師が3名いた。 2.研修中の疑問や質問などへの回答等を行い、適宜ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟを行った。 3.順番に3ヶ月に1回の発行を実施し、院内掲示をした。 4.年間に3回の認定看護師研修を実施した。	◎池野真智 ○望月ゆみ子 北野京子 濱田幸子 福島美砂
退院調整委員会	1.退院支援計画書の定着 2.ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの実施に向けてのｼｽﾃﾑの定着と実施	退院支援看護師として、退院支援計画書について全職員に向けて勉強会を行い、必要性の理解はできた。MSWとの関係も出来ているため、退院支援における介入もｽﾑｰｽﾞに行えるようになり、定着に繋がった。 退院支援計画書が定着することで、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの必要性が理解され、各部署適宜実施されるようになった。 今まで問題点とされていた記録も出来る等ｼｽﾃﾑは構築された。しかし退院後医療行為が必要な患者に対して行う合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽは必須だが、まだ数件しか行えておらず、今後退院支援看護師として定着できるように継続して支援していく。	◎江藤潔子 ○遠藤千恵 桧垣敦子 本田由美 川崎伸絵 土井美和 長濱桂子 徳尾純子 若井規子
患者サービス向上委員会	1.患者ｻｰﾋﾞｽ向上委員会のｱﾝｹｰﾄで悪い評価がない 2.職員一人一人に接遇について考えてもらう	ｱﾝｹｰﾄ調査実施。ｱﾝｹｰﾄ内容の改善を行い、より細かな意見が出るようになった。 ｱﾝｹｰﾄ結果の悪い評価に対して、各部署でｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行い、改善につなげ振り返った。 6、8、10、12、2月に接遇研修会開催。各月の担当者を決め実施。 8月に身だしなみﾁｪｯｸ実施。上司からの他者評価を行った。 11月、1月に院内ﾗｳﾝﾄﾞ実施。ﾗｳﾝﾄﾞ評価表を作成し全部署ﾗｳﾝﾄﾞした。指摘箇所に対して各部署で対策し改善につなげている。	◎清水美幸 ○熊本訓子 福原史恵 浅田史美 瀬戸山睦子 井上真佐美 大江桂子 神谷弥生 森佳子 竹内しおり

委員会名	目標	活動結果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
現任教育推進委員会	1.院外研修伝達講習の企画・運営 2.認定看護師会研修の企画・運営	1.公費での看護部院外研修の伝達講習の企画運営 ①講師への講義依頼用紙改正 ②伝達講習受講者ﾘｽﾄを使用し、師長ﾐｰﾃｨﾝｸﾞでｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰから連絡するｼｽﾃﾑの継続 ③受講者へ部署での伝達講習依頼用紙の使用継続 ④部署での伝達講習参加者把握のためｶﾝﾌｧﾚﾝｽ用紙ｺﾋﾟｰの提出を継続 ⑤伝達講習受講者の部署・人数を設定。参加者は所属長が決定 ⑥伝達講習の内容が部署で活用されているか評価するため、受講後3ヶ月以内に「伝達講習実践ﾚﾎﾟｰﾄ」を提出するｼｽﾃﾑを構築。ﾚﾎﾟｰﾄ内容を委員会で評価した ⑦伝達講習実績 6/18（木）がん患者の意思決定への支援 7/29(水）重症度・医療看護必要度評価者院内指導者研修 8/17（月）臨床実習指導者① 9/10（木）運動機能回復への援助　まひや拘縮のある患者への援助 11/2（月）病棟管理者としてできる退院支援と地域連携 11/12(木）組織で取り組む感染管理 12/21(月)看護記録(基礎編) 1/18（月）新人看護職員研修責任者研修 2/2（火）合併症のある妊産婦の看護 3/7（月）がん化学療法を受ける患者の看護 2.認定看護師会の研修運営の実施 ①認定看護師会研修運営実績 7/31（金）認定看護師の活動について 11/5(木）子ども虐待の早期発見と対応(小児救急看護認定看護師) 2/4（木）災害机上訓練（救急看護認定看護師）	◎飯阪幸子 ○祷淳子 益本真由美 村上陽子 船本加奈子 那須井みか子 森下多美 深川政和 山中かおり

☆看護部院外活動実績☆

No.	活動場所	活動内容	開催日	活動者名
1	浪切ﾎｰﾙ	日本ｵｽﾄﾐｰ協会 「岸和田ＱＯＬ相談会」	平成27年4月11日	池野真智
2	2015年度大阪府専任教員養成講習会 「看護論演習」	大阪府看護協会	平成27年5月13日 ～7月28日	鳥羽敏子
3	大阪府立農芸高等学校	平成27年度「性教育人権講演会」	平成27年6月17日	桑野陽子
4	長崎ﾌﾞﾘｯｸﾎｰﾙ	平成27年度小児救急電話相談 ｽｷﾙｱｯﾌﾟ研修会　基礎ｺｰｽ	平成27年6月18日	北野京子
5	大阪府看護協会 桃谷ｾﾝﾀｰ	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習講師とｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 打ち合わせ会	平成27年8月20日	望月ゆみ子
6	大阪府看護協会 桃谷ｾﾝﾀｰ	救急看護2　演習　ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	平成27年8月21日	望月ゆみ子
7	TKP新大阪ﾋﾞｼﾞﾈｽｾﾝﾀｰ	ﾌﾟﾚﾊﾟﾚｰｼｮﾝﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	平成27年9月6日	江藤潔子 渡邊優美
8	ﾃｸｽﾋﾟｱ大阪	歯科との連携に向けた他職種向け研修会（ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄｺｰｽ）	平成27年9月8日 10月18日 11月10日	田中美紀 溝内千晶
9	ｽﾐｽ・ｱﾝﾄﾞ・ﾈﾌｭｰ　ｳﾝﾄﾞﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ(株) 関西支店	在宅でのより良い褥瘡管理を目指して	平成27年9月26日	池野真智
10	国立ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ記念青少年総合ｾﾝﾀｰ	平成27年度小児救急電話相談 ｽｷﾙｱｯﾌﾟ研修会　実践ｺｰｽ	平成27年9月26日 ～9月27日	北野京子
11	泉大津市医師会附属看護高等専修学校	成人看護概論・消化器看護 母性看護（正常） 骨・関節・呼吸器 循環器・内分泌 脳神経・口腔看護 血液・感染・ｱﾚﾙｷﾞｰ	平成27年10月～12月	辻本恵由子 奥野美恵 藤野芳子 西川直美 東賢 佐野和佳
12	大阪府看護協会 桃谷ｾﾝﾀｰ	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	平成27年10月29日 ～10月30日	望月ゆみ子
13	河﨑会看護専門学校	成人看護方法論Ⅲ 内分泌・代謝講師	平成27年11月10日 ～12月8日	望月ゆみ子
14	大阪府看護協会	小児救急看護ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	平成27年11月13日	北野京子
15	(株) へるす出版	小児看護12月号執筆　ﾎｰﾑｹｱ各論	平成27年12月	北野京子
16	大阪国際会議場	第28回日本内視鏡外科学会総会 演題発表	平成27年12月11日 ～12月12日	阿多亜矢子
17	大阪府立成美高等学校	平成27年度「性教育人権講演会」	平成28年1月21日	桑野陽子

☆看護部院内研修実績☆

No.	研　修　名	日　時	参加人数
1	新人看護部職員研修	4月2日	7名
2	第1回看護部接遇研修	4月3日	7名
3	新人看護部職員研修	4月3日	7名
4	新人第1回研修会（1日目）　酸素吸入・採血	4月6日	7名
5	新人第1回研修会（2日目）　静脈注射・輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ	4月7日	7名
6	新人看護部職員研修　オーダリング説明会	4月6日～8日	7名
7	第1回ﾘｰﾀﾞｰ研修会	4月10日	14名
8	新人交流会	4月10日、17日、24日	6名
9	第1回看護研究指導（講義）	4月20日	33名
10	1ヶ月交流会（新人）	5月8日	6名
11	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ　記録	5月11日	9名
12	第1回管理職（看護師長）研修	5月19日	８名
13	１ヶ月半交流会	5月22日	6名
14	新人第2回研修会（事例検討）	5月22日	6名
15	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ　ﾘｽｸ	5月25日	14名
16	第2回看護研究指導	5月25日	25名
17	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ1ヶ月交流会	5月29日	6名
18	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ　感染	6月2日	10名
19	新主任研修	6月5日	4名
20	看護補助者研修（標準予防策）	6月5日	16名
21	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　記録	6月8日	16名
22	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	6月10日	17名
23	2ヶ月交流会	6月12日	5名
24	新人第3回研修会（12誘導・ﾓﾆﾀｰ）	6月12日	6名
25	第2回看護部接遇研修	6月17日	36名
26	伝達講習　「がん患者の意思決定への支援」	6月18日	7名
27	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　ﾘｽｸ	6月22日	16名
28	第3回看護研究指導	6月24日	20名
29	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　ﾅﾗﾃｨｳﾞ	6月24日	23名
30	3ヶ月交流会	7月3日	5名
31	看護補助者研修（接遇）	7月3日	13名
32	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　感染	7月7日	11名
33	新人第4回研修会（ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ）	7月10日	7名
34	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ3ヶ月交流会	7月13日	6名
35	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅲ　記録	7月13日	11名
36	第2回管理職（看護師長）研修	7月21日	10名
37	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅲ　ﾘｽｸ	7月27日	10名
38	重症度、医療・看護必要度評価者研修	7月29日	30名
39	認定看護師研修（認定看護師への道から現在）	7月30日	24名
40	看護補助者研修(医療安全)	8月7日	15名
41	伝達講習　「臨地実習指導者」	8月17日	8名
42	第3回看護部接遇研修	8月19日	45名
43	伝達講習「DiNQL　2015年度研修会」	8月20日	9名
44	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅲ　感染	9月1日	8名
45	看護補助者研修（AEDの使用方法・急変時対応）	9月4日	15名
46	伝達講習　「麻痺や拘縮のある患者への援助」	9月10日	5名
47	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ　記録	9月14日	4名

No.	研　修　名	日　時	参加人数
48	第3回管理職（看護師長）研修　伝達講習 「看護管理者が担うﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」	9月15日	9名
49	新人6ヶ月交流会	9月29日	5名
50	ﾘｰﾀﾞｰ研修	9月30日	12名
51	新人看護技術ﾛｰﾃｰｼｮﾝ研修	10月5日～11月13日	5名
52	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ　感染	10月6日	6名
53	中途採用者交流会	10月8日	2名
54	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	10月14日	8名
55	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ6ヶ月交流会	10月14日	6名
56	第4回看護部接遇研修	10月21日	35名
57	第2回ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ研修会	10月23日	13名
58	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅰ　ﾘｽｸ	10月26日	3名
59	伝達講習 「病棟管理者としてできる退院支援と地域連携」	11月2日	5名
60	子どもの虐待の早期発見と対応	11月5日	21名
61	看護補助者研修(環境整備・ﾘﾈﾝ交換)	11月6日	15名
62	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　記録	11月9日	10名
63	伝達講習　「組織で取り組む感染管理」	11月12日	9名
64	新人第5回研修会（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）	11月14日	16名
65	第4回管理職（看護師長）研修	11月17日	8名
66	第4回看護研究指導	11月18日	20名
67	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　ﾅﾗﾃｨｳﾞ	11月25日	14名
68	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅱ　感染	12月1日	8名
69	新人8ヶ月交流会	12月4日	5名
70	看護補助者研修(清拭)	12月4日	16名
71	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅲ　記録	12月14日	3名
72	第5回看護部接遇研修	12月18日	38名
73	伝達講習　「看護記録」	12月21日	8名
74	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅲ　感染	1月5日	7名
75	看護補助者研修(ｵﾑﾂ交換)	1月8日	15名
76	第5回看護研究指導	1月13日	20名
77	伝達講習　「新人看護職員研修責任者研修」	1月18日	9名
78	第5回管理職（看護師長）研修	1月19日	7名
79	ﾗﾀﾞｰ研修Ⅲ　ﾘｽｸ	1月25日	5名
80	新人第6回研修会(多重課題)	1月25日	5名
81	2年目研修	1月27日	6名
82	リーダー研修	1月29日	12名
83	1年目交流会	2月1日	5名
84	伝達講習　「合併症のある妊産婦の看護」	2月2日	8名
85	災害机上訓練	2月4日	34名
86	看護補助者研修(食事介助・口腔ｹｱ)	2月8日	5名
87	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ1年目交流会	2月10日	6名
88	看護研究発表会	2月13日	82名
89	第6回看護部接遇研修	2月17日	29名
90	中途採用者交流会	3月1日	8名
91	看護補助者研修(移乗・移送方法)	3月4日	16名
92	伝達講習　「がん化学療法を受ける患者の看護」	3月7日	9名
93	第6回管理職（看護師長）研修	3月22日	9名

☆看護部院外研修実績☆

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者氏名
1	日本小児科学会学術集会	日本小児科学会	H27.4.17～19	北野京子
2	肛門疾患に役立つ基礎知識	南大阪肛門疾患勉強会	H27.4.25	森浩子 武内博子
3	母と子と家族を支える支援	大阪府立大学	H27.4.29	桑野陽子
4	いのちﾌｫｰﾗﾑ	鳥取緩和ｹｱ研究会	H27.5.16	小林祥子 堀内正子 尾崎弘己
5	小児・新生児の呼吸生理	ｽﾐｽﾒﾃﾞｨｶﾙ	H27.5.16	川上好美
6	がん患者の意思決定への支援	大阪府看護協会	H27.5.21～22	藤岡加織
7	退院支援で工夫すべきﾎﾟｲﾝﾄ・活かされる社会資源の知識	日総研	H27.5.24	庄司朋子
8	泉大津がん薬物療法ﾌｫｰﾗﾑ	泉大津薬剤師会	H27.5.28	本田由美
9	すぐ役立つ透析患者のｴｺｰ活用術	南大阪透析ｽﾀｯﾌｾﾐﾅｰ	H27.5.30	飯阪幸子 田中典子 吉田早苗 鷺森美智子
10	第24回日本創傷・ｵｽﾄﾐｰ・失禁管理学会学術集会	日本創傷・ｵｽﾄﾐｰ・失禁管理学会	H27.5.30～31	池野真智
11	がん看護	大阪府看護協会	H27.6.2	池上浩子
12	産科領域で役立つ呼吸器循環器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	日本看護協会	H27.6.3	坂井雅子 織田まき子
13	産科領域で役立つ代謝系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	日本看護協会	H27.6.3 H27.7.22	祷淳子 桑野陽子 中田真澄
14	産科領域で役立つ脳神経系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	日本看護協会	H27.6.3 H28.1.22	祷淳子 浅田陽子
15	子宮収縮剤使用時の助産ｹｱのﾎﾟｲﾝﾄ	日本看護協会	H27.6.3 H27.7.22 H27.7.25 H28.1.21	坂井雅子 祷淳子 桑野陽子 中田真澄 金沢久美子 浅田陽子
16	医療安全と助産記録	日本看護協会	H27.6.4 H28.1.22	坂井雅子 浅田陽子
17	日本臨床救急医学会学術集会	日本臨床救急医学会	H27.6.5,12 H27.10.16～17	望月ゆみ子
18	助産記録の研修	大阪府立母子保健総合医療ｾﾝﾀｰ	H27.6.5	祷淳子 中田真澄 山本直美 金沢久美子 桑野陽子
19	がん拠点病院合同地区講演会	大阪府立母子保健総合医療ｾﾝﾀｰ	H27.6.6	二家本潤 平井美由紀 松山鈴代 森川貴美子 徳永優子

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者氏名
20	おっぱい子育て大阪ﾌｫｰﾗﾑ	大阪母乳の会	H27.6.6	寺田利恵 笠松志穂
21	日本小児救急医学会学術集会	日本小児救急医学会	H27.6.12～13	北野京子
22	接遇ｸﾚｰﾑ対応	日総研	H27.6.13	新甚尚美
23	重症度・医療看護必要度評価者院内 指導者研修	日本臨床看護 ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	H27.6.14	藤原美幸 植村恵美
24	つなぐ看護とは	看護連盟泉南支部	H27.6.20	須川景子
25	母乳についての勉強会	ﾗｸﾃｰｼｮﾝｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ 協会	H27.6.21	桑野陽子
26	認知症高齢者研修	大阪府看護協会	H27.6.21	南麻衣子 西川朝子
27	ｽﾄｯﾌﾟ！！院内感染 その対応でいいですか？	大阪府看護協会 泉南支部	H27.6.23	堀内正子 小林祥子 坂井雅子 藤野陵子 松山鈴代 寺中直美 尾上光子
28	第15回大阪糖尿病教育担当者研修	大阪府糖尿病協会	H27.6.27	松尾みゆき
29	NSTｾﾐﾅｰ	日本静脈経腸栄養学会	H27.6.28	木村千亜紀
30	和歌山県母性衛生学会	和歌山県母性衛生 学会	H27.7.4	祷淳子 寺田利恵
31	CTGﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ研修	大阪医科大学附属 病院	H27.7.7	祷淳子 栗原祥子 中田真澄 桑野陽子
32	熱性けいれんの診療について 新ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの紹介	大阪府立母子保健 総合医療ｾﾝﾀｰ	H27.7.9	北野京子
33	意識障害・寝たきり(廃用症候群)患者の 生活行動回復看護 学会認定看護師教育課程	日本ﾋｭｰﾏﾝ・ﾅｰｼﾝｸﾞ 研究学会 日本脳神経看護 研究学会	H27.7.7～11.22	川崎伸絵
34	早産児の反応から考える最適な ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞの実践	日総研	H27.7.11	山本真奈美 西尾恵里香 濱口美由紀 木村加矢子
35	臨地実習指導者①	大阪府看護協会	H27.7.14～16	浅田史美
36	救急看護認定看護師教育課程聴講	大阪府看護協会	H27.7.14～8.18	望月ゆみ子
37	第19回感染症ﾌｫｰﾗﾑ	ｻﾗﾔ	H27.7.18	濱口美由紀
38	日本小児看護学会学術集会	日本小児看護学会	H27.7.25～26	北野京子
39	臨床倫理入門ｺｰｽ研修	臨床倫理研究会	H27.7.26	奥野博子 濱口優樹 藤木まゆ 西山史華 高田鎌

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者氏名
40	DiNQL 2015年度研修会	日本看護協会	H27.8.6	田中美紀 尾崎弘己
41	岸和田男女共同参画ﾌｫｰﾗﾑ	岸和田市	H27.8.8	徳永優子
42	NICUからの退院支援	日総研	H27.8.8	木村加矢子 若井規子
43	人材育成とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	大阪府看護協会	H27.8.13～14	浅田陽子
44	思春期保健ｾﾐﾅｰｺｰｽⅠ	日本家族計画協会	H27.8.21～23	島田富美子
45	看護管理者が担う ﾒﾝﾀﾙ・ﾍﾙｽ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	大阪府看護協会	H27.8.22	永田美華
46	がんﾌｫｰﾗﾑ	大阪府看護協会	H27.8.22	武内香利
47	ASLOﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞｰｺｰｽ①・②	能登地域総合診療 強化研究会	H27.8.22～23	祷淳子
48	第25回日本外来小児科学会年次集会	日本外来小児科 学会	H27.8.22～23	北野京子
49	第17回日本褥瘡管理学会学術集会	日本褥瘡管理学会	H27.8.28～29	池野真智
50	感染管理認定看護師教育課程	日本看護協会	H27.8.31～H28.3.9	森弘樹
51	産後の母子支援	大阪助産師会	H27.8.31	川上好美
52	発達障害	大阪府立母子保健 総合医療ｾﾝﾀｰ	H27.9.3	北野京子
53	小児虐待予防研修	大阪府看護協会	H27.9.5	深川政和 川上好美
54	母体急変時の初期対応	ﾒﾃﾞｨｶ出版	H27.9.5	笠松志穂
55	GDM女性への産後継続支援に関する 研修会	自治医科大学	H27.9.5～6 H28.2.6～7	桑野陽子 中田真澄
56	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの基礎	大阪府看護協会	H27.9.11	坂本恵三
57	母子に寄り添う小児科医が伝える母乳 育児支援	ﾋﾟｼﾞｮﾝ	H27.9.13	笠松志穂 桑野陽子 中田真澄
58	治療を必要とする赤ちゃんへの対応	ﾒﾃﾞｨｶ出版	H27.9.19	宇和田由可
59	もう一度基礎から理解する血液透析	ﾒﾃﾞｨｶ出版	H27.9.20	飯阪幸子 竹内かおり 田中典子
60	重症児の在宅支援を担う専門職養成の ためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｺｰｽ	大阪市立大学医学 研究科発達小児 医学講座	H27.9.26 ～ H28.1.16	若井規子 木村加矢子 深川政和
61	認定看護管理者教育課程ﾌｧｰｽﾄﾚﾍﾞﾙ	大阪府看護協会	H27.9.28～11.6	植村恵美
62	病棟管理者としてできる退院支援	大阪府看護協会	H27.9.28～29	辻井美保
63	医療安全管理者・病院管理者向け研修 院内事故調査の手法を学ぶ	医療安全全国共同 行動	H27.9.30	堀内正子
64	管理指針の提言を目指して	新生児黄疸管理研究会	H27.10.3	川上好美
65	豊富な動画と実技で学ぶ超音波判読 ﾃｸﾆｯｸ	日総研	H27.10.4	島田富美子
66	助産師実践能力強化研修	日本看護協会	H27.10.4	毛穴裕子 笠松志穂 金沢久美子

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者氏名
67	組織で取り組む感染管理	大阪府看護協会	H27.10.6～7	荒木結香
68	第54回全国自治体病院学会	全国自治体病院協議会	H27.10.8～9	鳥羽敏子
69	重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのｲﾝﾃﾝｼﾞﾌﾞｺｰｽ	大阪市立大学医学研究科発達小児医学講座	H27.10.10～H28.1.16	隅野美佐与
70	新生児看護に必要な「予測」「判断」ｹｱ	日総研	H27.10.13	高田鎌
71	FCCN臨床心理士講演会	FCCN	H27.10.14	肥後麗華 山本真奈美
72	在宅療養支援看護職員研修	和泉保健所	H27.10.14	小林祥子 溝内千晶
73	がん放射線療法を受ける患者の看護	大阪府看護協会	H27.10.15	藤岡加織
74	第31回日本分娩研究会	日本分娩研究会	H27.10.15	織田まき子
75	第56回日本母性衛生学会総会	母性衛生学会	H27.10.16～17	織田まき子
76	看護記録(基礎編)	大阪府看護協会	H27.10.23	新川由華
77	在宅看護ｾﾐﾅｰ	ﾜｰｸｽﾃｰｼｮﾝ	H27.10.24	那須井みか子
78	緩和ｹｱの正しい知識について	市立岸和田市民病院	H2710.24	高橋祥子
79	第11回日本ﾋｭｰﾏﾝ・ﾅｰｼﾝｸﾞ研究学会学術集会	日本ﾋｭｰﾏﾝ・ﾅｰｼﾝｸﾞ研究学会	H27.10.24～25	川崎伸絵
80	NST専門療法士研修	市立岸和田市民病院	H27.10.28～11.19 H27,11.16～12.10	葉山美紀 中西幸乃
81	病気・障がいをもつ子どもと家族への看護	大阪府看護協会	H27.10.26～27	徳永優子
82	がん看護	大阪府看護協会	H27.11.4～5	藤岡加織 山本紗矢香
83	思春期保健ｾﾐﾅｰｺｰｽ	日本家族計画協会	H27.11.6～8 H28.1.9～11	島田富美子
84	認定看護管理者教育課程ﾌｧｰｽﾄﾚﾍﾞﾙ	大阪府看護協会	H28.11.7～1.20	森浩子
85	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	ﾜｰｸｽﾃｰｼｮﾝ	H27.11.7 H28.2.6	那須井みか子
86	FCCNﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾀﾙｹｱを深める	FCCN	H27.11.11	肥後麗華
87	新生児の特性を踏まえた人工呼吸器の換気ﾓｰﾄﾞとｸﾞﾗﾌｨｯｸﾓﾆﾀ	日総研	H27.11.14	栗山真由美 荒木結香 肥後麗華
88	緩和ｹｱ研修	大手前病院	H27.11.14～15	池内香利
89	災害看護研修会	日本小児看護学会	H27.11.15	望月ゆみ子
90	ﾉﾛ・ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ対策	小津感染管理担当実務者連携協議会	H27.11.20	荒木結香 川上好美 寺中直美
91	第21回日本こどもの虐待防止学会学術集会	日本子どもの虐待防止学会	H27.11.20～21	北野京子
92	医療安全と医療事故調査制度	大阪府公立病院協議会看護部長会	H27.11.21	永田美華 阿多亜矢子 西川朝子 藤原美幸 田中美紀 尾崎弘己 望月ゆみ子 平井美由紀 鳥羽敏子

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者氏名
93	生徒によるｴｲｽﾞ予防	大阪府立大学	H27.11.22	桑野陽子
94	新人看護職員研修責任者研修	大阪府看護協会	H27.11.24～25 H27.12.7～8	西山知子
95	医療連携症例検討会	和泉保健所	H27.11.26	小林祥子 溝内千晶
96	「誰もが幸せに老いていける地域をめざして」～明るくﾕﾆｰｸに地域を支える！！内田病院の取り組み～	大阪府看護協会 泉南支部	H27.11.27	尾崎弘己 小林祥子 藤原美幸 堀内正子 船本加奈子
97	ｸﾚｰﾏｰﾄﾗﾌﾞﾙ対策及び医療事故調査制度の概要	堺市医師会	H27.11.28	梶原薫
98	NICUにおける在宅移行支援研修会	FCCN	H27.12.1～ H28.1.29	深川政和
99	FCCNﾊｲﾘｽｸについて	FCCN	H27.12.9	肥後麗華 山本真奈美
100	ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ研修　泉大津商工会議所	ｵﾝｸﾞﾗｽｱｶﾃﾞﾐｰ	H27.12.11	尾上光子
101	合併症のある妊産婦の看護	大阪府看護協会	H27.12.11	笠松志穂 毛穴裕子 金沢久美子
102	認知症ｾﾐﾅｰ	大阪府看護協会	H27.12.12	古久保礼子
103	周産期における災害看護研修	大阪府看護協会	H27.12.18	庄司朋子 生口留美
104	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	大阪府看護協会	H28.1.6～3.4	辻本恵由子
105	関西臨床倫理研究会年次大会	関西臨床倫理研究会	H28.1.9～10	永田美華 武内香利 植村恵美 尹明恵 鳥羽敏子
106	痙攣発作時の対応	大阪府立母子保健総合医療ｾﾝﾀｰ	H28.1.14	北野京子
107	転倒転落後のﾄﾗﾌﾞﾙ対処	大阪府看護協会	H28.1.16	井上千穂 大江桂子 古久保礼子
108	虐待加害者の理解	大阪府立大学	H28.1.16	桑野陽子
109	小児在宅医療を考える	大阪小児在宅医療を考える会	H28.1.17	木村加矢子
110	母子保健関係機関交流会	堺市保健ｾﾝﾀｰ	H28.1.25	祷淳子 浅田史美
111	”やらされ感”からの脱却 「目標による管理」	大阪府看護協会	H28.2.4	小林祥子
112	救急看護認定看護師ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟｾﾐﾅｰ	大阪府看護協会	H28.2.6	望月ゆみ子
113	産前・産後の精神疾患への対応	大阪府助産師会	H28.2.10	川上好美
114	地域における助産師活動の実際	大阪府助産師会	H28.2.11	川上好美

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者氏名
115	「学び取る力」を育てる	ﾒﾃﾞｨｶ出版	H28.2.14	木村加矢子
116	長期入院児の退院在宅移行	日総研	H28.2.14	濱口美由紀
117	第33回日本ｽﾄｰﾏ・排泄ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会総会	日本ｽﾄｰﾏ・排泄ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会	H28.2.19～20	池野真智
118	認定看護師として看護職に対する指導方法を考える	小児救急認定看護師会	H28.2.20	北野京子
119	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ研修	助産師職能委員会	H28.2.20	川上好美
120	がん化学療法を受ける患者の看護	大阪府看護協会	H28.2.23～24	福原史恵
121	脳外科ｾﾐﾅｰ	医学の友	H28.3.5	那須井みか子 福井笑美香
122	発達ｹｱのすべて	ﾒﾃﾞｨｶ出版	H28.3.5	深川政和 内田美砂子 森佳子 高田鎌
123	日本褥瘡学会近畿地方会	日本褥瘡学会	H28.3.12	池野真智
124	大阪府災害医療研修	大阪府災害基幹病院	H28.3.22	東賢

☆看護研究☆

院内発表：平成28年2月13日　9：00～11：00

演　　題	部　　署	研究者（○：発表者）
早期離床へのﾘｰﾌﾚｯﾄの活用に向けて	3階	○東野冨士美　　三橋夕子 山本紗矢香
産後一ヶ月までの育児を見据えた効果的な指導　　～当院の集団指導のあり方について考える～	4階	○笠松志穂　　寺田利恵 葛山伸
NASVA病棟における患者家族の思いに寄り添うために	4階北	○加納楓　　福島妙 阪口みどり
摂食嚥下機能低下がある患者の看護 口腔ﾏｯｻｰｼﾞを継続するための取り組み	5階	○稲葉知佳　　藤野芳子 井上和美
看護師とﾘﾊﾋﾞﾘｽﾀｯﾌ間で、情報共有ができるｼｽﾃﾑの構築を目指して	6階一般	○二宮有沙　　東賢 山原真代
当NICUにおける音に関する実態調査	NICU・GCU	○肥後麗華　　栗山真由美 西垣祐美
超緊急C/Sの意識統一に向けて ～ﾏﾆｭｱﾙ作成～	手術室・内視鏡ｾﾝﾀｰ	○新地ことみ　　橋本舞子 家治福子
地震災害対策における透析患者の情報伝達 ～患者が自ら透析条件を伝える事の取り組み～	外来	○鷺森美智子　　田中典子 飯阪幸子

看護研究指導講師
森ノ宮医療大学保健医療学部　看護学科　精神看護学　　来栖清美先生

☆実習受け入れ状況☆

実　習　名	期　間	人数
泉大津市医師会附属看護高等専修学校 （基礎・各論）	H27.4.6～H27.11.27	32名
河﨑会看護専門学校　看護第1学科 20期生　各論実習	H27.4.13～H27.12.4	42名
河﨑会看護専門学校　看護第1学科 20期生　統合実習	H27.10.26～H27.12.4	12名
河﨑会看護専門学校　看護第1学科 21期生　各論実習	H28.2.8～H28.2.26	10名
河﨑会看護専門学校　看護第1学科 22期生　基礎Ⅱ実習	H28.1.12～H28.1.29	10名
大阪府病院協会看護専門学校　2年課程　通信制 （基礎・各論・統合）	H27.7.27～H27.8.28	39名
大阪保健福祉専門学校 看護通信教育科(各論)	H27.8.31～H27.9.4	4名
大阪大学医学部保健学科　看護学専攻(助産学)	H27.10.5～H27.11.12	6名
アナン学園高等学校（本科・専攻科）	H27.5.25～H28.2.19	16名
関西女子短期大学　保健科　養護・保健ｺｰｽ	H28.2.22～H28.3.4	2名
泉大津市立小津中学校　職場体験学習	H27.11.19～H27.11.20	2名
忠岡町立忠岡中学校　職場体験学習	H27.11.18～H27.11.19	2名
ふれあい看護体験	H27.6.11	2名
	計	179名

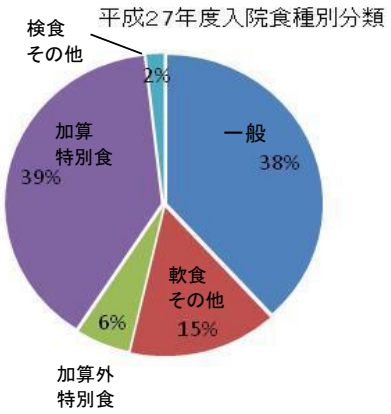
6

栄養･給食管理業務の現況

６．栄養・給食管理業務の現況

【平成27年度入院患者給食延人員】

一般　常食	18,178
軟食その他	7,276
加算外特別食	2,655
加算特別食	18,552
検食その他	850
給食総延人員数	47,511
１日平均喫食人員	130
特別食比率（検食その他除く）	44%
調理師１人１日平均調理数	27
１人１日平均給食費（円）	842



年度別患者食･患者外食延人員及び給食費

区　分		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一般食	常食	20,029	18,335	18,824	18,178
	軟食その他	5,976	8,573	7,301	7,276
特別食	加算外食	1,169	2,255	2,591	2,655
	加算食	18,261	22,432	21,953	18,552
患者外食	検食	1,000	911	955	850
給食総延人員数		47,323	52,506	51,624	47,511
1日平均喫食人員		130	141	141	130
特別食比率		40％	43％	43％	44％
調理師1人1日平均調理数		25	29	26	27
1人1日平均食費（円）		☆　802	☆　853	☆　832	☆　842

☆消費税抜きの単価

【スタッフ】

管理栄養士：正職２名、嘱託１名、嘱託１名（調乳業務）

栄養士：嘱託１名（調乳業務）

給食業務：エームサービス

【概　要】

◎ＮＳＴ活動では、毎週火曜日12：45～回診、症例検討会・勉強会を実施。

糖尿病教育入院、糖尿病勉強会、糖尿病教室等、糖尿病療養指導士チーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアサポートチームとしてもチーム医療へ積極的に関わってきた。

腎臓病教室は腎臓病専門医退職の為Ｈ２８年～は休止。

朝食リニューアル、お子様ランチ導入。食育指導。

27.5.15(金)　　看護の日　栄養相談　大北　知子
27.5.19(火)　　糖尿病教室「糖尿病治療の基本は正しい食事から」　大北　知子
27.5.22(金)　　市民公開講座「骨粗しょう症を予防するために」　大北　知子
27.6.19(水)　　腎臓病教室　中島　あゆみ
27.7月～28.1月　食育の集団指導
（第3水曜日）
27.9.13(日)　　和泉市民健康まつり　栄養相談、サットシステム血流測定
27.9.14(月)　　腎臓病教室　中島　あゆみ
27.11.7(土)　　第1回泉州糖尿病療養指導の裾野を広げる会
「管理栄養士の立場から考える糖尿病療養指導士」　佃　暁子
27.11.19(木)　出前講座「骨粗しょう症を予防するために」　大北　知子
27.12.15(火)　糖尿病教室「年末年始、上手に乗り切る食生活のポイント」　大北　知子
27.12.18(金)　腎臓病教室「年末年始の食事の摂り方」　中島　あゆみ
27.12.15(火)　糖尿病教室「年末年始の食事の摂り方」　大北　知子
28.3.26(土)27(日)　緩和ケア研修（くるみ餅、マンゴーチーズプリン提供）

市民セミナー H28.3.12(土)　テクスピア大ホール　14:00～16:30　　のばそう健康寿命
糖尿病セミナー 糖尿病っていわれたら～

２７年９月～　　朝食リニューアル
２７年９月～　　お子様ランチ提供（小児Ａ・Ｂ・C食対象）

【実習生受け入れ】
平成２８年１月２５日～２月１２日 大手前栄養学院　２名
平成２８年２月２２日～３月４日　 羽衣国際大学　　１名

【認定等】
日本糖尿病療養指導士認定機構　　認定栄養士　　１名
日本病態栄養学会　　病態栄養専門士　　１名
日本静脈経腸栄養学会　　栄養サポートチーム専門療法士
臨床実施修練終了　　２名
NST研修　岸和田市民病院　11/16～12/10（内7日間）　　大北 知子

【取 材】
平成２７年１２月１０日　NHKワールド（ＢＳ）放送　「ＲＩＳＩＮＧ」　　佃　暁子
平成28年1月7日放送

【表 彰】
平成27年5月　和泉保健所管内給食研究会優良施設表彰

月別入院外来栄養指導件数（平成27年度）

区分		糖尿病	胃腸病	肝臓病	腎臓病	脂質異常症	心高血圧	肥満	妊娠高血圧	胆石	その他	合計	集団	人間ドック
4月	入院	25	35	7	19	3	8	0	1	10	8	116	5	24
	外来	23	0	0	16	10	2	0	0	0	4	55		
5月	入院	28	28	8	14	2	12	0	0	0	8	100	7	11
	外来	29	0	0	13	7	3	0	0	0	6	58		
6月	入院	27	33	6	23	2	7	0	2	2	13	115	11	23
	外来	21	1	0	20	5	4	0	0	0	4	55		
7月	入院	14	52	9	19	5	10	0	0	5	13	127	5	27
	外来	28	0	2	19	5	3	0	0	0	3	60		
8月	入院	20	46	4	12	2	14	0	0	7	10	115	4	26
	外来	23	0	0	12	2	0	0	0	0	0	37		
9月	入院	27	37	11	10	2	5	0	0	5	15	112	14	22
	外来	16	0	2	6	3	0	0	0	0	1	28		
10月	入院	25	43	7	5	2	10	0	0	7	19	118	2	29
	外来	15	0	0	7	2	3	0	0	0	6	33		
11月	入院	7	50	9	3	0	10	0	1	1	23	104	0	24
	外来	19	1	1	2	0	1	0	0	0	4	28		
12月	入院	22	40	3	3	4	11	0	1	4	15	103	2	27
	外来	24	1	0	4	8	1	0	0	0	4	42		
1月	入院	14	39	6	2	1	12	0	2	3	7	86	3	15
	外来	18	1	0	5	4	4	0	0	0	4	36		
2月	入院	23	34	3	4	1	9	0	3	9	7	93	4	16
	外来	20	0	1	3	4	1	0	0	0	3	32		
3月	入院	26	40	6	7	2	9	0	4	5	10	109	2	17
	外来	31	1	0	4	5	2	0	1	0	1	45		
合計	入院	258	477	79	121	26	117	0	14	58	148	1,298	59	261
	外来	267	5	6	111	55	24	0	1	0	40	509		

月別患者食及び患者外食延人員（平成27年度）

	一般食			特別食		給食人員総合計	1日平均給食人員	患者外食	給食総延人員数	患者食1日1人当平均単価☆
	常食	軟食	流動食	加算食	非加算食			検食		
4月	1,657	512	41	1,925	186	4,321	144	74	4,395	823
5月	1,700	662	19	1,641	229	4,251	137	68	4,319	817
6月	1,647	549	33	1,678	292	4,199	140	70	4,261	841
7月	1,729	578	24	1,724	247	4,302	139	102	4,404	860
8月	1,655	582	25	1,585	220	4,067	132	103	4,170	859
9月	1,589	572	39	1,361	230	3,791	126	99	3,890	870
10月	1,740	469	53	1,560	204	4,026	130	110	4,136	839
11月	1,570	496	32	1,280	228	3,606	120	94	3,700	886
12月	1,590	628	37	1,395	172	3,822	123	93	3,915	845
1月	1,499	589	23	1,434	172	3,717	120	101	3,818	831
2月	1,524	573	30	1,440	267	3,834	132	95	3,929	797
3月	1,495	670	41	1,305	229	3,740	121	102	3,842	833
計	19,395	6,880	397	18,328	2,676	47,676	1,564	1,111	48,779	10,101
月平均	1,616	573	33	1,527	223	3,973		80	4,065	
1日平均	53	19	1	50	7	131	130	93	134	842
食種別比	41%	14%	1%	38%	6%	100%				

☆消費税抜きの単価

7

事務局の取り組み状況等

経営状況

財務諸表

月次経営指標

社会保険事務局への施設基準届出状況一覧

科別診療収入

診療行為別診療収入

地域別・男女別患者数

疾病別大分類統計表

クリニカルパス統計資料

７．事務局の取り組み状況等

【平成27年度の主な取り組みと今後の方策】

平成２７年度は、人工透析室の増床により、年度前半は入外来収益を伸ばすことができたが、責任医師の退職により後半は縮小せざるを得なくなった。今後、人工透析医師の確保により収益回復を目指す。

また、市の福祉部門と連携をはかり、がん検診などについて積極的に広報活動を行った。今後も患者確保に繋がる検診の広報活動を通じて、病気予防促進のための市立病院利用をＰＲしていく。

【経営状況等】

平成２７年度の収益的収支（損益ベース）については、収益は6，０９１，７５８千円で、前年度に比べ１１８，５４０千円（２．０%）の増収となっている。これは医業収益において９９，１２３千円減収しているものの、資金不足解消のための一般会計繰入金の増額を主な要因に、医業外収益において４１，２２５千円増収、同様に特別利益が１７６，４３７千円増加したことによるものである。

一方、費用は5，８０１，８６１千円で、前年度に比べ1，４６５，７８１千円（２０．２%）の減少になった。これは前年度については、会計制度見直しによる退職給付引当金の一括計上等を特別損失で処理したことによるものである。以上、収益的収支差引としては２８９，８９７千円の純利益となった。

また、資本的収支については、収入４７３，９０９千円、支出６９１，６６５千円となり、収支差額は２１７，７５６千円の不足となった。

病院の目標として「消化器病診療の充実」、「こどもと女性にやさしい病院」、「生活習慣病対策」「高齢者にやさしい病院」という目標を掲げ、近隣医療機関との連携を強化し、研修医の獲得と育成に努め、地域の中核病院としての役割を果たしつつ、経営の健全化を進めていく。

収益的収支種別比較表

区分＼年度	25年度	26年度		27年度	
	金額（千円）	金額（千円）	対前年度比率	金額（千円）	対前年度比率
医業収益	5,193,947	5,185,816	99.8	5,086,693	98.1
入院収益	3,101,008	3,110,964	100.3	2,968,308	95.4
外来収益	1,612,423	1,581,101	98.1	1,624,015	102.7
その他医業収益	480,516	493,751	102.8	494,370	100.1
医業外収益	520,894	597,052	114.6	638,278	106.9
受取利息配当金	0	0	－	0	－
他会計補助金	400,000	481,282	120.3	532,160	110.6
補助金	61,128	46,521	76.1	44,359	95.4
長期前受金戻入	－	9,757	皆増	6,839	70.1
その他医業外収益	59,766	59,222	99.1	54,920	92.7
雑収益	－	270	皆増	0	皆減
特別利益	173,621	190,350	109.6	366,787	192.7
その他特別利益	173,621	190,350	109.6	366,787	192.7
(A) 収益合計	5,888,462	5,973,218	101.4	6,091,758	102.0
医業費用	5,376,300	5,457,481	101.5	5,481,903	100.4
給与費	2,929,259	2,988,637	102.0	3,010,172	100.7
材料費	915,220	894,516	97.7	931,259	104.1
経費	1,164,120	1,181,143	101.5	1,181,454	100.0
減価償却費	350,059	375,821	107.4	337,281	89.7
資産減耗費	5,876	4,982	84.8	8,410	168.8
研究研修費	11,766	12,382	105.2	13,327	107.6
医業外費用	361,669	316,865	87.6	300,496	94.8
支払利息及び企業債取扱諸費	151,834	143,369	94.4	128,555	89.7
患者外給食材料費	324	324	100.0	332	102.5
看護師養成費	－	3,498	皆増	5,272	150.7
雑損失	95,462	136,634	143.1	138,115	101.1
長期前払消費税償却	－	13,040	皆増	8,222	63.1
繰延勘定償却	84,049	－	皆減	－	－
寄付金	30,000	20,000	66.7	20,000	100.0
特別損失	4,998	1,493,296	29,877.9	19,462	1.3
過年度損益修正損	4,998	4,605	92.1	19,462	422.6
その他特別損失	0	1,488,691	皆増	0	皆減
(B)費用合計	5,742,967	7,267,642	126.5	5,801,861	79.8
(A)－(B) 収益的収支	145,495	△ 1,294,424	－	289,897	－

不良債務額	462,738	811,076	－	204,432	－

収 益 的 支 出 明 細 比 較 表

区分＼年度	25年度	26年度		27年度	
	金 額（千円）	金 額（千円）	対前年度比率	金 額（千円）	対前年度比率
給　　料	1,074,301	1,078,121	100.4	1,089,416	101.0
手　　当	1,045,549	923,631	88.3	911,506	98.7
賃　　金	78,942	31,559	40.0	40,439	128.1
法定福利費	417,339	402,295	96.4	417,397	103.8
報　　酬	315,139	364,911	115.8	325,385	89.2
(退職給与金)退職給付費	15,791	29,318	185.7	54,569	186.1
賞与引当金繰入額	－	158,802	皆増	171,460	108.0
薬　品　費	517,230	512,186	99.0	536,718	104.8
診療材料費	386,014	377,405	97.8	385,420	102.1
給食材料費	112	0	皆減	15	皆増
医療消耗備品費	11,863	4,925	41.5	9,106	184.9
厚生福利費	8,306	7,798	93.9	7,699	98.7
報　償　費	161,283	209,798	130.1	238,677	113.8
旅費交通費	5,920	6,445	108.9	5,177	80.3
職員被服費	983	367	37.3	704	191.8
消耗品費	28,972	31,582	109.0	34,731	110.0
消耗備品費	14,347	10,009	69.8	8,913	89.0
光熱水費	170,553	177,272	103.9	171,505	96.7
燃　料　費	357	509	142.6	585	114.9
食　糧　費	0	25	皆増	598	2,392.0
印刷製本費	12,390	9,892	79.8	9,393	95.0
修　繕　費	22,382	29,686	132.6	29,802	100.4
保　険　料	28,331	26,258	92.7	19,315	73.6
賃　借　料	150,633	124,022	82.3	111,561	90.0
通信運搬費	6,844	6,391	93.4	6,807	106.5
委　託　料	525,206	535,994	102.1	519,601	96.9
諸　会　費	1,452	1,213	83.5	1,271	104.8
貸倒引当金繰入額	－	495	皆増	2,638	532.9
雑　　費	7,873	2,510	31.9	11,637	463.6
交　際　費	489	667	136.4	840	125.9
補　償　金	0	210	皆増	0	皆減
企業債利息	133,739	124,410	93.0	114,892	92.3
他会計長期借入金利息	3,305	3,742	113.2	3,313	88.5
一時金借入金利息	14,790	14,752	99.7	9,543	64.7
リース債務利息	－	465	皆増	807	173.5
謝　　金	602	1,018	169.1	1,001	98.3
図　書　費	2,640	3,763	142.5	3,024	80.4
旅　　費	5,082	4,809	94.6	5,124	106.6
研究雑費	3,442	2,792	81.1	4,177	149.6
患者外給食材料費	324	324	100.0	332	102.5
減価償却費	350,059	375,821	107.4	337,281	89.7
資産減耗費	5,876	4,982	84.8	8,410	168.8
雑　損　失	95,462	136,634	143.1	138,115	101.1
(退職給与金償却)	71,020	－	皆減	－	－
寄　付　金	30,000	20,000	66.7	20,000	100.0
看護師養成費	－	3,498	皆増	5,272	150.7
(控除対象外消費税額償却)長期前払消費税償却	13,028	13,040	100.1	8,223	63.1
特別損失	4,997	1,493,296	29,883.9	19,462	1.3
合　　計	5,742,967	7,267,642	126.5	5,801,861	79.8

()は24年度・25年度の区分

資 本 的 収 支 種 別 比 較 表

（税込）

区分＼年度	25 年 度	26 年 度		27 年 度	
	金 額 （千円）	金 額 （千円）	対前年度比率	金 額 （千円）	対前年度比率
企 業 債	0	0	―	0	－
一般会計出資金	303,928	212,524	69.9	472,427	222.3
補 助 金	2,160	27,207	1,259.6	0	－
（府補助金）	(2,160)	(27,207)	1,259.6	(0)	－
（国庫補助金）	(0)	(0)	－	(0)	－
売 却 収 入	0	0	－	0	－
（固定資産売却収入）	(0)	(0)	－	(0)	－
投 資 収 入	0	0	－	1,482	皆増
（看護師養成収入）	(0)	(0)	－	(1,482)	(皆増)
（その他投資収入）	(0)	(0)	－	(0)	－
他会計長期借入金	0	0	－	0	－
寄付金	0	0	－	0	－
(A)資本的収入合計	306,088	239,731	78.3	473,909	197.7
施設費(建物改良費)	6,928	68,563	989.7	3,834	5.6
固定資産購入費 （器械備品購入費）	39,263	20,151	51.3	29,304	145.4
リース資産購入費	－	33,271	皆増	56,584	170.1
企業債償還金	651,694	634,333	97.3	595,307	93.8
看護師養成費貸付金	4,008	3,384	84.4	6,636	196.1
退 職 給 与 金	122,494	－	－	－	－
他会計長期借入金返還金	0	0	－	0	－
(B)資本的支出合計	824,387	759,702	92.2	691,665	91.0
(A)－(B)資本的収支	△ 518,299	△ 519,971	100.3	△ 217,756	41.9

貸借構成比較表

年度 ＼ 区分	25年度 金額（千円）	26年度 金額（千円）	26年度 対前年度比率	27年度 金額（千円）	27年度 対前年度比率
固定資産	7,908,657	7,850,262	99.26	7,603,539	96.86
有形固定資産	13,429,142	13,659,752	101.72	13,593,680	99.52
（減価償却累計額）	△ 5,538,555	△ 5,838,322	105.41	△ 6,017,958	103.08
土地	1,026,407	1,026,407	100.00	1,026,407	100.00
建物	9,308,545	9,372,029	100.68	9,375,579	100.04
（同減価償却累計額）	△ 2,914,197	△ 3,113,147	106.83	△ 3,314,464	106.47
構築物	192,258	192,258	100.00	192,258	100.00
（同減価償却累計額）	△ 182,003	△ 182,043	100.02	△ 182,082	100.02
車輌	0	0	－	0	－
（同減価償却累計額）	0	0	－	0	－
器械及び備品	2,901,932	2,820,947	97.21	2,682,026	95.08
（同減価償却累計額）	△ 2,442,355	△ 2,497,908	102.27	△ 2,430,593	97.31
リース資産	－	248,111	皆増	317,410	127.93
（同減価償却累計額）	－	△ 45,224	皆増	△ 90,819	200.82
建設仮勘定	0	0	－	0	－
投資	18,070	28,832	159.56	27,817	96.48
長期貸付金	0	19,954	皆増	23,046	115.50
貸倒引当金	－	△ 19,954	皆増	△ 23,046	115.50
地方公共団体金融機構出資金	－	1,500	皆増	1,500	100.00
破産更生債権	－	6,566	皆増	6,614	100.73
貸倒引当金	－	△ 5,585	皆増	△ 5,929	106.16
長期前払消費税	－	26,351	皆増	25,632	97.27
その他投資	18,070	－	－	－	－
流動資産	1,071,449	1,124,882	104.99	1,002,008	89.08
現金預金	88,866	125,786	141.55	106,650	84.79
未収金	951,072	972,207	102.22	880,183	90.53
貸倒引当金	－	△ 1,624	皆増	△ 3,765	231.83
貯蔵品	18,186	16,113	88.60	18,940	117.54
前払金	13,325	12,400	93.06	0	0.00
繰延勘定	309,939	－	－	－	－
退職給与金	289,501	－	－	－	－
控除対象外消費税額	20,438	－	－	－	－
資産合計	9,290,045	8,975,144	96.61	8,605,547	95.88
固定負債	1,100,902	7,352,626	667.87	6,948,587	94.50
企業債	350,902	5,443,560	1,551.30	5,015,841	92.14
他会計借入金	750,000	750,000	100.00	750,000	100.00
リース債務	－	142,384	皆増	152,236	106.92
引当金	－	1,016,682	皆増	1,030,510	101.36
退職給付引当金	－	1,016,682	皆増	1,030,510	101.36
その他固定負債	0	0	－	0	－
流動負債	1,534,187	2,355,201	153.51	1,634,159	69.39
一時借入金	1,100,000	1,150,000	104.55	600,000	52.17
企業債	－	595,307	皆増	427,719	71.85
建設改良費等の財源に充てるための企業債	－	419,243	皆増	427,719	102.02
その他企業債	－	176,064	皆増	0	－
リース債務	－	52,226	皆増	60,721	116.27
未払金	402,623	367,251	91.21	342,295	93.20
引当金	－	158,802	皆増	172,590	108.68
賞与引当金	－	158,802	皆増	172,590	108.68
預り金	31,564	31,615	100.16	30,834	97.53
繰延収益	－	101,644	皆増	94,805	93.27
長期前受金	－	165,035	皆増	165,035	100.00
長期前受金収益化累計額	－	△ 63,391	皆増	△ 70,230	110.79
負債合計	2,635,089	9,809,471	372.26	8,677,551	88.46
資本金	12,806,469	6,696,695	52.29	7,169,122	107.05
自己資本金	6,484,171	6,696,695	103.28	7,169,122	107.05
借入資本金	6,322,298	－	－	－	－
企業債	6,322,298	－	－	－	－
剰余金	△ 6,151,513	△ 7,531,022	122.43	△ 7,241,126	96.15
資本剰余金	148,719	10,000	6.72	10,000	100.00
寄附金	10,000	10,000	100.00	10,000	100.00
国庫補助金	18,247	－	－	－	－
府補助金	120,472	－	－	－	－
欠損金	△ 6,300,232	△ 7,541,022	119.69	△ 7,251,126	96.16
当年度未処理欠損金	△ 6,300,232	△ 7,541,022	119.69	△ 7,251,126	96.16
資本合計	6,654,956	△ 834,327	△ 12.54	△ 72,004	8.63
負債資本合計	9,290,045	8,975,144	96.61	8,605,547	95.88

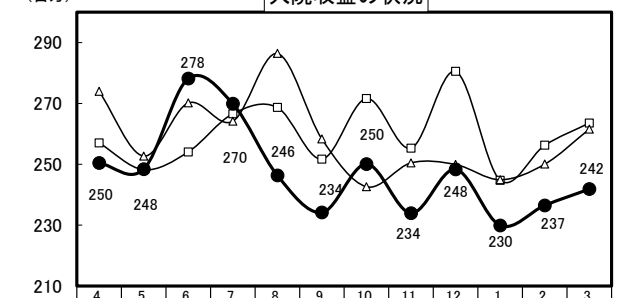
経　　営　　分　　析　　表

（単位：%）

分析項目		25年度	26年度	27年度	算式	
					25年度	26年度・27年度
構成比率	1 固定資産構成比率	85.13	87.47	88.36	固定資産 / 固定資産+流動資産+繰延勘定 X 100	固定資産 / 固定資産+流動資産+繰延資産 X 100
	2 固定負債構成比率	79.90	81.92	80.75	固定負債＋借入資本金 / 負債資本合計 X 100	固定負債 / 負債資本合計 X 100
	3 自己資本構成比率	3.58	－	0.26	自己資本金＋剰余金 / 負債資本合計 X 100	資本金＋剰余金+評価差額等＋繰延収益 / 負債資本合計 X 100
	4 固定比率	－	－	－	固定資産 / 自己資本金＋剰余金 X 100	固定資産 / 資本金＋剰余金+評価差額等+繰延収益 X 100
	5 流動比率	69.84	47.76	61.32	流動資産 / 流動負債 X 100	流動資産 / 流動負債 X 100
	6 現金比率	5.79	5.34	6.53	現金預金 / 流動負債 X 100	現金預金 / 流動負債 X 100
損益に関する各種比率	7 経常収支比率	99.60	100.15	99.01	経常収益 / 経常費用 X 100	経常収益 / 経常費用 X 100
	8 医業収支比率	96.61	95.02	92.79	医業収益 / 医業費用 X 100	医業収益 / 医業費用 X 100
	9 累積欠損金比率	121.30	145.42	142.55	累積欠損金 / 医業収益 X 100	累積欠損金 / 医業収益 X 100
	10 不良債務比率	8.91	15.64	4.02	流動負債－(流動資産-翌年度繰越財源) / 医業収益 X 100	(流動負債－建設改良費等の財源に充てた企業債)－(流動資産-翌年度繰越財源) / 医業収益 X 100
料金収入に対する比率	11 企業債元金償還金対料金収入比率	9.20	8.86	8.24	建設改良のための企業債元金償還金 / 料金収入 X 100	建設改良のための企業債元金償還金 / 料金収入 X 100
	12 企業債利息対料金収入比率	2.57	2.40	2.26	企業債利息 / 料金収入 X 100	企業債利息 / 料金収入 X 100
	13 企業債元利償還金対料金収入比率	11.71	11.22	10.48	建設改良のための企業債元利償還金 / 料金収入 X 100	建設改良のための企業債元利償還金 / 料金収入 X 100
	14 職員給与費対料金収入比率	56.40	57.63	59.18	職員給与費 / 料金収入 X 100	職員給与費(特別損失のうちの職員給与費含む) / 料金収入 X 100

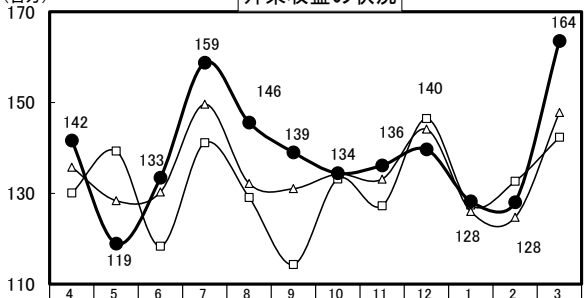
月次経営指標＜全科計＞

入院収益の状況



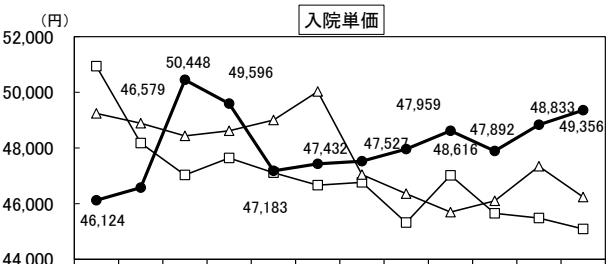
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	257	248	254	267	269	252	272	255	281	245	256	264
H.26	274	253	270	264	286	258	243	250	250	245	250	262
H.27	250	248	278	270	246	234	250	234	248	230	237	242

外来収益の状況



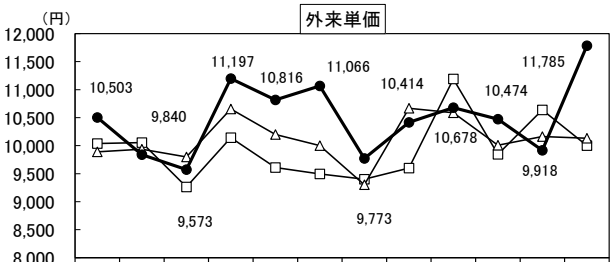
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	130	139	118	141	129	114	133	127	146	127	133	142
H.26	136	128	130	150	132	131	134	133	144	126	125	148
H.27	142	119	133	159	146	139	134	136	140	128	128	164

入院単価



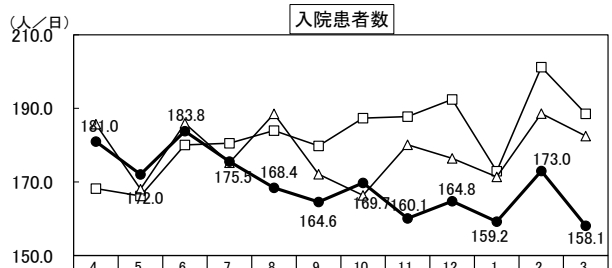
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	50,936	48,181	47,029	47,639	47,112	46,664	46,765	45,323	47,018	45,654	45,481	45,092
H.26	49,245	48,891	48,433	48,617	49,007	50,028	47,048	46,357	45,698	46,100	47,346	46,235
H.27	46,124	46,579	50,448	49,596	47,183	47,432	47,527	47,959	48,616	47,892	48,833	49,356

外来単価



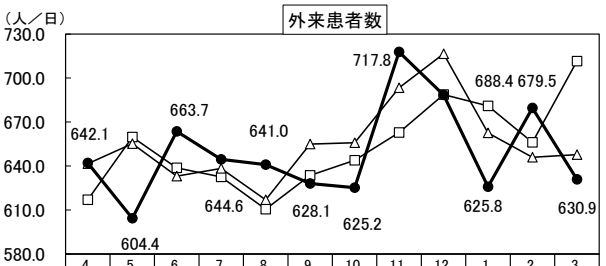
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	10,038	10,055	9,263	10,141	9,610	9,494	9,401	9,600	11,190	9,845	10,638	10,002
H.26	9,890	9,937	9,799	10,656	10,200	10,000	9,302	10,667	10,586	10,009	10,161	10,132
H.27	10,503	9,840	9,573	11,197	10,816	11,066	9,773	10,414	10,678	10,474	9,918	11,785

入院患者数



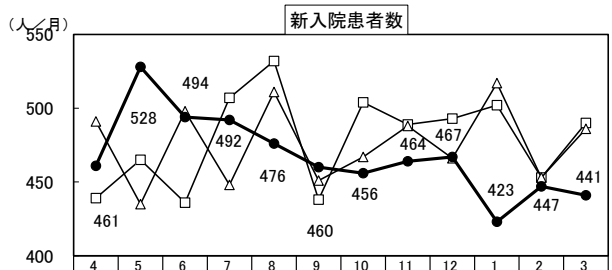
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	168.2	166.2	180.1	180.5	184.0	179.8	187.4	187.8	192.5	172.9	201.2	188.5
H.26	185.7	168.0	185.9	175.3	188.5	172.1	166.4	180.1	176.4	171.4	188.6	182.5
H.27	181.0	172.0	183.8	175.5	168.4	164.6	169.7	160.1	164.8	159.2	173.0	158.1

外来患者数



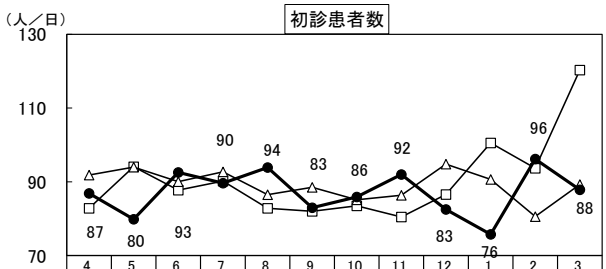
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	617.0	659.7	638.8	632.5	610.6	633.6	643.9	662.8	688.8	681.1	656.2	711.6
H.26	641.6	655.3	633.1	638.3	617.0	655.1	656.0	693.3	716.5	662.5	645.9	647.8
H.27	642.1	604.4	663.7	644.6	641.0	628.1	625.2	717.8	688.4	625.8	679.5	630.9

新入院患者数



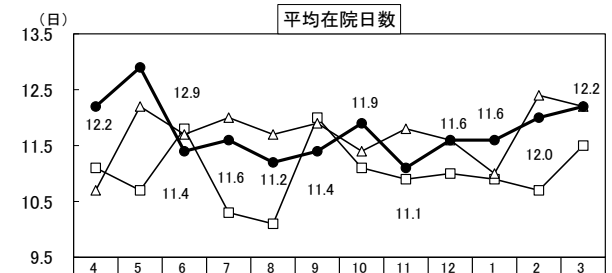
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	439	465	436	507	532	438	504	489	493	502	453	490
H.26	491	435	498	448	511	451	467	488	466	517	453	486
H.27	461	528	494	492	476	460	456	464	467	423	447	441

初診患者数



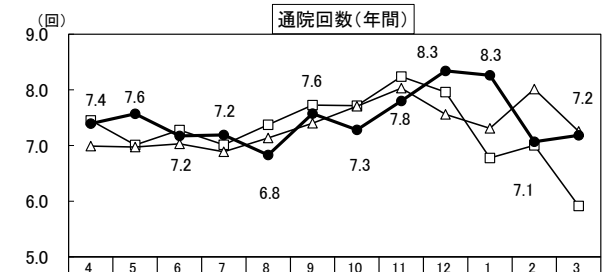
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	83	94	88	90	83	82	83	80	87	101	94	120
H.26	92	94	90	93	86	89	85	86	95	91	81	89
H.27	87	80	93	90	94	83	86	92	83	76	96	88

平均在院日数



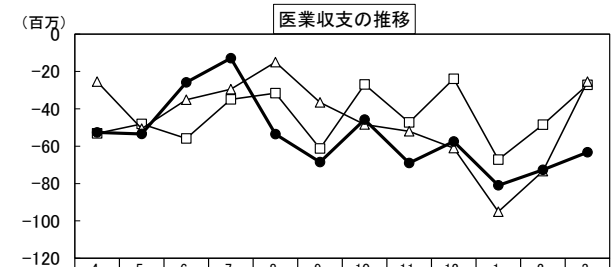
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	11.1	10.7	11.8	10.3	10.1	12.0	11.1	10.9	11.0	10.9	10.7	11.5
H.26	10.7	12.2	11.7	12.0	11.7	11.9	11.4	11.8	11.6	11.0	12.4	12.2
H.27	12.2	12.9	11.4	11.6	11.2	11.4	11.9	11.1	11.6	11.6	12.0	12.2

通院回数（年間）



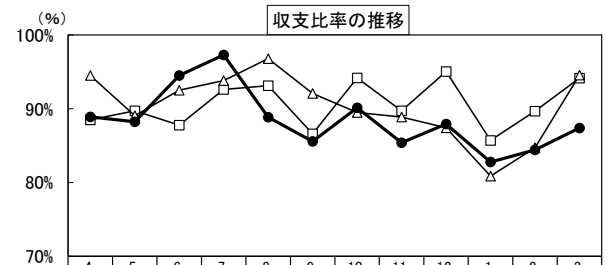
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	7.5	7.0	7.3	7.0	7.4	7.7	7.7	8.2	8.0	6.8	7.0	5.9
H.26	7.0	7.0	7.0	6.9	7.1	7.4	7.7	8.0	7.6	7.3	8.0	7.3
H.27	7.4	7.6	7.2	7.2	6.8	7.6	7.3	7.8	8.3	8.3	7.1	7.2

医業収支の推移



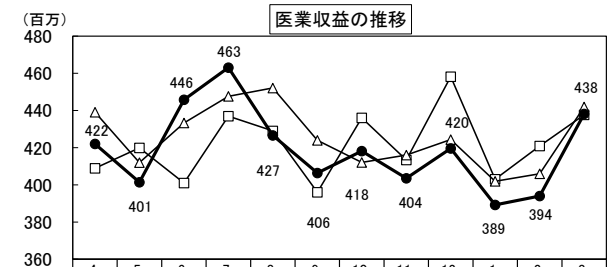
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	−53	−48	−56	−35	−32	−61	−27	−47	−24	−67	−49	−27
H.26	−25	−51	−35	−30	−15	−37	−48	−52	−61	−95	−73	−25
H.27	−53	−53	−26	−13	−54	−69	−46	−69	−58	−81	−73	−63

収支比率の推移



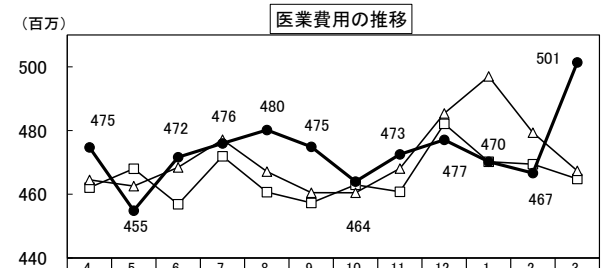
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	88%	90%	88%	93%	93%	87%	94%	90%	95%	86%	90%	94%
H.26	95%	89%	93%	94%	97%	92%	89%	89%	87%	81%	85%	95%
H.27	89%	88%	95%	97%	89%	86%	90%	85%	88%	83%	84%	87%

医業収益の推移



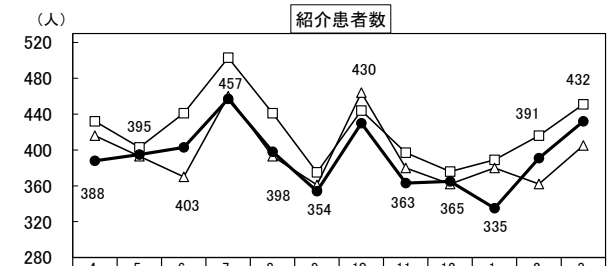
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	409	420	401	437	429	396	436	413	458	403	421	438
H.26	439	412	433	448	452	424	412	416	424	402	406	442
H.27	422	401	446	463	427	406	418	404	420	389	394	438

医業費用の推移



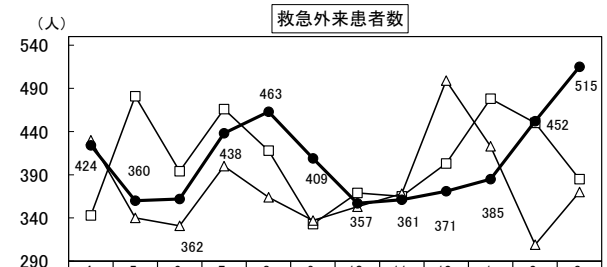
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	462	468	457	472	461	457	463	461	482	470	469	465
H.26	465	463	468	477	467	460	460	468	485	497	479	467
H.27	475	455	472	476	480	475	464	473	477	470	467	501

紹介患者数



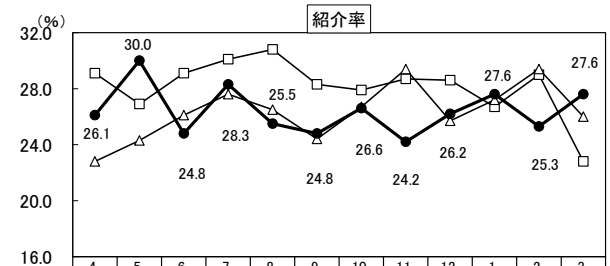
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	432	403	441	503	441	375	444	397	376	389	416	451
H.26	416	393	370	460	393	361	464	380	362	380	362	405
H.27	388	395	403	457	398	354	430	363	365	335	391	432

救急外来患者数



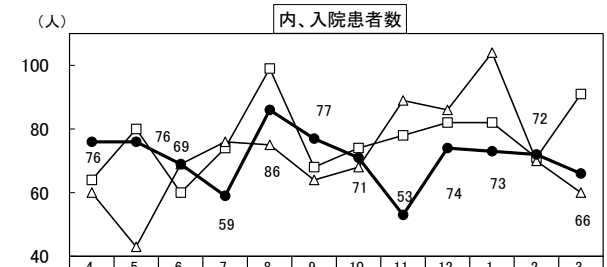
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	343	481	394	466	418	333	369	365	403	478	450	385
H.26	430	340	331	400	364	337	353	368	499	423	309	370
H.27	424	360	362	438	463	409	357	361	371	385	452	515

紹介率



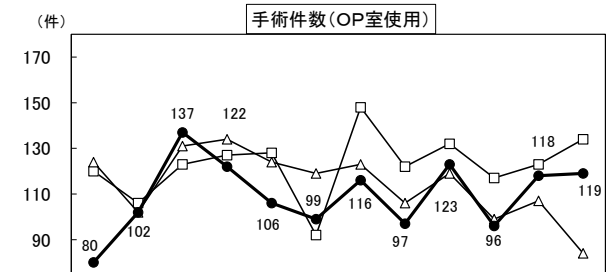
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	29.1	26.9	29.1	30.1	30.8	28.3	27.9	28.7	28.6	26.7	29.0	22.8
H.26	22.8	24.3	26.1	27.6	26.5	24.4	26.7	29.4	25.7	27.2	29.4	26.0
H.27	26.1	30.0	24.8	28.3	25.5	24.8	26.6	24.2	26.2	27.6	25.3	27.6

内、入院患者数



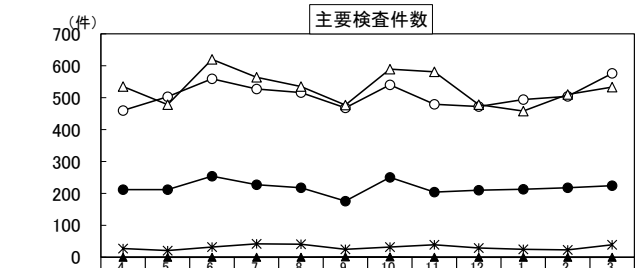
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	64	80	60	74	99	68	74	78	82	82	71	91
H.26	60	43	69	76	75	64	68	89	86	104	70	60
H.27	76	76	69	59	86	77	71	53	74	73	72	66

手術件数（OP室使用）



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H.25	120	106	123	127	128	92	148	122	132	117	123	134
H.26	124	102	131	134	124	119	123	106	119	99	107	84
H.27	80	102	137	122	106	99	116	97	123	96	118	119

主要検査件数



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
MRI	212	212	254	227	218	176	250	204	210	213	218	224
CT	460	503	559	527	516	468	540	479	472	494	504	576
心カテ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
内視鏡	535	478	620	564	535	477	589	581	478	458	510	533
造影検査	27	21	32	42	41	25	32	39	29	25	23	39

施設基準届出状況

平成２８年３月３１日現在

解釈番号	項目	点数（金額）	算定開始年月日
A234-2	感染防止対策加算１、感染防止対策地域連携加算	４００点，１００点	平成27年4月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ	２４５点	平成27年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料Ⅰ	１７５点	平成24年4月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算１（２０対１）	６４８点	平成26年11月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	１，２００点	平成21年2月1日
A237	ハイリスク分娩管理加算	３，２００点	平成21年2月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	１５０点	平成26年8月1日
A302	新生児特定集中治療室管理料２	８，１０９点	平成26年10月1日
A307	小児入院医療管理料３	３，６７０点	平成24年1月1日
B001 22	がん性疼痛緩和指導管理料	２００点，１００点	平成23年9月1日
B001 23	がん患者指導管理料１	５００点	平成26年4月1日
B001 23	がん患者指導管理料２	２００点	平成26年4月1日
D023 7	HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	３６０点	平成26年4月1日
D215 3	心臓超音波検査胎児心エコー法	１０００点	平成26年1月1日
D211-3	時間内歩行試験	２００点	平成24年6月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	７００点	平成26年8月1日
K476	乳がんセンチネルリンパ節加算２	３，０００点	平成22年6月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	１８，３７０点	平成24年4月1日
A100	一般病棟入院基本料（７対１）	１，５９１点	平成24年4月1日
A219	療養環境加算	２５点	平成21年11月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	１５０点	平成26年8月1日
K664,K939-5	胃瘻造設術、胃瘻造設時嚥下機能評価加算	６，０７０点，２，５００点	平成27年4月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算１（２０対１）	６４８点	平成26年11月1日
A234-2	感染防止対策加算２	１００点	平成22年4月1日
B005-6	がん治療連携計画策定料１	７５０点	平成23年3月1日
B001 20	糖尿病合併症管理料	１７０点	平成25年9月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	７００点	平成26年8月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算１（２０対１）	６４８点	平成26年11月1日

平成27年度　診療収入集計表(科別)

入院の部	内　科	小児科	新生児内科	外科・内視鏡外科	整形外科	産婦人科	眼　科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	放射線科	脳神経外科	合　計
平成27年4月	81,489,762	23,194,790	14,027,650	39,202,166	15,600	51,783,482	3,297,228	2,236,590	1,225,384	8,243,822		4,620	25,686,412	250,407,506
〃　5月	75,095,981	21,778,750	17,666,770	40,635,522	13,800	45,446,200	4,924,488	3,931,460	2,702,474	11,462,614		145,380	24,603,879	248,407,318
〃　6月	72,653,378	24,902,834	15,072,520	56,576,964	16,905	53,623,509	6,410,356	5,742,939	1,315,703	15,418,708		35,280	26,401,358	278,170,454
〃　7月	67,930,297	30,207,676	17,216,580	50,940,468	49,410	50,618,538	5,859,238	4,581,950	1,178,891	14,066,444		11,760	27,242,963	269,904,215
〃　8月	73,841,634	23,669,762	11,770,680	51,922,388	105,360	38,136,540	5,150,776	2,947,830	1,757,704	11,661,806			25,378,997	246,343,477
〃　9月	65,014,474	27,620,723	7,043,200	42,689,598	72,935	44,172,492	6,063,186	5,541,628	1,599,034	9,509,856		1,800	24,843,276	234,172,202
〃　10月	68,736,480	24,986,046	9,119,980	49,317,976	35,730	47,327,722	7,142,080	4,800,360	543,360	11,628,608			26,448,943	250,087,285
〃　11月	60,187,662	28,665,850	4,244,140	45,914,552	58,560	45,089,625	6,887,448	3,411,570	338,200	13,194,806		78,180	25,871,468	233,942,061
〃　12月	56,977,154	28,786,448	12,885,350	54,004,186	49,840	48,872,966	4,490,854	3,083,790	263,910	13,709,470		41,300	25,166,244	248,331,512
平成28年1月	61,330,554	23,513,718	14,109,920	42,374,588	54,255	39,252,536	5,744,870	3,243,750	811,280	13,625,604		111,720	25,743,211	229,916,006
〃　2月	59,696,814	22,177,326	12,480,522	52,757,876	17,695	41,480,674	7,409,949	4,183,895	1,990,272	8,674,836		0	25,630,311	236,500,170
〃　3月	60,225,364	19,752,202	15,460,140	53,434,006	14,995	45,208,400	5,333,304	5,958,630	196,525	10,200,998		0	26,058,125	241,842,689
合　計	803,179,554	299,256,125	151,097,452	579,770,290	505,085	551,012,684	68,713,777	49,664,392	13,922,737	141,397,572	0	430,040	309,075,187	2,968,024,895
占有率	27.1%	10.1%	5.1%	19.5%	0.0%	18.6%	2.3%	1.7%	0.5%	4.8%	0.0%	0.0%	10.4%	100.0%

外来の部	内　科	小児科	新生児内科	外科・内視鏡外科	整形外科	産婦人科	眼　科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	放射線科	脳神経外科	合　計
平成27年4月	48,897,449	42,942,244		12,350,030	3,211,773	9,053,580	4,163,960	2,775,760	2,235,980	8,734,800		3,093,560	4,173,195	141,632,331
〃　5月	50,058,125	23,492,613		10,539,280	3,439,243	7,675,708	5,198,910	2,504,450	1,709,570	8,467,300		2,500,680	3,350,331	118,936,210
〃　6月	52,254,176	29,695,182		12,278,390	3,992,715	8,709,870	5,560,019	2,623,705	2,306,936	9,586,740		2,712,325	3,701,822	133,421,880
〃　7月	58,415,584	43,601,610		16,134,110	3,542,825	8,970,264	5,872,254	2,504,410	2,394,518	10,218,914		3,310,250	3,814,886	158,779,625
〃　8月	51,734,866	45,064,383		12,022,640	3,721,033	7,694,475	5,782,490	2,569,620	2,371,182	9,077,990		2,422,800	3,118,310	145,579,789
〃　9月	50,691,450	37,421,856		15,085,350	3,285,841	8,440,064	3,716,910	2,629,000	1,868,060	10,190,874		2,864,780	2,820,385	139,014,570
〃　10月	49,821,160	29,084,516		14,358,260	3,463,003	8,867,140	6,147,470	3,415,070	2,070,330	9,291,434		4,036,870	3,871,925	134,427,178
〃　11月	48,126,500	37,677,949		13,904,290	3,015,800	8,148,335	4,451,370	3,189,700	1,864,024	9,475,010		2,659,230	3,636,562	136,148,770
〃　12月	44,235,760	46,421,747		13,651,650	3,086,782	8,277,307	5,132,520	2,479,410	1,979,560	9,185,090		2,374,610	2,847,190	139,671,626
平成28年1月	42,347,614	34,837,791		15,954,794	3,055,069	8,552,080	4,541,030	2,552,400	1,665,280	8,361,304		3,056,150	3,299,830	128,223,342
〃　2月	40,795,395	32,416,781		16,965,223	3,820,707	8,336,963	5,059,160	2,363,300	1,719,390	9,280,700		3,690,710	3,602,581	128,050,910
〃　3月	47,681,670	60,768,486		16,009,660	3,195,239	9,335,384	5,785,900	3,177,060	2,016,704	9,513,930		2,627,920	3,457,951	163,569,904
合　計	585,059,749	463,425,158	0	169,253,677	40,830,030	102,061,170	61,411,993	32,783,885	24,201,534	111,384,086	0	35,349,885	41,694,968	1,667,456,135
占有率	35.1%	27.8%	0.0%	10.2%	2.4%	6.1%	3.7%	2.0%	1.5%	6.7%	0.0%	2.1%	2.5%	100.0%
総合計	1,388,239,303	762,681,283	151,097,452	749,023,967	41,335,115	653,073,854	130,125,770	82,448,277	38,124,271	252,781,658	0	35,779,925	350,770,155	4,635,481,030
占有率	29.9%	16.5%	3.3%	16.2%	0.9%	14.1%	2.8%	1.8%	0.8%	5.5%	0.0%	0.8%	7.6%	100.0%

※（入院）の「その他」⇒『医学管理等』『在宅医療』、　「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「Ｘ線料」⇒『Ｘ線料』『放射線治療料』

※（外来）の「その他」⇒『院外処方箋料』、　「再診料」⇒『再診料』『医学管理等』『在宅医療』、　「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「Ｘ線料」⇒『Ｘ線料』『放射線治療料』

平成27年度 診療収入集計表(行為別)

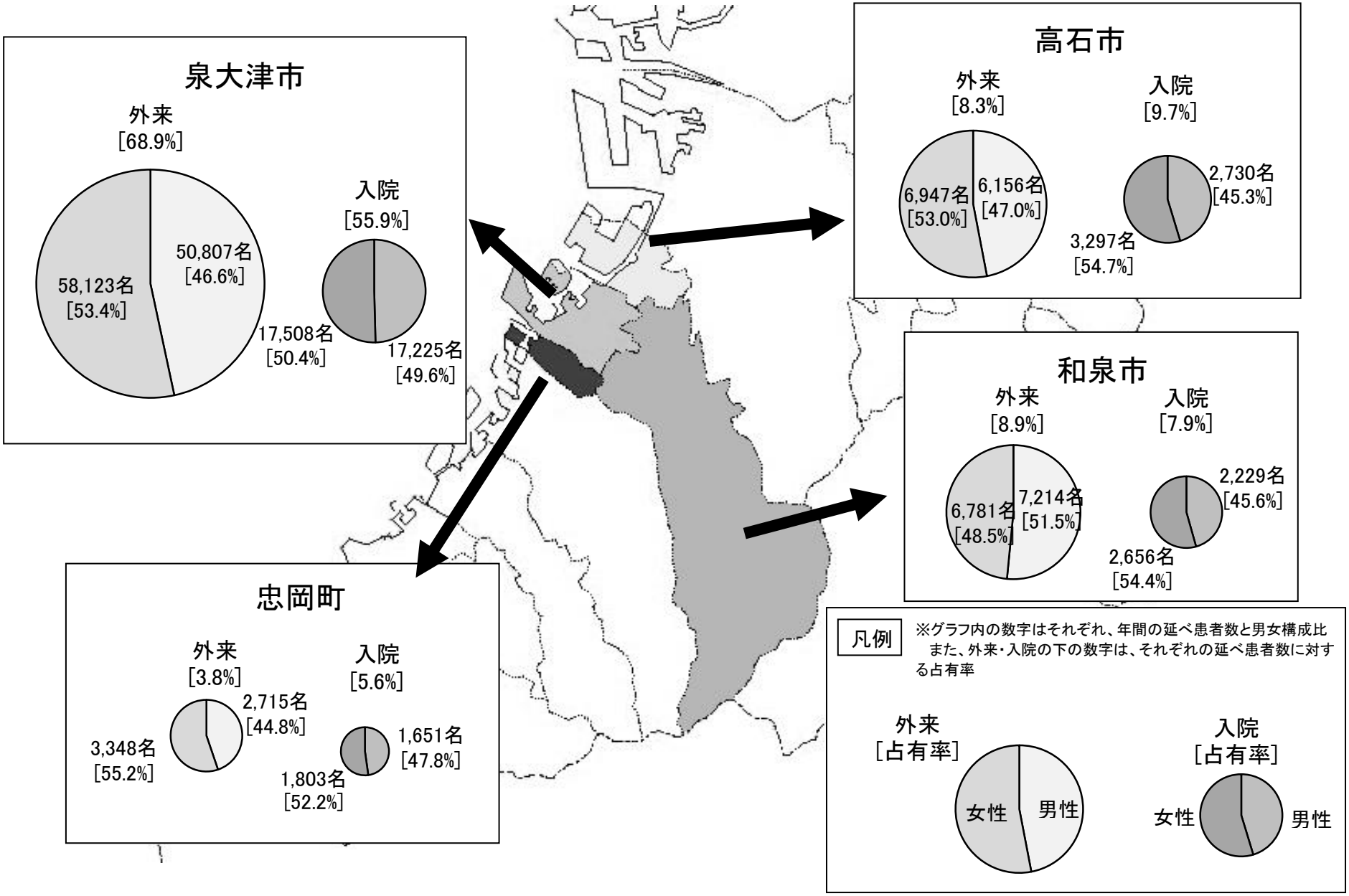
入院の部	初診料		投薬料	注射料	処置料	検査料	X線料	入院料(DPC)	入院基本料	その他	手術料	分娩料	食事療養費	入院基本加算	合計
平成27年4月	433,520		2,131,489	2,216,801	14,444,735	3,607,662	542,642	111,715,160	55,831,200	3,040,230	27,666,170	12,299,700	8,679,544	7,798,653	250,407,506
〃 5月	462,770		1,100,137	1,222,165	13,172,397	3,267,533	706,452	110,948,490	57,097,557	2,430,163	31,294,730	9,377,450	8,514,462	8,813,012	248,407,318
〃 6月	426,330		1,697,720	3,136,751	13,193,256	3,864,429	713,321	109,460,850	62,923,186	2,963,968	49,449,990	12,089,695	8,504,576	9,746,382	278,170,454
〃 7月	415,010		2,040,762	5,204,323	13,165,437	3,676,316	456,129	108,792,920	67,588,558	3,012,130	35,911,500	11,819,400	8,705,268	9,116,462	269,904,215
〃 8月	438,190		1,879,130	4,817,813	11,881,621	3,430,844	524,986	104,888,760	57,169,630	2,424,070	33,955,380	9,303,700	8,222,704	7,406,649	246,343,477
〃 9月	442,390		1,734,370	3,699,673	11,102,958	3,623,777	716,345	97,144,010	55,685,025	3,117,138	30,202,320	11,204,400	7,602,616	7,897,180	234,172,202
〃 10月	453,710		1,971,000	2,441,072	11,234,506	3,644,884	529,078	104,979,480	59,012,286	2,657,988	35,310,100	10,524,700	8,069,134	9,259,347	250,087,285
〃 11月	408,480		1,486,920	1,736,587	10,478,354	3,547,667	680,588	93,881,410	57,268,988	2,201,561	36,422,530	11,105,100	7,200,262	7,523,614	233,942,061
〃 12月	503,740		2,047,400	2,287,195	10,482,436	3,577,095	726,145	98,305,550	62,778,468	2,692,035	36,611,940	11,925,730	7,699,297	8,694,481	248,331,512
平成28年1月	448,870		1,544,048	2,362,985	9,904,967	3,198,071	825,101	97,921,930	54,536,468	2,215,840	31,190,060	9,122,700	7,590,437	9,054,529	229,916,006
〃 2月	396,520		1,824,593	2,173,432	10,570,180	3,772,065	629,429	90,549,900	59,363,708	2,695,266	37,694,080	11,052,207	7,700,047	8,078,743	236,500,170
〃 3月	373,310		2,068,519	1,996,405	10,767,356	3,232,428	661,012	96,328,970	59,791,651	3,164,988	37,221,430	10,561,050	7,479,173	8,196,397	241,842,689
合計	5,202,840		21,526,088	33,295,202	140,398,203	42,442,771	7,711,228	1,224,917,430	709,046,725	32,615,377	422,930,230	130,385,832	95,967,520	101,585,449	2,968,024,895
占有率	0.2%		0.7%	1.1%	4.7%	1.4%	0.3%	41.3%	23.9%	1.1%	14.2%	4.4%	3.2%	3.4%	100.0%

外来の部	初診料	再診料	投薬料	注射料	処置料	検査料	X線料			その他	手術料				合計
平成27年4月	6,109,220	37,160,346	371,184	19,922,628	15,174,990	41,811,100	13,755,269			4,550,860	2,776,734				141,632,331
〃 5月	5,292,980	23,792,321	361,174	16,270,956	16,030,072	36,686,264	13,943,799			3,893,574	2,665,070				118,936,210
〃 6月	6,105,350	28,673,380	282,478	14,246,642	16,543,305	44,076,485	15,342,180			4,478,770	3,673,290				133,421,880
〃 7月	6,455,747	42,043,825	357,794	21,453,236	16,681,707	45,715,896	15,716,168			4,567,092	5,788,160				158,779,625
〃 8月	6,715,335	42,419,345	304,882	15,904,440	15,936,980	41,661,059	14,625,318			4,355,200	3,657,230				145,579,789
〃 9月	5,526,600	34,195,850	310,708	23,349,760	16,335,710	38,712,990	13,115,264			4,215,928	3,251,760				139,014,570
〃 10月	6,135,650	26,378,905	248,766	18,717,130	15,490,840	42,238,446	16,968,787			4,548,674	3,699,980				134,427,178
〃 11月	5,631,090	32,281,085	274,640	22,142,455	13,503,685	40,070,594	14,369,677			4,186,724	3,688,820				136,148,770
〃 12月	5,408,275	39,687,420	328,662	21,182,650	12,821,020	39,431,472	13,443,215			4,416,682	2,952,230				139,671,626
平成28年1月	4,820,125	29,345,450	590,063	23,817,800	11,576,050	36,907,540	14,045,570			4,019,334	3,101,410				128,223,342
〃 2月	6,255,595	21,072,225	688,609	26,960,931	10,101,978	40,390,430	14,894,452			4,314,770	3,371,920				128,050,910
〃 3月	6,580,310	50,292,095	576,622	24,889,186	12,674,135	44,313,336	15,181,663			4,581,958	4,480,599				163,569,904
合計	71,036,277	407,342,247	4,695,582	248,857,814	172,870,472	492,015,612	175,401,362			52,129,566	43,107,203				1,667,456,135
占有率	4.3%	24.4%	0.3%	14.9%	10.4%	29.5%	10.5%			3.1%	2.6%				100.0%
総合計	76,239,117	407,342,247	26,221,670	282,153,016	313,268,675	534,458,383	183,112,590	1,224,917,430	709,046,725	84,744,943	466,037,433	130,385,832	95,967,520	101,585,449	4,635,481,030
占有率	1.6%	8.8%	0.6%	6.1%	6.8%	11.5%	4.0%	26.4%	15.3%	1.8%	10.1%	2.8%	2.1%	2.2%	100.0%

※(入院)の「その他」⇒『医学管理等』『在宅医療』、 「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』

※(外来)の「その他」⇒『院外処方箋料』、 「再診料」⇒『再診料』『医学管理等』『在宅医療』、 「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』

地域別・男女別患者数（平成27年度・年間）



疾病別大分類統計表（退院月別）

2016. 3. 31現在

分類		コード	4月			5月			6月			7月			8月			9月			上半期合計			
			件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数
Ⅰ	感染症および寄生虫症	A00-B99	22	9.0	1	20	9.5	1	20	8.3		30	7.9		31	6.4		16	8.3	1	139	4.9%	8.2	3
Ⅱ	新生物	C00-D48	58	14.1	4	46	13.7	4	69	14.7	3	71	12.4	6	68	15.1	4	55	13.7	4	367	13.0%	14.0	25
Ⅲ	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	5	15.0		5	27.0		7	13.4		6	16.7		7	7.4	2	6	23.8		36	1.3%	17.2	2
Ⅳ	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	22	6.5		7	13.1		12	9.0		22	7.0		18	7.5		15	14.0	1	96	3.4%	9.5	1
Ⅴ	精神および行動の障害	F00-F99				1	15.0		1	5.0		1	29.0		1	66.0		1	9.0		5	0.2%	20.7	
Ⅵ	神経系の疾患	G00-G99	18	11.4		11	82.4		13	11.1		9	30.2		16	13.8	2	8	3.9		75	2.7%	25.5	2
Ⅶ	眼および附属器疾患	H00-H59	12	2.3		15	3.1		23	3.1		20	3.1		17	2.8		20	3.1		107	3.8%	2.9	
Ⅷ	耳および乳様突起の疾患	H60-H95	2	10.0		6	4.0		4	6.5		6	7.8		8	7.0		6	10.7		32	1.1%	7.7	
Ⅸ	循環器系の疾患	I00-I99	19	22.8	2	13	23.3		19	17.2		14	21.2		21	18.1	1	16	32.1	3	102	3.6%	22.5	6
Ⅹ	呼吸器系の疾患	J00-J99	78	10.5	2	81	11.8	6	67	10.4	1	73	8.9		63	10.5	1	82	11.5	4	444	15.8%	10.6	14
ⅩⅠ	消化器系の疾患	K00-K93	56	13.2	1	61	8.8		86	8.5		88	9.0	2	78	7.8		76	6.0		445	15.8%	8.9	3
ⅩⅡ	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	5	22.2		4	8.5		2	35.5		3	8.0		2	4.5		7	31.7		23	0.8%	18.4	
ⅩⅢ	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	5	14.2		2	9.0					4	8.5		4	11.3		8	12.5		23	0.8%	9.3	
ⅩⅣ	尿路性器系の疾患	N00-N99	30	18.4	1	31	11.1		32	12.8		33	10.8		30	9.7		32	13.0		188	6.7%	12.6	1
ⅩⅤ	妊娠、分娩および産褥	O00-O99	92	6.0		84	7.5		94	9.4		94	9.0		73	5.7		70	8.2		507	18.0%	7.6	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	P00-P96	27	7.9		22	7.9		25	11.8		22	9.4		26	11.3		18	6.2		140	5.0%	9.1	
ⅩⅦ	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-Q99	3	3.7		1	3.0		11	9.0		3	4.0		10	6.4		4	4.0		32	1.1%	5.0	
ⅩⅧ	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99				2	3.0		3	6.3		1	5.0		1	3.0					7	0.2%	2.9	
ⅩⅨ	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	5	5.4		5	187.0		7	5.1		12	10.2		6	3.2		10	103.2		45	1.6%	52.4	
ⅩⅩ	傷病および死亡の外因	V01-Y98																						
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	Z00-Z99																						
ⅩⅩⅡ	特殊目的用コード	U00-U89																						
合計			459	10.9	11	417	14.3	11	495	10.5	4	512	10.0	8	480	9.6	10	450	12.9	13	2,813	100%	12.0	57

分類		コード	10月			11月			12月			1月			2月			3月			下半期合計				総合計			
			件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数
Ⅰ	感染症および寄生虫症	A00-B99	22	8.1		26	9.2		17	5.9		15	8.7	1	15	7.1		19	7.1		114	4.2%	7.7	1	253	4.6%	7.9	4
Ⅱ	新生物	C00-D48	70	17.0	9	73	15.3	9	75	14.0	3	64	14.4	6	62	13.0	4	71	14.0	6	415	15.3%	14.6	37	782	14.2%	14.3	62
Ⅲ	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	4	29.3		3	8.3		1	19.0		4	17.0	1	6	19.7		9	15.8		27	1.0%	18.2	1	63	1.1%	17.3	3
Ⅳ	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	17	12.4		3	3.0		16	10.2		9	11.7		7	22.4		16	7.0		68	2.5%	11.1		164	3.0%	9.8	1
Ⅴ	精神および行動の障害	F00-F99													1	5.0		1	3.0		2	0.1%	1.3		7	0.1%	18.9	
Ⅵ	神経系の疾患	G00-G99	10	12.1		11	10.2		6	183.2		11	10.9		14	3.4		15	69.1		67	2.5%	48.2		142	2.6%	30.4	2
Ⅶ	眼および附属器疾患	H00-H59	28	3.0		23	2.7		20	2.6		15	4.4		22	4.8		17	3.0		125	4.6%	3.4		232	4.2%	3.2	
Ⅷ	耳および乳様突起の疾患	H60-H95	5	7.4		3	4.3		7	14.6		7	7.3		7	8.4		6	7.5		35	1.3%	8.3		67	1.2%	8.1	
Ⅸ	循環器系の疾患	I00-I99	14	18.7	1	14	17.4	2	17	14.2		14	12.5		14	25.6		13	17.4	2	86	3.2%	17.6	5	188	3.4%	20	11
Ⅹ	呼吸器系の疾患	J00-J99	89	9.7	1	83	10.0	1	105	9.6	1	100	10.5	2	82	9.6	3	74	11.8	2	533	19.7%	10.2	10	977	17.7%	10.4	24
ⅩⅠ	消化器系の疾患	K00-K93	81	7.8	1	73	6.3	1	66	8.9	2	52	7.4		58	7.3		76	7.2		406	15.0%	7.5	4	851	15.4%	8.1	7
ⅩⅡ	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	2	6.0		4	9.0		6	7.7		2	9.5		9	9.9		1	16.0		24	0.9%	9.7		47	0.9%	14.7	
ⅩⅢ	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	1	9.0		8	19.9		7	10.6		5	12.2		2	19.0		6	24.8		29	1.1%	15.9		52	0.9%	14.6	
ⅩⅣ	尿路性器系の疾患	N00-N99	26	6.4	1	21	18.0	2	25	5.8		29	18.3	2	19	12.9		22	10.1		142	5.2%	11.9	5	330	6.0%	12.3	6
ⅩⅤ	妊娠、分娩および産褥	O00-O99	80	9.4		74	6.9		88	8.2		71	7.4		70	8.5		69	7.8		452	16.7%	8.0		959	17.4%	7.9	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	P00-P96	21	7.0		21	7.5		17	5.8		19	14.1		21	12.8		20	9.6		119	4.4%	9.5		259	4.7%	9.4	
ⅩⅦ	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-Q99	4	2.5		3	2.7		6	7.5		1	3.0		5	6.0		1	2.0		20	0.7%	4.0		52	0.9%	5.8	
ⅩⅧ	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	1	5.0		1	5.0		1	5.0											3	0.1%	2.5		10	0.2%	4.8	
ⅩⅨ	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	3	3.3		11	118.4		6	7.2		1	2.0		9	8.1		9	367.9		39	1.4%	84.5		84	1.5%	82.3	
ⅩⅩ	傷病および死亡の外因	V01-Y98																									
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	Z00-Z99																									
ⅩⅩⅡ	特殊目的用コード	U00-U89																									
合計			478	10.0	13	455	12.4	15	486	11.5	6	419	10.7	12	423	10.2	7	445	19.3	10	2,706	100%	13.4	63	5,519	100%	11.8	120

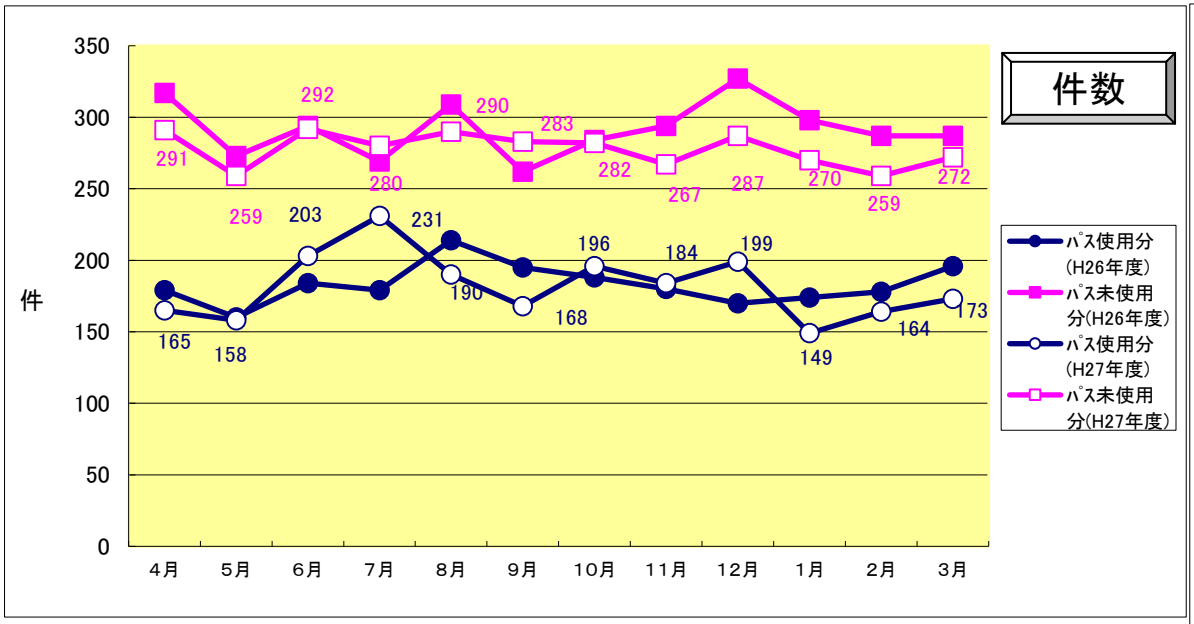
クリニカルパス統計資料[No. 1]

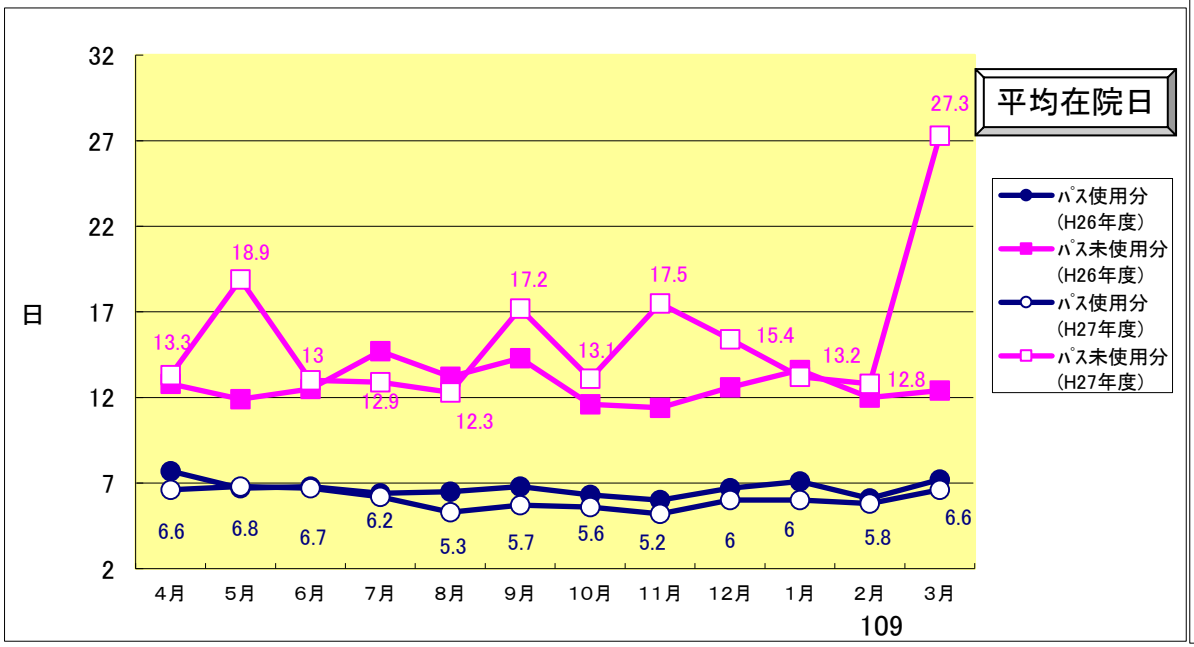
診療科	パス名		H27.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	合計
泌尿器科	BCG膀胱注入	件数	1			2									3
		平均在院日数(日)	16.0			7.5									10.3
泌尿器科	D-J挿入・交換	件数	1	2		1			2		1	2			9
		平均在院日数(日)	2.0	5.5		2.0			2.0		8.0	2.0			3.4
泌尿器科	D-J挿入・交換・ESWL	件数		1								1			2
		平均在院日数(日)		3.0								3.0			3.0
内科	DM教育入院	件数	7	1	4	4	2	4	4		3	1	3	5	38
		平均在院日数(日)	12.1	10.0	10.0	11.5	10.0	10.8	12.3		12.3	19.0	12.0	10.4	11.5
内科	DM地域連携	件数						1							1
		平均在院日数(日)						11.0							11.0
泌尿器科	ESWL	件数	2	6	7	7	7	8	9	6	10	4	2	4	72
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	3.1	3.1	3.7	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.4
外科	PEG(胃瘻造設)	件数		1			1								2
		平均在院日数(日)		6.0			8.0								7.0
外科	PEG(胃瘻交換)	件数	1		1		1						2		5
		平均在院日数(日)	6.0		5.0		5.0						5.0		5.2
泌尿器科	TUR-BT	件数	9	1	4	4	4	4	5	1	2	4	7	4	49
		平均在院日数(日)	11.9	7.0	10.8	11.8	9.4	12.5	8.4	12.3	7.5	9.0	15.9	7.8	11.0
泌尿器科	TUR-P	件数	1	1		3	1		2			1			9
		平均在院日数(日)	15.0	17.0		20.0	21.0		12.0			10.0			16.3
耳鼻咽喉科	アデノイド・チュービング	件数				1		1			1			1	4
		平均在院日数(日)				3.0		3.0			3.0			3.0	3.0
外科	ジオン注(ALTA)	件数	1	3	2	3	3	3	1	2	5	1	4	1	29
		平均在院日数(日)	3.0	2.7	2.0	2.0	2.3	2.7	4.0	2.5	2.6	2.0	3.8	3.0	2.7
外科	ストーマ閉鎖術	件数	1							2					3
		平均在院日数(日)	26.0							15.0					18.7
外科	ソケイヘルニア	件数	1	3	3	2	4	2	3	1	6	1	5	1	32
		平均在院日数(日)	8.0	5.7	7.0	6.0	4.8	7.0	5.7	12.0	6.8	6.0	5.8	4.0	6.3
外科	ヘルニア(腹腔鏡下)	件数	1	2	2		5	2		4	1	1	2	5	25
		平均在院日数(日)	6.0	5.0	8.0		7.2	6.5		6.0	6.0	4.0	6.0	4.8	6.0
内科	ポリペク	件数	2		1										3
		平均在院日数(日)	2.0		3.0										2.3
内科	ポリペク後(内・外)	件数	7	13	20	33	27	23	20	30	14	16	15	23	241
		平均在院日数(日)	3.6	2.1	2.2	2.1	2.0	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.3	2.1
外科	ラパロ(単純嚢腫)	件数										1			1
		平均在院日数(日)										5.0			5.0
外科	ラパロ(皮様嚢腫)	件数	1												1
		平均在院日数(日)	6.0												6.0
脳神経外科	ルンバール	件数	8	2	3	3	5	3	7	6	1	1	2	2	43
		平均在院日数(日)	2.0	5.0	2.0	16.0	2.0	2.3	2.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.2
内科	胃ESD(内科)	件数	3	4	3	5	1	1	1	1	3	2	5	2	31
		平均在院日数(日)	10.7	9.5	8.7	10.2	8.0	8.0	10.0	4.0	9.7	8.5	9.0	7.0	9.1
外科	胃切除術(腹腔鏡下)	件数					2			1	1	1		1	6
		平均在院日数(日)					23.5			21.0	15.0	23.0		15.0	20.2
外科	胃切除術(全摘出術)	件数			3	1						1			5
		平均在院日数(日)			20.7	42.0						47.0			30.2
外科	胃切除術(部分切除術)	件数			1	1					1	4		1	8
		平均在院日数(日)			32.0	18.0					15.0	21.0		19.0	21.0
外科	胃瘻造設	件数				1									1
		平均在院日数(日)				6.0									6.0

診療科	パス名		H27.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	合計
外科	胃瘻交換	件数							1	1					2
		平均在院日数(日)							6.0	5.0					5.5
産婦人科	開腹手術(子宮・卵巣)	件数		4	1	2		1	3	1	1	1	2	2	18
		平均在院日数(日)		10.0	10.0	9.5		9.0	10.7	10.0	7.0	8.0	2.0	10.5	8.9
	肝局所療法	件数			1										1
		平均在院日数(日)			7.0										7.0
内科	気管支鏡検査	件数	1	1	4	4	6	3	8	2	3	3	2	3	40
		平均在院日数(日)	3.0	2.0	4.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	3.0	2.0	2.4
産婦人科	稽留流産	件数	2												2
		平均在院日数(日)	1.0												1.0
外科	結腸切除術	件数	2	5	5	3	2	2	2	2	7	1	1	3	35
		平均在院日数(日)	21.5	25.6	22.4	18.0	17.5	13.5	12.5	15.0	18.0	17.0	22.0	16.3	19.1
外科	喉頭又は声帯ポリープ切除術	件数									1		1		2
		平均在院日数(日)									3.0		4.0		3.5
産婦人科	産褥	件数	57	48	54	54	47	46	51	47	57	42	51	47	601
		平均在院日数(日)	6.5	7.0	7.1	6.6	6.6	6.6	6.9	6.6	7.2	6.9	6.5	6.9	6.8
外科	痔核根治術(ヘモ)	件数		3	6	4	6	5	2	2	2	2	2		34
		平均在院日数(日)		19.7	6.7	4.8	4.7	5.8	2.5	5.0	7.5	5.0	7.0		6.8
産婦人科	子宮筋腫(開腹)	件数					2								2
		平均在院日数(日)					9.5								9.5
産婦人科	子宮頸部円錐切除術	件数		1			1		1	1	2	1			7
		平均在院日数(日)		5.0			5.0		5.0	4.0	4.5	4.0			4.6
外科	虫垂切除術(小児)	件数					1								1
		平均在院日数(日)					4.0								4.0
外科	虫垂切除術(腹腔鏡下)(小児)	件数				2			1	2		1			6
		平均在院日数(日)				4.0			6.0	5.5		6.0			5.2
外科	小児ヘルニア	件数	3	3	4	3	3	3	4	2	2	1	1	2	31
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
産婦人科	人工中絶	件数	2	7	5	3	4	1	4	3	6	5	1	1	42
		平均在院日数(日)	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.8	1.0	1.0	1.6	1.0	1.0	1.2
内科	睡眠時無呼吸検査	件数	1		1		1	1				2	2	4	12
		平均在院日数(日)	2.0		2.0		2.0	2.0				2.0	2.0	2.0	2.0
外科	成人ヘルニア	件数	2					1		1					4
		平均在院日数(日)	8.0					6.0		5.0					6.8
泌尿器科	精巣固定術	件数							1	1					2
		平均在院日数(日)							2.0	2.0					2.0
小児科	成長ホルモン分泌試験	件数	2			8	3		1	1	5			2	22
		平均在院日数(日)	1.5			1.1	1.0		1.0	1.0	1.0			1.0	1.1
泌尿器科	前立腺生検術	件数	1	1	5	9	4	4		3	5	5	6	2	45
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
内科	大腸ESD(内科)	件数									1				1
		平均在院日数(日)									5.0				5.0
外科	胆嚢摘出術(腹腔鏡下)	件数	4	3	5	2	2	1	2	2	5	1	6	6	39
		平均在院日数(日)	11.3	6.3	10.4	7.5	7.0	8.0	9.5	4.5	9.0	9.0	9.2	7.5	8.6
外科	胆嚢摘出術(開腹)	件数					1				1				2
		平均在院日数(日)					22.0				8.0				15.0
外科	虫垂切除術	件数		1	1				2	1			1		6
		平均在院日数(日)		11.0	22.0				6.5	9.0			5.0		10.0
外科	直腸低位前方切除術	件数						1			1				2
		平均在院日数(日)						19.0			14.0				16.5
産婦人科	帝王切開	件数	10	6	6	13	6	7	9	10	8	4	6	8	93
		平均在院日数(日)	8.5	9.5	26.3	16.2	9.7	10.4	13.2	9.1	10.0	11.0	12.0	19.0	12.9
外科	乳管・乳腺腫瘍	件数			1										1
		平均在院日数(日)			5.0										5.0

診療科	パス名		H27.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	合計
外科	乳癌(乳房温存療法)	件数		1	2	3	4	1	1	2	1	2	2	4	23
		平均在院日数(日)		22.0	6.5	7.0	7.5	6.0	6.0	9.0	6.0	6.0	5.0	6.3	7.4
外科	乳癌(乳房切除術)	件数	4	2	1	3	3	2	4	7	3	2		4	35
		平均在院日数(日)	9.0	9.0	5.0	8.0	9.3	10.5	10.8	8.3	8.0	5.5		8.0	8.6
外科	肺葉切除術(胸腔鏡下)	件数		1	5	3	1	4	2	2	3	5	3	2	31
		平均在院日数(日)		16.0	9.0	9.3	4.0	7.0	8.0	13.0	13.3	10.4	10.3	16.5	10.3
外科	肺葉切除術(開胸)	件数		1					1						2
		平均在院日数(日)		8.0					19.0						13.5
眼科	白内障(火曜片目)(DM)	件数	1												1
		平均在院日数(日)	3.0												3.0
眼科	白内障(当日片目)	件数	5	10	17	13	15	18	21	19	16	10	12	12	168
		平均在院日数(日)	3.0	3.0	2.9	3.0	3.0	2.9	3.0	2.8	2.9	2.8	2.8	3.0	2.9
眼科	白内障(当日片目)(DM)	件数	1			2									3
		平均在院日数(日)	3.0			3.0									3.0
眼科	白内障(当日両目)	件数			1			1							2
		平均在院日数(日)			8.0			8.0							8.0
眼科	白内障(日帰り)	件数	4	4	3	3	1		4	3	3	1	5	3	34
		平均在院日数(日)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.7	1.1
耳鼻咽喉科	鼻内視鏡手術	件数	2	3	6	5	3	3	8	4	3	5	4	5	51
		平均在院日数(日)	4.0	4.3	5.2	4.4	5.7	17.0	5.0	4.0	4.0	4.2	4.5	4.2	5.3
産婦人科	分娩前	件数	1	2	4	1	3	1			1	1	3	1	18
		平均在院日数(日)	1.0	2.0	1.5	1.0	1.3	1.0			1.0	1.0	1.7	1.0	1.4
外科	虫垂切除術(腹腔鏡下)	件数		3	2					1	2	2	1	1	12
		平均在院日数(日)		5.0	14.0					4.0	6.5	9.0	5.0	9.0	7.7
外科	胃全摘術(腹腔鏡下)	件数	2							2	1				5
		平均在院日数(日)	18.0							16.5	21.0				18.0
外科	直腸低位前方切除術(腹腔鏡下)	件数	1	3		4	2	2	2	1	1	1		4	21
		平均在院日数(日)	16.0	28.0		17.3	14.5	25.0	21.5	28.0	9.0	15.0		22.5	20.6
産婦人科	流産手術	件数	7	2	7	8	3	5	6	5	6	9	2	3	63
		平均在院日数(日)	1.1	1.5	1.0	1.0	1.0	1.4	1.0	1.4	1.2	1.0	1.0	1.0	1.1
耳鼻咽喉科	扁桃腺摘出術(小児)	件数	2			6	2	1			1		1	2	15
		平均在院日数(日)	5.0			5.0	4.5	5.0			5.0		5.0	7.0	5.2
耳鼻咽喉科	扁桃腺摘出術(成人)	件数	1	2	1		1			1			1		7
		平均在院日数(日)	8.0	5.5	8.0		5.0			5.0			8.0		6.4
産婦人科	腹腔鏡下手術(卵巣嚢腫・子宮外妊娠)	件数		1	1	2		2	1	1	2		1	1	12
		平均在院日数(日)		5.0	6.0	7.5		5.5	6.0	6.0	4.5		7.0	7.0	6.0
小児科	川崎病	件数												1	1
		平均在院日数(日)												20.0	20.0
	計	件数	165	158	203	231	190	168	196	184	199	149	164	173	2,180
		平均在院日数(日)	6.6	6.8	6.7	6.2	5.3	5.7	5.6	5.2	6.0	6.0	5.8	6.6	6.0

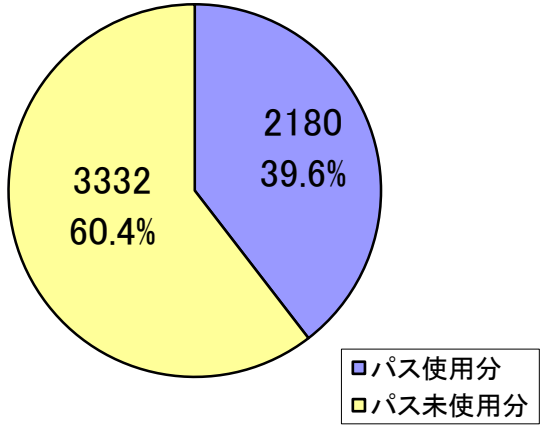
クリニカルパス統計資料[No. 2]



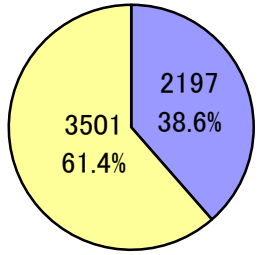


109

平成27年度[年間]



平成26年度[年間]



8
地域医療連携室

８．地域医療連携室

【概　要】

平成27年度は、年度目標として堅実に泉大津市関連医療機関からの紹介件数の増加に取り組みました。

その為に地域の医療機関へ地域医療連携室長・各室長補佐・各科副院長等の医師帯同による渉外活動を積極的に行い、医療機関（泉大津市関連医療機関）からの紹介件数は4435件と昨年度を大きく上回りました。また、NASVA委託病床については開設後3年を経過し、入院患者の退院時期を迎えました。当室では広報活動、入退院に係る調整等を継続的に実施し、年間を通してほぼ満床運用となりました。

一方、後方連携業務では医療ソーシャルワーク業務を中心にがん相談支援センター業務を含め、各種相談援助業務の取り組みを継続しています。

来年度は土曜日午前における前方連携業務の運用開始や、がん診療地域連携パスの運用を促進することで、より効率的ながん医療提供体制を推進し、地域医療連携システムの更なる構築を目指していきます。

【職員構成】

○室　　長　：竹林　忠洋　（診察局次長）
○医　　師　：庄野　嘉治　（部長）
（室長補佐）　早川　剛　　（部長）
○事 務 職 員：寺内　淳　（室長補佐）
○看　護　師　：城家　優子
○Ｍ　Ｓ　Ｗ　：平松　大和
　　西本　卓司
　　眞鍋　一美
　　古志　麻由香
　　鎌田　裕加里
○事 務 職 員：北野　真由美
○予約センター：法橋　知子
　　加川　ひとみ

【業務実績】　≪平成２７年度集計≫

○予約センター（予約関連業務※）

１４，４１７件

※診療予約・予約変更・予約確認、問い合わせ、担当科へ取次ぎを含む。

○医療機関からの診療予約

１，４８１件

○医療機関からの検査予約

検 査 内 容	件　数
ＭＲＩ	６１５
Ｃ　Ｔ	４４１
上部消化管内視鏡	６７６
下部消化管内視鏡	５１０
腹部エコー	３５
胃　透　視	0
ＰＥＧ造設 ＰＥＧ交換	6
甲状腺エコー	7
脳　　波	6
注　　腸	1
頚動脈エコー	9
心 エ コ ー	１０
そ の 他	２９
合　　計	２，３４５

○医療相談　（地域医療連携室対応分）

相 談 内 容	件　数
入院・外来について	１，２９５
病診連携について	１２，９３７
医療・福祉に関して	６６８
料金について	３３
苦情	6
その他	１，０６２
合　　計	１６，００１

平成２７年度　病院年報

発　行　　泉大津市立病院
泉大津市下条町１６番１号